

## Ⅶ おわりに

『沿革史資料番外メモ』の項目の多くは、往復文書綴にファイルされた文書を、資料の中心に置いてまとめた。

筆者は千演在任中に、ここに取り上げた項目のおよそを想定し、往復文書綴からの書き抜きメモと、必要と思われる文書のコピーを準備した。1989年に定年退職し、間もなく原稿執筆にかかったが、しばしば千演に不足資料の探索をお願いし、ついには施業沿革史のコピーまでお送りいただいた。こうした千演関係者のご理解とご援助によって、いちおう『番外メモ』を完成することができた。

ここに、千演前林長山根明臣教授、千演現林長大里正一教授をはじめ、千演の多くの方々に、長きにわたりおかけしたご迷惑を深くお詫びし、たまわった数々のご厚情に心からお礼申しあげます。

メモ執筆の当初は、1ないし2年間程度で原稿を完成し、百周年の一参考資料にできればと考えていた。しかし、締切のない気安さから中断しがちで、歳月ばかりがたちまちに流れ、とうとう百周年にあたる1994年も過ぎてしまった。原稿はまとめたものの、いまだ、文献、資料の探索、検討の不十分さが気になる。

内容の誤り、欠落など、お気付きの点がありましたら、ぜひとも筆者あて、ご指摘下さるようお願い申しあげます。

なお『番外メモ』の執筆に利用した資料の大部分は、千演提供分を含め、整理して千演にお渡しした。

この章の【Ⅶ-1 千葉演習林私記-あとがきに代えて-】は、かねて筆者が千演および東大演習林について懐き、この『番外メモ』を作成する過程で、いっそう感じた事項の一端である。



巻末の【Ⅶ-2 年表(1892年~1970年)】は、『番外メモ』の関連事項に中心を置いて編集した。なお各年の欄外に、研究・教育関連事項を記載して、この面の変遷を知る一資料としたが、脱落が多いと思われる。

千演全般にわたる完全な年表の作成には、記載事項の取捨選択、補完にくわえ、植伐、収支、人事などに関係する事項の充実が必要と考えられる。年表を1970年までとしたのは、『往復文書綴』の内容が貧弱になり、『番外メモ』の記述が少なくなるからである。なお、前年の1969年は、千演75周年にあたるが、渡辺資仲林長の定年退官、東大紛争の激化などがあり、ふりかえれば時代のひとつの節目であったと思われる。

## Ⅶ-1 千葉演習林私記

### —あとがきに代えて—

#### (1) はじめに

東京大学農学部附属演習林の歴史は、1894/M27年の千葉演習林創設に始まる。したがって、東大演習林創設百周年は、千葉演習林の百周年でもある。

百年の歴史のほぼ中央、1945/S20年に敗戦があり、前半の東京『帝国』大学時代の演習林と、後半の『帝国』が取れてからの演習林とのあいだには、量的にはもちろん、質的にも大きな変化があった。

前半の約五十年は千演の創設に始まり、北演、台演、江演、全演、樺演、秩演、愛演、富士演、熱研、樹研と増設を重ねる。演習林総面積は、広大な植民地演習林を含め、25万 ha 以上に達した。演習林の主要な役割は、もちろん林学、林業の教育、研究にあったが、そのほかこの時代には、大学の基本財産林としての林業経営、北演および植民地演習林での拓殖事業がみられる。

後半の約五十年は、敗戦による植民地演習林の喪失とともに始まる。戦後の緊急開拓による農地転換もあって、演習林の総面積は3万余 ha に激減した。戦後の窮乏期や、大学紛争による混乱期などの紆余曲折はあったが、各地方演ごとの基盤整備が進み、それぞれの特色を生かした研究、教育がさかんに行われるようになった。近年は、林業を取り巻く状況の変化、環境問題への関心の高まりなどから、森林を資源と環境の両面から考える傾向が一段と強い。演習林での研究も、従来の林学、林業中心から、森林生態系にかかわる諸科学を含めた、広い学問分野へと急速に展開しつつある。

『沿革史資料番外メモ』は、主として百年の前半と、後半の初めの期間を扱った。以下の記述も、前半時代を中心とする。



## (2) 東大演習林の歩み

[創設まで]

1892/M25年12月、本多静六助教授は、学生実地指導旅行で房総方面を巡った。この時の知見が、清澄周辺に大学演習林を創設するきっかけとなる。鹿野山から奥山官林を経て清澄に至った本多は、浅間山と周辺の林相に感動、東京に比較的近い、この地こそ演習林にふさわしいとして、演習林設置の議を起こした<sup>6)</sup>。

本多には、演習林設置の理由として、実習研究用と同時に、基本財産林として、林学科百年永続の財政的基盤にしたいとの考えがあった。本多は、東京山林学校、東京農林学校林学部、帝国大学農科大学林学科と、短期間に大きく変化した教育制度と機関の下で林学を修め、諸学校の興廃を目のあたりにした。それゆえ、大学を財政面から強固にする基本財産を重要視し、演習林をこれにあてようとしたのである<sup>6,7)</sup>。こうした考えは、演習林の設置、運営に関係した、当時の大学人に共通したもののように思われる。

本多の発議による演習林の創設は、東京大林区署長兼務の志賀泰山教授や、濱尾新総長らの尽力で実現、清澄官林3百余haでの千葉演習林発足となる。日清戦争さなかの1894/M27年11月29日のことであった。

日清戦争を境に、日本は『圧迫される国』から『圧迫する国』へ鮮明に転換したとされる。

日本と清国の軍隊の衝突は、この年6月、双方からの朝鮮出兵に始まり、8月1日、宣戦布告、9月15日、平壤総攻撃、9月17日、黄海海戦、11月22日、旅順占領と日本軍の優勢が続いた。11月29日には、明治天皇が積極攻勢派の第一軍司令官山縣有朋を召還、戦線の拡大にブレーキをかけ、軍事的勝利を確実にした<sup>10)</sup>。

『圧迫する国』への転換が、いわば確定した日に、東大演習林は発足した。このことは、その後50年間、植民地へ拡張を続けた演習林の進路を暗示していたように思われる。

勝海舟は日清戦争を『無名の師』(名義の立たない戦争)であったと論じ、明治天皇が開戦にあたり消極的であったのは、同じ理由からとされる。主戦派は世論の反発を恐れ、戦争を実際に始めるまでに2ヶ月間を要した。しかし、開戦してみると勝利の連続で、尾崎行雄の言う『雷同附和』の世論による挙国一致態勢となる<sup>10)</sup>。

本多は清国への宣戦布告を、実地指導旅行中の青森県下で知った。戦争の前途に不安をもった本多は、義勇軍としての従軍希望建白書を、本科学生、乙科生徒との連名で、大学総長と陸軍大臣に提出したという<sup>8)</sup>。



### 〔創設期〕

以上のような経緯で発足した千演であったが、当時、農科大学内では『経費がないから大きな山や原野をもらっても困る』と、演習林設置には反対の声が多かった。こうした空気のなかで、設置推進派であった本多が、千演の維持整備を引き受けることになる<sup>67)</sup>。

本多は発足の翌春から、造林学現地実習を兼ねて人工造林を開始する。初めの2年間は、苗木の衰弱などが原因で、完全な失敗に近かった<sup>5,32)</sup>。また、山火事跡の原野が対象の造林であったため、地拵えに予想外の費用がかかり、学内の非難を受けたという<sup>27)</sup>。

さいわい3年目の1897/M30年から植え付けに成功し、見本林造成にも着手した。同年12月、奥山官林1.8千haが千演に編入され、ほぼ現在の面積となり、林業経営（試験）も容易となる。

規模の大きくなった演習林の管理、運営に対応するため、翌1898年7月、東京帝国大学官制に演習林の条項が追加される。これにより、川瀬善太郎教授が初代演習林長に就任、また、清澄に派出所ができ、松村繁朶助手が着任した。

こうして本多による千演の管理運営時代は終わる。わずか数年間とはいえ、駒場から離れた現地には、詰所も常駐者もなく、予算も少ないなかでの維持整備作業であった。本多の苦労は大きかったが、その後の演習林発展の出発点となった。

### 〔川瀬時代〕

川瀬は、1898/M31年9月から農学部長に選出される1920/T9年9月まで、22年間の長期にわたって演習林長をつとめた。この間、川瀬は林学科教官の協力を初めとし、学長、総長の理解と尽力、さらには自身の広い人脈の活用によって演習林を増設、就任時の1演習林（千演）0.2万haが、退任時には亜熱帯から亜寒帯にわたる7主要演習林、合計14万haへの拡張となった。創設時の各地方演習の状況は、さまざまであったが、境界の確定、地況・林況の調査、林道・宿舍の建設、見本林・試験林の設置など、演習林としての基盤整備が、林長以下職員の努力により進められた<sup>18)</sup>。

それとともに、基本財産林としての林業経営にも努力が払われた。日露戦争後大正年代初めにかけては不況の時期もあったが、続く第一次世界大戦下には木材価格が高騰し、演習林自体の基盤整備が進んだこととあいまって、林業経営の収益は増加した。たとえば、1908/M41年の演習林収入を100とすると1916/T5年には438に増加したという<sup>50)</sup>。

演習林の収益は、演習林自体の整備を進め、秩演、愛演の購入<sup>54)</sup>を可能にただけ



でなく、東大での定年制実施に必要な退職金にあてられた<sup>27)</sup>。これにより財政上の理由から延期されていた教官の定年制が1922/T11年から実施され、大学全体の活性化に役立つことになる。

このように演習林の収入は、附属病院の患者収入などとともに特別会計に繰り入れられ、大学全体の予算の一部となった。しかし、重工業の急速な発達にともなう理工学系研究教育施設の拡充で、大学予算の自己支弁率は、しだいに低下する<sup>50)</sup>。

以上のような演習林の拡張整備の興隆期、あるいは大学全体への経済的寄与面での黄金時代は、川瀬の退場とともに間もなく終わる。

#### [右田時代]

1920/T9年9月、川瀬が農学部長に転出した後を受けて、右田半四郎教授が二代目演習林長に就任した。1922年、愛演が増設されたが、いっぽうで、第一次世界大戦後の不況は、年々深刻になる。一般的な不況にくわえ、価格のやすい外材の大量輸入の影響を受けて、日本国内の林業は停滞し、演習林の林業経営も例外ではなかった。

政府は行政改革に取りかかり、人員整理が始まる。1925/T14年、千演の初代主任で、当時は江演主任であった松村繁栄助手が退職したのは、行政整理によるものであった。

1928/S3年1月、文部省は東京、北海道、京都、九州の各帝大および盛岡、鹿児島、三重の各高農の当事者を招集、『演習林整理問題』についての会議を開催した。各学校とも、林学の専門的実地研究の立場から見れば、現在の演習林は決して広大に過ぎるものではなく、縮小の余地はないと主張した<sup>56,61,64)</sup>。同年、東大では『各演習林ヲ縮小シ得サル理由、其ノ一、其ノ二』を作成、関係方面に提出、配布した。

各地方演では、この時期前後から試験地などの設置件数が増加する。各演の基盤整備が一層進み、いろいろな試験が可能になったためもあるが、演習林の使命を一般に理解しやすい形で示す目的が大きかった。また、樺太庁から『基礎的な調査研究をしないのなら返却を』との申し入れのあった樺演では、急遽採用の中村賢太郎囑託による『天然林の研究』が、急ぎ開始された<sup>23,25,28)</sup>。

右田は、1930/S5年3月の定年退官まで、演習林長を10年間つとめた。就任後ほどなくの愛演増設は、川瀬時代に準備されたものであった。右田時代は、不況下、関係官庁の縮小案に抵抗して、演習林の規模の現状維持に苦心を続けた時代であった。この方針を支えるため、各地方演では、行政整理による人員減のなかで、試験地の造成などに職員の努力が注がれた。

#### [蘭部／三浦／吉田時代]



1930年4月、右田の定年退官にともない、菌部一郎教授が三代目演習林長に就任した。なお、しばらくは不況が続くが、満州事変による日中戦争の開始、満州国建国、国際連盟脱退、軍縮条約の期限切れなどで、徐々に国際的緊張が高まり、軍需産業がさかんになった。とくに1937年7月の蘆溝橋事件にともなう日中戦争の拡大後は、軍需景気の時代に入り、国産林産物への需要も増加、国内林業は好況を迎える。

1935年から『施業沿革史』の作成が、各演で始まった。

1939/S14年3月、菌部は農学部長に転出、三浦伊八郎教授が四代目演習林長となる。三浦は、現状維持が精一杯であった右田／菌部時代のあいだに、演習林は種々の点で国有林、御料林、地方林に比べ、遅れを取ったとの危機感を抱いていた。就任最初の主任会議で三浦は、景気回復を好機として林相の改善、各種試験林の整備、試験研究成果の公表などの促進を強く要望した<sup>CS14/05/17[H117]</sup>。

この年2月、日本陸海軍が海南島に侵攻、同年夏、陸軍の要請で、東大農学部から同島のゴム栽培状況などについての調査団が派遣された<sup>25,26)</sup>。その後、海南島三省（海軍省、陸軍省、外務省の各出先機関）連絡会議から委嘱があり、翌1940年5月、同島に演習林（熱帯林業研究所）が発足した<sup>CS15/05/29[H174]</sup>。熱研は、事務所を台演内に置き、現地は南山嶺試験植林0.3万haと感樂模範林8万haからなるが、感樂模範林は治安状態が悪く、実情は立ち入り困難であった（海南島演習林設置ニ関スル書類綴）。

1941/S16年11月、三浦は農学部長に転出、吉田正男教授が五代目演習林長となる。翌12月、米英との開戦で、日中戦争は太平洋戦争に拡大、日本軍は広く南方地域に侵攻展開した。軍需産業の比率はいつそう高くなり、演習林でも軍需用材の伐採が行われた。しかし、労力、資材の不足から、試験研究や、一般的な造林保育作業などは、しだいに停滞するようになる。

1943/S18年1月、樹芸研究所創設、熱研に続き、演習林ではなく研究所の名称が使用されたのは、それなりの将来計画があつてのことと思われる。

同年4月、演習林創設五十周年記念式典を、1年以上繰り上げて、千演で行った。このころ、南方演習林設立の計画がおこった。

当時、南方の日本軍占領地域のうち、セレベス、オランダ領ボルネオ、ニューギニアなどは、海軍の軍政下におかれた。この地域に『大学演習林創設の希望があれば実現を図りたい』との申し出が、海軍省から4帝国大学あてにあった。同年8月～10月に、4大学の演習林関係者が、準備のため南方地域を視察、東大からは、吉田演習林長が出張した。その結果、各大学では、つぎのような広大な面積の演習林を設定することになった。すなわち、東大：74万ha、北大：55万ha、京大：40万ha、九大：



20万 ha である<sup>44,57,65)</sup>。

ちなみに東大の内訳は、セレベス島中央部ボソ湖南半周5万 ha，セレベス島南部ケンダリー半島南端ラオラ付近5万 ha，ボルネオ島東部タラカン西方55万 ha，ボルネオ島西部ベンガヤン東北方5万 ha，バリ島西南端付近4万 ha であった。なお、以上の各大学演習林とは別に、マカッサル研究所実験林（8箇所，計60万 ha）が計画され、元演習林長菌部一郎名誉教授が、海軍司政長官として研究所長に赴任した<sup>9,58)</sup>。

翌1944年，南方演習林調査の予算が成立，増員（助手4，技手2）もあり，各地方演へ出張希望者の有無の照会が行われた<sup>HS19/03/28</sup>。しかし，日本軍の敗色はすでに決定的で，渡航の実現を見ないまま敗戦を迎える（南方演習林設定二関スル書類綴）。

菌部／三浦／吉田時代の外地への演習林拡張は，川瀬時代に比べ短兵急である。資材逼迫の軍側からのつよい要請もあったろうが，ひたすら忍耐の右田時代をようやく抜けて，ふたたび川瀬時代の発展をとの，演習林側の願望もあったと思われる。

#### 〔敗戦後〕

敗戦によって外地演習林の所属は，それぞれ，中国，韓国，ソ連などに移り，長年にわたる試験研究は中断，職員の引き揚げには，困難が多かったと思われる<sup>62)</sup>。引揚者，復員者の受け入れで各演の職員数は増加，それに対応して嘱託以下の定員数が改定され，本演＋内地各地方演の定員は133名から197名となった<sup>CS22/04/02[H1]</sup>。このような多数の職員の引き揚げは，大学の他部局には見られなかったと思われる。受け入れは，各地方演に分散できたことや，当時，復興資材として重要であった木材や，生活必需物資であった木炭などの生産に，演習林がかかわっていたことで可能になった面があったと思われる。

敗戦後，予算は乏しかったが，戦時中に停滞した試験研究の促進や，人工林などの保育が進められた。1950／S25年の地方林長会議は，試験研究をさかんにする鍵は予算にあるが，予算増には収入増加が前提との認識で一致した<sup>CS25/10/27</sup>。会計制度が変わり，もはや基本財産林としての林業経営を行うことはなかったが，伐木などによる収入の多少が支出予算額を左右する仕組みは，ずっと続くのである。

1947／S22年6月，吉田は農林省林業試験場長兼務となり，中村賢太郎教授が演習林長に就任した。これ以後，演習林長は任期3年で，主として学科から，つぎつぎ選ばれるようになる。

1946年に演習林（本部）内規が制定され，演習林運営委員会，演習林長の任期などが規定される。その後，演習林所属の教授会メンバーが順次増員され，直接，演習林の運営にあたる組織が強化された。これにより，演習林長が短期間で交替しても，



運営に差し支えない体制が作られていく。

前記のように1947年、演習林の定員は増えたが、1951年から行政整理が始まる。しかし当時の演習林では、退職希望者数が削減割り当て数を上回る状況であったCS26/12/26,27/02/08,30/12/26。

各地方演は現場要員として、多数の定員外職員を雇用していた。雇用には賃金予算面からの制約があったが、1961/S36年には制約を強化し、新規の採用を規制したCS36/03/20。翌1962年には、定員外職員（日雇者甲）全員60名の定員化が、これ限りとの条件付で行われた。しかし、その後も定員化の見込みが明らかでないまま、こうした雇用が続いた。

1968年に始まる東大紛争は、林学科に種々の影響を与えた。演習林への影響は、初め少ないように見えた。しかし、これを契機として、やがて試験研究面や、定員外職員の処遇面などに、急激で大きな変化を迎えることになる。

### (3) 千葉演習林の歩み

#### [演習林のお手本]

千葉演習林は、わが国最初の演習林として設置された。演習林の役割の第一は、林学・林業の教育・研究にあった。役割にふさわしい演習林の創造には、先例がないだけに先人は苦心したと思われる。

千演に続いて北海道、台湾、朝鮮、樺太に演習林が増設されていくが、いずれも東京から遠いうえに、教育・研究利用が可能になるまでに、種々の準備が必要であった。

いっぽう千演は東京に近く、教官、学生、生徒の利用が多いだけに、教育・研究に関連した施設の充実が、いち早く進んだ。こうして千演は一時期、東大演習林内部だけでなく、他大学演習林からも、演習林のなかの演習林、いわば『お手本』と見られる面があった。この時期、千演での演習林づくりにあたった職員が、新設の演習林に転勤し、その経験を各演の整備に生かした。

やがて時間とともに、各地方演の整備が進み、それぞれの地況、林況の特徴を生かした教育・研究に利用されるようになる。千演もまた、『暖温帯に位置する一地方演』として、他演と肩を並べる時代を迎えるのである。

こうした千演の東大演習林のなかでの存在の意味の変化は、百周年記念式典が五十周年の行われた清澄ではなく、本郷で開かれたことにも象徴される。場所をきめるにあたっては、会場の広さ、交通の便なども検討されたろうが、演習林と言えど『清澄』と答えた世代は、はるか遠くになったのである。



### [面積の増減]

1894年、旧清澄官林3百余haで発足した千演は、1897年、奥山官林の編入により、ほぼ現在の面積となる。それ以後、購入、交換、払い下げなどの回数を重ねたが、いずれも小面積であった。しかし、大幅な増減が起こりえる機会が、少なくとも二回あった。

ひとつは明治年代末、濱尾 新総長によって打診された、隣接国有林編入の希望である。ときの山林局長上山満之進は、かつての恩師濱尾から、千演が狭いので付近国有林の保管転換をとの要望を受けた。上山は実地見分を行ったうえ、学生の演習目的には千演の既存の規模で充分と考え、濱尾の要望をことわった<sup>11,49)</sup>。

濱尾をうごかしたのは川瀬であろう。1909/M42年5月末、来演の上山を川瀬は三石方面に案内している(M43派出所日誌)。検討の対象になったのは、元清澄山を含む片倉地先国有林であろうか。

上山は大学の要望の主眼は、大学の財産形成にあると考えた。彼のこの認識は、後年、国有林が演習林問題に対応するさいの姿勢のなかに引き継がれたようである。

もうひとつは昭和年代初め、実科が東京高等農林学校として独立するにあたり、千演をその演習林にとの陳情である。すなわち、林学教育に必要な演習林を、これまでいわゆる『駒場農大』として一体であった東大農学部から移管して欲しいとの趣旨である。

陳情書は、駒場交友会会長西大路吉光、駒場林友会漆山雅喜の連名で、1933/S8年6月付、大蔵大臣、文部大臣、東大総長、各あてになっている。千演を希望した理由として、陳情書に以下の文章がある<sup>33)</sup>。

殊に清澄演習林は明治二十七年當時の農商務省山林局より農科大學に移管以來最も多く實科生に於て撫育更新し來れる處にして今日大部分の實科林學部出身者は清澄演習林に於て教育せられたりと云ふも過言に非ず。従て新に獨立する實科林學部生をして五十年前の歴史を繼承せしむる為には最も因縁深き清澄演習林を實科に移管せしめられ從來農學部林學科として施行し來りたる研究及び經營を實科をして繼承せしむるに於ては、一は農學部林學科の意志を繼承し一は駒場五十年の歴史を生かし實科獨立の本旨に副うものと云ふべし。

正式文書といえる陳情書に、千演の当時の正式名『千葉縣演習林』でなく『清澄演習林』とあるのは、意味深長に思える。

実科と千演のつながりの深さは、本科の場合も同じであった。上記の陳情が東大農



学部で、どう扱われたかの途中経過は明らかでない。結果は1942/S17年、秩  
 演浜平地内入波沢35林班236ha（現農工大埼玉演習林）の移管となった。

#### [創設期]

1894/M27年の発足から1898年、清澄に派出所ができるまでの、本多に  
 よる千演の管理、運営については、すでに述べた。

#### [松村時代]

1898/M31年8月末、乙科を卒業したばかりの松村繁朶助手が清澄に着任、  
 派出所を開設、翌年春には庁舎が完成する。

松村は千演の整備に、若い情熱を燃やし、寄宿舎、官舎などの建設、林道、苗畑な  
 どの施設の開設、境界査定などを進める。その一端は本文『I-4 1900/01  
 年の運営方針』に明らかである。拡大造林や見本林の造成が行われ、養魚、製炭（副  
 産物とも）などの試験も開始される。これらにともなう支出と、スギ人工林、中林な  
 どの処分による収入が、釣り合うよう苦心が始まる。

造林に続いて、森林道路、森林測量、森林経理などの諸実習が開始された。当時は、  
 寄宿舎などの設備も不十分で、清澄では旅館を、郷台、札郷では山小屋を利用しての  
 実習であった。各実習とも日数は現在よりも長く、数週間に及ぶものもあったが、教  
 職員も学生、生徒も一体となって、演習林整備に即、役立つ資料を得ようと、意欲に  
 満ちた時代であった。

1903/M36年には、これらの実習の成果などによって、千演全域の地況、林  
 況などの概略が明らかになる。1905年、それらにもとづく『第一次経営案（千葉  
 縣下演習林経営方案、1905-1909）』が作成された。この案では、清澄地区を試験研究  
 に、奥山地区を林業経営に当てるとしている。低林の一部を除いた大部分を、50年間  
 でスギ、ヒノキ人工林に転換する計画であった。

創設から第一次経営案が作成されるまでの期間を、千演沿革史資料（1）は『創草  
 期』としている。上記のように、清澄に派出所が置かれる以前と以後で、状況は大  
 きく変わるので、百年史では創草期を『創設期』と『整備期』に二分している<sup>63)</sup>。

1904年-1905年の日露戦争中は、軍事費優先の予算であったが、軍需用箱  
 材需要によるモミ材の価格上昇、化学原料用醋酸石灰の需要増など、収入面に有利な  
 要素もあった。製炭試験による木炭、醋酸塩の生産が増加、本学への木炭納入も開始  
 された。

1909/M42年9月、千演初代主任の松村は、演習林本部へ転出し、数年来千  
 演に勤務中の川原勘次郎助手（1907本科卒、1911助教授）が主任となる。  
 11年間の松村時代は、整備期と第一次経営案による運営期からなり、ほぼ千演の運営



が軌道に乗ったといえよう。

#### [川原時代]

松村時代の最後に当たる1909年の夏、川瀬林長と右田半四郎教授が1ヶ月間近く千演に滞在、松村、川原の案内で全域の状況を詳細に視察した(M43 派出所日誌)。このとき、一時期、千演の看板となった鹿飼育試験(野獣園)<sup>30)</sup>の準備、開始の打ち合わせもあったと思われる。

『第二次経営案(千葉縣下演習林改訂経営案, 1910-1914)』は、上記視察のさいの知見にもとづく部分が多いと考えられる。第二次経営案では全林を一施業区の、現行と同じ47林班とした。また利用目的により、林業経営の普通施業地、試験研究の特別施業地、その他の施業外地に三分したが、その後こうした区分は長く続いた。

日露戦争の好景気から、戦後はしだいに不況となり、そうした状況が大正年代初めまで続く。

明治四十年代には、本学への建築用材の供給がさかんに行われた。このため清澄地区の小屋ヶ尾などにあったスギ高齢林は、あらかじめ伐り尽くされたCM45/02/09。大学の基本財産林として、収入のこともあつての伐採と思われる。こうした用材供給も、たてまえは試験であつた。たとえば、人夫請負人からの請求書に『帝國大學農科大學動物學教室建築用材造材人夫賃銀』とあつたのを『帝國大學農科大學演習林實驗造材人夫賃銀』とするよう訂正を求めているCM41/08/20。

製炭試験による炭窯の改良で、木炭の品質が向上、演習林の直営製炭事業に従事希望する地元民が増加した。1910/M43年ごろから直営製炭の規模を拡大するとともに、地元への炭材特売の規模が縮小される。生産した木炭は、民間へ払い下げるとともに、農科大学暖房用としての大量納入が恒常化する。

また、落駄炭の生産もさかんで、陸軍砲兵工廠への納入は、重要な収入源のひとつであつた。いっぽう輸入品との競合で不利となった醋酸塩の生産は中止された。

引き続き拡大造林が行われ、林道などの整備も進められた。収入面では、台演の収入増加やCM38/02/23, 42/10/27、北演の山火事被災木処分でCM44/07/07、千演の収入予定額の軽減される年度があつた。

1913/T2年6月、清国雲南省森林学堂から帰朝の藺部一郎囑託(1905本科卒, 1914助教授)が主任となり、川原は藺部の後任として、雲南省へ転出した<sup>45)</sup>。川原時代の4年間に木炭生産が本格化した。製炭は試験、収入の両面で、その後長く千演を特徴づけることになる。

#### [藺部時代]

1914年構内電話開通, 1915年保護囑託の委嘱開始。



菌部の在任期間は2年余に過ぎなかったが、右田に協力して作成した『第三次経営案(1915-1924)』は、その後昭和年代中期まで経営案の原型となる充実した内容であった<sup>4)</sup>。また、高嶋主任への『引き継ぎ覚書』は、当時の千演を知るうえの貴重な資料で、創設以来の記録類のリストも付けられている。

1915/T4年9月、菌部は本演へ転出、高嶋規孝嘱託(1909本科卒、1917助教授)が主任となる。

#### [高嶋時代]

高嶋は森林化学を専攻し、1911年から1914年まで林産製造学の講義を受けもった<sup>20)</sup>。1915年、高嶋は同講義を三浦伊八郎助教授(1912本科卒)に引き継ぎ千演に着任するが、すでに一杯水に新設の石造窯で、乾溜試験を継続中であった<sup>4)</sup>。

大正年代初めには、大雪の被害(1912年)があったが、高嶋時代の初めには、2年続けて台風による大きな被害(1916年、1917年)があった。

1914年夏に始まった第一次世界大戦を契機に、日露戦争後の不況は終わる。やがて船腹不足から、木材、木炭とも価格が高騰する。こうした背景は、千演生産の木炭を初め、電柱用材の処分などを有利にした。

また、輸入が困難になった醋酸石灰などの製炭副産物の需要に対応して、日露戦争後中断した製造を再開した。醋酸塩製造への関心にこたえ高嶋は、各地で自分の専門である木材乾溜法の講習を行った。

好景気のもと収入は順調であったが、物価の上昇もいちじるしかった。経費の節約を求められたが、旅費の増額や、労働力確保のための賃上げが必要であった。生活を守る一助に、本学職員への木炭払い下げも行った。

1918/T7年、第一次世界大戦終結、1920年には大戦後の経済恐慌が始まり、本演から収入の確保を求められるようになる。

引き続き拡大造林が行われ、創設以来1921年までの累計面積は563 haに達した。これは、現在の人工林面積の7割に近い。初期の人工林が閉鎖してきたので、成長量の継続測定試験地や間伐試験地が設定された。また、量水試験なども開始された。

この当時の千演は、ほかの演習林、国有林に比べ、作業所、宿泊設備、路網、構内電話などが整備され、各種の施業林、見本林、試験林、苗畑などの管理が行き届いていた。秩演、愛演は創設後、まだ日が浅く、林学科の実習の大部分は、依然として千演で行われていた。さらに、国有林や御料林の内部研修にも、さかんに利用された。また千葉県関係の研修会場に、清澄の寄宿舎が使用されることも多かった。

1923/T12年2月、高嶋は欧米留学へ出発、後任として秩演主任牧 俊夫助



教授（1916本科卒）が着任した。高嶋時代の8年間は、上記のように整備が進み、千演が研究・教育面で相対的に最も進んでいた時代のように思われる。なお高嶋は、帰国後岐阜高農教授に転出する。

#### 〔牧 時代〕

1926/T15年2月、千演派出所が清澄から天津龍ヶ尾に移転（現天津事務所）、特設電話も開通する。当時、周囲に人家は疎らで、高台にある事務所や林長官舎は、かなり目立つ存在であったと思われる。前年には木炭輸送用にフォード貨物自動車を購入した。

牧は唐鎌良助らの協力をえて、各種の改良炭窯を考案、発表した<sup>15,16)</sup>。千演の製炭技術はすでに定評があり、大正年代末から昭和年代初めにかけて、毎年、山林局主催の製炭技術講習会の実習場になった。

第一次大戦後の不況は、昭和年代に入ってますます深刻になり、1929/S4年には世界的大恐慌を迎える。くわえて低価格の外材、輸入木炭に圧迫されて、演習林の収入確保は困難になった。

経費の節約で、林業夫の日給や製炭請負賃金が、1927年、1930年に減額されただけでなく、雇用人夫数も制限された。失業対策として1930年から1932年まで、四郎治、濁川、真根沢、長尾に製材所を設置し官行製材を行った。

材価の暴落による払い下げ中止があいついだが、陸軍工兵学校、陸軍造兵廠へのモミ材売り込みが図られた。陸軍工兵少尉（1年志願兵、後備役）であった牧の伝手を頼ったものであろうか。

1929年の官吏欠員不補充の通達、行政整理による退職などで職員数も減る。そうしたなかで、保護樹、保護区の指定、見本林の造成、各種試験地の設定が急速に進められた。それらは演習林整理問題への緊急対応策であったが、そのなかには後年、経過が一連の報告になる林木の構成状態推移試験地<sup>59,60)</sup>、展示林として千演の看板となるスギ品種試験地<sup>12)</sup>、林木育種の一指針となるスギ母樹と子苗の開花、結実、成長試験地<sup>24)</sup>などが含まれている。

少ない人手を試験関係に回したため、普通施業林の間伐など保育作業の後回し、野獣園台帳の未記入など一般事務の停滞が起こった。

不況下の農山村にとって、木炭生産は重要な収入源であった。千演の炭焼き名人、唐鎌良助、鴫田敏夫らは、地方自治体などの要請で日本各地に赴き、改良窯による製炭技術の講習を行った。こうした要請にこたえるため、千演自体の製炭試験は足踏み状態になったといわれる。

1925年の『第四次経営案（1925-1934）』では、人工林の伐期を50年とし、法正



林化をめざし、50年後までの10年間ごとの伐採量をしめした。さしあたっての収穫量は少なくし、高蓄積人工林を目標とするものであった。

1935年の『第五次経営案(1935-1944)』では、自然条件の制約による人工林化の限界や、薪炭材生産に対する社会的要求から、低林の価値を見直した。また人工林の主伐はひかえ、収入間伐を図っている。

1936/S11年3月、牧は退官し、満州国奉天農業大学教授に転出した。後任は北演勤務の高原末基助手(1933本科卒、1936年11月助教授)であった。

牧時代の13年間には、派出所の天津移転、注目される製炭試験などがあった。しかし長引く不況のもと、演習林の現状維持に、とりわけ苦心したと思われる。

#### [高原時代]

1936年1月の雨氷によって、千演の人工林は大きな被害を受けた<sup>21)</sup>。被害の後始末が始まるなかでの主任交替であった。軍需による景気回復で、木材や木炭価格も安定し、経費に多少のゆとりを生じる。1932年から中断中の保護囑託の委嘱を、この年の末、復活した。

翌1937年7月の蘆溝橋事件で日中戦争が本格化し、しだいに戦時色が濃くなる。こうしたなかで多くの試験地が設定された。そのなかには、のちに、わが国の物質生産研究のさきがけとなるアカマツ密度試験地<sup>39)</sup>、生態生理的な解明も含めてまとめられる枝打ち試験地<sup>40)</sup>、昭和二十年代まで重要視された薪炭林を扱う矮林施業法改善試験地<sup>19)</sup>などがあった。

不況のため、遅れていた間伐などの保育作業が実施され、拡大造林も継続された。創設以来1941年までの新植地累計面積は、現在の人工林面積に近い854 haに達した。

この時代、実習、研修、見学、視察を目的とする外部からの来演者が多かった。実習は、本学林学科関係が中心であったが、岐阜高農が定期的に利用するほか、実科から独立した東京高農の林学諸実習が行われた。また、明治年代末に始まる盛岡高農林学科生徒の見学も続いていた。研修関係では、山林局の営林署担当区詰員教習が、1939年から1943年までの期間に9回行われた。

このように多くの面で昭和一桁年代に比べ活況を呈したが、やがて戦争の長期化にともなう労力、資材不足の影響を受けるようになる。とくに1941年、日中戦争が太平洋戦争に拡大してからの物資不足は深刻で、実習生は主食持参で来演した。

こうしたなかで木炭の大増産や軍需用材の伐採が行われた。しかし、下刈り、間伐、枝打ちなどの保育作業は後回しになる。また軍需的な要請もあって、炭窯改良<sup>42)</sup>、木材乾溜<sup>41,43)</sup>、薬草栽培<sup>14)</sup>などの研究が開始され、これらは敗戦後も継続した。



1943/S18年4月、清澄で東大演習林創設五十周年記念式典が行われた。同年5月、清澄に南方林業要員錬成所が開所、翌1944年6月には二期生の錬成を終わるが、戦況悪化で目的の達成が困難になり閉鎖、かわって南方開拓技術員養成所が開所した。

1945年に入ると、さらに戦況は逼迫し、本土防衛要員として職員の応召があいついだ。同年4月、労力不足対策として君津農林学校報国隊の動員を受け入れた。5月から7月にかけて、九十九里海岸防衛の陸軍小部隊が札郷寄宿舎に駐留した。6月、飼料不足から1909年以来の鹿飼育試験を中止、野獣園を閉鎖した。連合国への無条件降伏まで残すところ2ヶ月間たらずの時期であったが、主食配給量の削減などで人間の食糧事情も一段と逼迫、製炭の余熱利用による製塩なども行われた。

敗戦後は、軍隊からの復員、植民地演習林からの引き揚げ転入により、職員数は増加する。しかし、食料を中心とする生活物資や一般資材の不足は、いっそう深刻になる。はげしいインフレに給与のベースアップが追いつかず、生活は厳しかった。耕作可能な土地が多少あること、薪炭が手に入りやすいことなどの点では、地方が都市に比べ、少しはましであったかも知れない。

敗戦を境に、軍の指示による政府の軍国主義的思想統制はなくなるが、かわって占領軍主導による民主化政策が始まる。1946年末、農学部職員組合が結成され、千演では高原を委員とし、33名が加入を申請した。

やがて徐々にではあるが、戦時中に後回しになった試験地の手入れや、人工林の保育作業などが可能となる。新しい試験地の設定が進められ、天津の実験室では、枝打ちと関連しての光合成測定や、苗木の栄養試験が行われた。

実習、視察などを目的とした本学関係以外からの来演者も年々増加する。戦時中の強制伐採などの影響が少なく、見本林、試験地などが比較的整備され、宿泊施設の利用も可能なことから、他大学の実習利用や、林業関係者の視察が多かったのである。1953年5月には、昭和天皇、皇后の両陛下が、千葉県下御巡幸の途次、千演にお立ち寄りになった<sup>40)</sup>。

昭和二十年代に入るとアイオン台風(1948年)ほかの台風や、大雪(1951年)による被害が目立つた。

1945年の『第六次経営案(1945-1954)』では、人工林の伐期を従来どおりの50年と、大径材生産を目的とする80年の二本立てとした。その結果、スギ、ヒノキ林の処分と平行して、高齢林が温存されることになった。

1954/S29年3月、高原は新設の名古屋大学農学部へ転出、造林学講座担当教授となる。後任に、樹研主任の渡辺資仲助教授(1936卒、1955教授)が着



任した。

高原時代の18年間の中央に敗戦があり、わが国は激動し、東京帝国大学演習林は東京大学演習林に変わった。高原の在任期間は、歴代の主任（1942年から地方林長に改称）のなかで最長である。戦争、敗戦、復興と価値基準の変動と窮乏の連続のなかでの演習林の運営には、現在では想像もできない苦心が多かったと思われる。

#### 〔渡辺時代とその後〕

渡辺は1969年3月に定年退官するまで15年間に在任した。千演林長はその後、1981年7月まで10年間以上の空席が続く。この時代は、千演百年の歴史からすれば比較的新しく、本文にはあまり触れていない。ここでは、二、三につき事項別に記述する。

〔技術研修〕 渡辺時代の試験研究を特徴づけるのは『ていねい植え』など、造林技術の再検討による初期成長の促進である。ときは拡大造林の最盛期であり、『ていねい植え』の好成績は国有林、民有林関係者の関心を集め、技術研修、実地見学の来演者が年々増加した。渡辺自身も全国各地で、上記の課題に関連した講演を行った。

しかし、渡辺の退官とともに、こうした研修、見学者は急減する。その原因は、林業を取り巻く状況の変化や、林業関係研修機関の整備が各方面で進んだことなどによるものであろう。くわえて、演習林が一般的な林業技術の普及に、どの程度かわかるかにつき、学内に種々の考え方があったことによる。

〔研究利用〕 1970年ごろまでの演習林の研究利用は、東大林学関係者が中心であった。しかし、演習林の存在基盤を確固とするためにも、研究利用者の所属や専門の制限枠を、取り払ったほうが良いとの考えが、林学科、演習林関係者内に生まれつつあった。間もなくの大学紛争を契機に、本学大学院林学専門課程学生が増加、また上記の研究利用制限枠も急速に緩和された。その結果、本学学生をはじめ、他大学所属教官、学生などの研究利用が急増し、それらへの対応を、千演では優先するようになる。いっぽう技術研修に対する従来の姿勢は、数年にして変化し、消極的となるのである。

1970年前後の、こうした研究利用面での大きな変化は、千演の『研究目録』<sup>51,52)</sup>に見られる、この時期からの発表数の急増、発表者の所属と発表内容の広がりにより明らかである。1970年代に入り、研究面での演習林の役割に、新しい時代が始まったといえよう。

〔実習利用〕 他大学による実習利用は引き続きさかんである。植物学や地質学など理学部関係の実習の多くなったのが特徴で、林学関係の利用は、各大学所属演習林の整備が進むにつれ減少した。

〔収入〕 木炭の直営製炭は、昭和三十年代初めで打ち切りとなり、明治三十年代に始ま



った製炭試験の歴史は、この時点で、すでに終わりを迎えていた。燃料革命で民間の製炭量も年々減少し、炭材払い下げ用の矮林は、伐期を過ぎても放置されるようになる。千演の収入の大部分が、スギ、ヒノキ人工林の立木処分による時代へ向かう。

〔雇用〕千演を含め各地方演では、現場要員として多数の定員外職員を雇用していた。雇用には賃金予算面からの制約があったが、1961/S36年には制約が強化され、新規の採用が規制されたCS36/03/20。翌1962年には、演習林の定員外職員（日雇者甲）全員の定員化が、これ限りとの条件付きで行われ、千演でも16名の定員化が実現されたCS37/04/10。

定員化により待遇改善は行われたが、大部分の職員の年齢が近かったこと、役付きポストの割り当てがなかったこと、ほかとの人事交流が困難であったことなどから、のちに組織の活性に問題を生じる。

上記の定員化後、本演から協議採用困難につき、以後は公務員試験合格者の採用をとの要望が再三あった。しかし、有資格者を求めることは、当時の地方演にとっては難しく、定員外職員の採用が続いた。後年、その定員化問題で、当局と職組間に長期間にわたる緊張状態を招く。

〔地元関係〕かつての千演は、この地方有数の官庁であった。木炭、木製品などの原材料を地元民に特売し、多数の地元住民を雇用し、地元小学校に毎年補助金を交付するなど、地元に着目していた。しかし現在では、こうした関係は薄れ、1931年に始まった町村助成金交付が続く程度となった。千演の面積は変わらないが、交付金額は地元市町の予算に比べ、相対的に僅かなものとなった。

これからの千演は、豊かな森林の維持管理による、環境保全やレクリエーション利用の面で、地元とのつながりを深めていくと思われる。地方の時代を迎え地元千葉県では、県民の森や中央博物館など、森林に関係した研究、教育、レクリエーション施設の充実に力を尽くしている。これらの地元関係施設との緊密な関係も、今後の千演にとって重要と思われる。

〔その他〕昭和三十年代末から、演習林付近での自衛隊演習実施の連絡文書が、往復文書綴にファイルされるようになる。これが後日の自衛隊問題に至るとは、誰もが予想しなかったと思われる。

1969/S44年は千演七十五周年にあたる。1960年ごろから記念事業としての展示林の設置などの計画、準備が始まっていた。しかし、1969年の渡辺資仲教授の退官、その後の千演林長の空席、大学紛争の激化などの影響を受けて、中途半端に終わったようである。

はじめに述べたように、東大演習林のなかでの千演の存在は、『演習林のお手本』か



ら『暖温帯に位置する一地方演』へと、時の経過とともに変わった。

千演には、房総半島で少なくなった大面積の天然林と、長年月の資料をもつ各種人工林があり、いずれも百年の歴史が育んだものである。これらの貴重な森林を維持管理し、森林・林業の研究、教育に充分役立てることが、千演第一の使命と思われる。

#### (4) 演習林正史の空白

演習林についての理解を深めるには、その歴史を詳しく知ることが重要である。演習林の沿革については、各演の概要に簡単な記述があるほか、五十周年<sup>55)</sup>、百周年<sup>53)</sup>には演習林全体で、正史的なものがまとめられている。しかし、かつての大学財産林としての林業経営など、充分には触れられていない事項がある。古い出版物に記述がないのは、それなりの理由があり、当時の関係者にとって、それらの事項の内容は周知のこととして、公式の記録を残さなかったのかも知れない。しかし、こうした扱いのまま世代が替わってしまうと、たとえ重要な事項であっても、その存在さえ不確かになってしまうように思われる。

かつての演習林には、正史あるいは正史的なものに対して、疑問を抱いたり、批判を加えたりすることを好まない風潮があったようである。高杉欣一らによる千演沿革史資料(1)は<sup>4)</sup>、難解で不注意ミスが多いとの批評があるが、こうした風潮に一石を投じるものであった。

ここでは、正史にあまり扱われていない二三の事項を以下にあげ、今後の検討を期待したい。

##### [林業経営(試験)]

前述のように、演習林設置理由のひとつに、大学の基本財産林として林業経営を行い、財政面から大学の基礎を強固にしたいとの意図があった。旧清澄官林だけで発足した千演に、奥山官林が編入されたことで、完全な林業を行うことが可能になったと、本多静六は実習生に説明している<sup>36)</sup>。第一次経営案で、清澄地区を試験研究に、奥山地区を林業経営に当てたのは、上記の意図を意識したものであろう。

清澄に派出所が設置され、演習林の整備が本格化して以降、つねに支出と収入のバランスに注意しながらの管理運営が進められた。やがて北演や台演などの大面積演習林が設置されると、それらが大きな収入をあげるようになる。収益の多少は、林産物の価格変動に左右されるが、第一次世界大戦による好景気期間の黒字が大きかったようである。こうした収益の積立金は、1916/T5年創設の秩演、1922年創設の愛演の取得財源や<sup>54)</sup>、1922年の定年制実施に必要な退職金にあてられた<sup>27)</sup>。退



職金への支出は、農学部出身の古在総長と川瀬農学部長の連携によるといわれる<sup>22)</sup>。

このように演習林の林業経営は、大学の基本財産林として、このころまでは経済的に成功を収めたといえよう。しかし演習林が、林業で収益をあげることに對しては、外部の一部に強い批判があった。

前述のように濱尾総長は明治年代末、千演に隣接する国有林の保管轉換を上山山林局長に要望した。しかし上山が、千演擴張の目的は研究教育というより、大学の資産形成にありと認識したため実現しなかった。山林局長のこの認識は、国有林幹部に引き継がれたと思われる。

大正年代半ばから終わりにかけて、各地に高等農林学校が新設され、国有林の保管轉換による、各校附属の演習林設置問題が起こった。この問題につき山林局は、1924/T13年の大林区署長會議で協議し、国有林の演習林への組み替えをやめる決定をした。すなわち、「学校側が演習林を要望する裏面は、演習林を学校及図書館特別會計法による財産にして、演習林の収入を特別會計の収入にあてるためにある。演習林の本来の目的は、林業技術の実習、研究にあるから、欧州の例にならい、学校当局と地元小林区署長が密接な關係を維持すれば、国有林のままでも目的を達成できる。」というのが、組み替え中止の理由であった<sup>13,48)</sup>。

この結果、協議中の三重高農に対する国有林の無償管理換えは、例外的に承認されたものの、宇都宮、岐阜、宮崎の各高農の演習林設置は、時勢が変わる1937/S12年まで実現しなかった。上記の国有林の決定は、東大が演習林収入を定年制実施の退職金にあてた翌々年のことで、東大のやり方が各高農の演習林設置を妨害したとの噂を生じることになった<sup>30)</sup>。

昭和年代に入ると経済不況が深刻になり、くわえて外材攻勢もあって、国内林業は停滞する。演習林の林業経営も収益をあげることが困難になり、収入に見合うよう支出の節減が厳しくなる。前述のように文部省からは『演習林整理問題』の會議への招集があり、樺太庁からは『基礎的な調査研究をしないのなら』と樺演の返却を迫られる。こうして当初は堂々に行われ、演習林自体だけでなく、学部あるいは本学全体の財政に寄与した演習林の『林業経営』は、外部の強い批判にくわえ、経営の実も上がらなくなり、しだいに表から裏の存在になって行つたと想像される。

以上の記述は断片的で、間接的な資料、文献にもとづく部分が多い。もはや50年以上も昔の時代に行われた、かつての演習林の林業経営の実態を明確にできる、収支、収益の使途などの資料の収集と整理が望まれる。

戦後は會計制度が変わり、基本財産林としての林業経営を行うことはなくなった。しかし、収入額の多少が支出予算額を左右する仕組みは続いた。大面積演習林をもつ



北大、東大で収入予算が達成されるまで、全国立大学演習林において支出予算総額の20%がとめおかれた時代もあり、かつての林業経営が、なお尾を引いている感じがする。

各国立大学が保有する演習林の規模は、歴史の違いなどにより大学間に大きな格差がある。また地域的な偏在もいちじるしい。こうした問題を学術会議第6部会の『演習林問題検討小委員会』が取り上げ、『共同研究教育林構想』を発表したのは、四半世紀前のことであった。共同研究教育林は、森林が関係する広い学問分野の研究教育を目的とし、財産林的、営林事業的性格は払拭し、植生と対応して配置され、共同の施設にすることにより大学間格差の解消を意図するものであった<sup>35,65)</sup>。また、この時代には、林業、林学界と遊離した林学科を林業大学に編成替えし、演習林は国有林へ返還し必要に応じ利用してはとの意見もあった<sup>34)</sup>。

今日の演習林では、収益だけを目的にした管理運営は行われず、収入は、試験研究を進める過程で生じた林産物処分によるものとされる。かつての演習林では、収益に重点を置いた林業経営に対する批判をさけるため、これを『林業経営試験』と称することがあったと聞く。

しかし、それとは別に、林業経営もまた演習林における試験研究の重要な対象である。北演における林分施業法の成果を視察した中村賢太郎は、研究課題としての『林業経営』の重要性を論じ、北大、東大を除く各大学の演習林は、『経営試験』を行うには、あまりに狭すぎるとしている<sup>29)</sup>。

#### [植民地演習林]

敗戦にともなう植民地演習林の廃止から半世紀が過ぎ、往時の状況を知る人は僅かになった。日中戦争さなかの1940/S15年に設立の熱帯林業研究所（海南島演習林）は別として、創設から廃止まで、台湾演習林43年、江原道演習林、全羅南道演習林各33年、樺太演習林31年の歴史があった。

戦後間もなくのころ本演では、引き揚げ職員からの現地状況の聞き取りや、旧職員からの写真の収集などを行った。旧植民地演習林の資料を整理し、沿革史などの取りまとめを考えたようであるが実現しなかった。当時は多くの関係者が健在で、好機であったと思われるが、日清戦争以来の歴史観などに個人差が大きく、取りまとめの視点をきめるのが困難であったと想像される。

日中戦争から太平洋戦争時代の熱研の創設、南方演習林の開設準備などは、交戦中の相手国領土を対象にしたもので、明治、大正時代における植民地演習林の設置に比べても異常であった。敗戦後の1946/S21年、占領軍の覚書にもとづく、勅令



第263号『教職員ノ除去、就職禁止及復職等ノ件』により、本学にも『大学教員適格審査委員会』が設置され、軍国主義、超国家主義教育者の追放問題を扱った。農学部では、日本軍占領地域における軍庇護下での調査研究や、海南島などでの演習林設置が問題にされた<sup>50)</sup>。くわえて戦時中の農学部基礎学科講座の各学科への配分、林産関係講座の増設、南方自然科学研究所の新設など<sup>20)</sup>についても、学部内に林学科へ対する強い批判を生じ、それはかなり長い期間にわたり続いた。これらの状況も、植民地演習林沿革史の取りまとめが進まなかった理由かも知れない。

現在では、植民地演習林沿革史をまとめるにあたっての、以上にあげた諸障害は少なくなった。植民地演習林についての印刷公表資料は、各演の概要、五十周年記念版概要<sup>55)</sup>、近年まとめられた不完全な試験研究文献目録<sup>51,52)</sup>など、僅かである。しかし本演には、各演との往復文書、経営案など、若干の内部文書が残されている。

これらを材料に、植民地演習林の記録を整理し、実態を明確にし、演習林としての幕引きをしておくことが望まれる。各演、事情はさまざまであろうが、その功罪の評価にあたっては、『圧迫された国』側からの視点に配慮することが不可欠である。

#### [その他]

東京帝国大学官制に、演習林の条項が追加された1898年から敗戦の1945年まで、47年間の演習林長は5人に過ぎず、うち川瀬が22年間、右田が10年間、藺部が9年間を占める。千演をはじめ、北演およびその後の植民地演習林の創設に関係し、千演初期の管理運営に尽力した本多静六が<sup>6,7,17)</sup>、演習林長に就任しなかったことを中村は不可解としている<sup>25,27,28)</sup>。

本多自身は、演習林との関係を以下のように述べている<sup>6,7)</sup>。官制などが整ってくると、予算や会計規則にしばられ、大学演習林では思うように実地の試験や林業経営を行うことができなくなった。そこで、財産家の森林などに関係することで、これを自分勝手にできる私設の演習林と考えた。北演、台演、全演、江演の設立に協力したのは、大学の基本財産造成のためと、ほかの教官諸氏が林業経営を体験できる便宜を図るためであった。

川瀬は、とくに演習林の経営面で成功を取めたが、事務的な能力に秀でていたといわれる<sup>18)</sup>。演習林は各地方(植民地)に分散し、交通不便で人手少なく、制約を受ける法規に差異があるなど、その管理運営は容易でなかったと思われる。後年のある事務長は、あまりに有能な林長が長く在任し、一人ですべてを片付けたので、管理組織の発達が遅れたのではと、感想をもらしている。

その川瀬は本多とは対照的に、試験結果の整理、公表などには、それほど熱心でなかったように思われる。川瀬が力を入れた千演における鹿飼育試験の主要な結果は、



担当者の中島道郎がまとめたが<sup>31)</sup>、多くの労力と時間を要したと考えられる北海道での飼育試験についてのくわしい結果は発表されなかった。また12回におよぶ除害狩猟は、狩猟好きの川瀬のイニシアチブによるが、川瀬自身がまとめた記録には、日時などに意外な思い違いが見られる。

『演習林報告』第一号は、1920/T9年に発行された。林長が川瀬から右田に交替した年である。右田は試験結果の発表にきわめて慎重であったといわれる。未完成の試験結果も掲載するとした『演習林』第一号は、1940/S15年に発行された。理科系初の三浦演習林長時代である。

これらの刊行物は、演習林における研究活動の成果を公表する重要なもので、戦中戦後の窮乏期にも発行が続いた。昭和三十年代に一編集委員長の都合で、演習林報告の発行が数年間滞ったことなど、編集委員会が正常に機能する現在からは想像もつかない。

千演で過去の発表業績リストをまとめたのは、視察案内(1940)あたりが最初と思われる。このときの収録は、演習林報告に掲載されたものだけで、重要と思われる高嶋の乾溜窯の報告<sup>4)</sup>などは含まれていない。関係あるすべての報文のリストづくりは、千演沿革史資料(1)の続編作成のため、1970年代に始められたようである。この資料をもとに、1988年<sup>51)</sup>、1994年<sup>52)</sup>のリストが作成されたが、未だ古い時代については多少の脱落がある。

## (5) おわりに

以上『番外メモ』の作成過程で感じた事項を、思いつくままに書き並べたが、筆者の不勉強による誤りが多いと思われる。

ここでは、往復文書綴を中心にして、古い時代の千演の状況を『千演沿革史資料(番外メモ)』にまとめることができた。しかし、その後について、同じような作業を考えた場合、中心にできる適当な資料が見当たらない。

過去をあいまいにしたままでは、未来の展望は開けないといわれる。歴史的な記録の整理保存は、同じ失敗の繰り返しを避けたり、逆境を乗り越えたりするのにも役立つことがある。演習林で行われる研究・教育は、森林、林木の生物的特性、あるいは林業の特質にもとづき、長期にわたり準備され、継続される場合が多い。こうした研究・教育は、演習林で起こる諸状況の歴史的な変化の影響を、多少とも受けると考えられる。

したがって演習林では、とりわけて歴史的な記録を整理保存しておくことが大事で



ある。1935/1940年に始まる『施業沿革史』は貴重なものであるが、施業以外の一般的事項についても記録し、将来に備えておくことが重要と思われる。

### 引用文献

- 1) 大日本山林會編(1931): 明治林業逸史, 884p., 大日本山林會, 東京
- 2) 大日本山林會編(1931): 明治林業逸史, 續編, 516+27p., 大日本山林會, 東京
- 3) 大日本山林會編(1934): 川瀬先生の小傳と論文抄, 312p., 大日本山林會, 東京
- 4) 演習林研究部・千葉演習林(1974): 千葉演習林沿革史資料(1), 演習林 **18**:9-28
- 5) 本多静六(1926): 清澄演習林本多教授指導造林實習日誌, 148p., 東大演, 東京
- 6) 本多静六(1931): 私の関係した事業二三, 文献 2), p.385-397
- 7) 本多静六(1935): 林業と林學, 農業と經濟 **2**:515-520
- 8) 本多静六(1942): 林學生の參戰意氣—日清戦争當時義勇軍の建白書, 山林 **712**:85-87
- 9) 深田雅治(1971): 連続四十五年の奉仕生活を終へて, 文献 37), p.146-167
- 10) 藤村道生(1973): 日清戦争—東アジア近代史の転換点—, 岩波新書 **880**, 231+3p., 岩波, 東京
- 11) 上山満之進(1931): 山林局時代の思出, 文献 2), p.347-361
- 12) 金光桂二・南雲秀次郎・石原 猛・鈴木 誠・田中和博・松本陽介・白石則彦・石橋整司・丹下 健(1985): 千葉演習林相の沢スギ品種試験地50年の生長経過, 演習林 **24**:65-110
- 13) 片山茂樹(1953): 我國林業教育の發展過程と諸問題(2), 林業經濟 **56**:25-35
- 14) 川名 明(1951): タマサキツブラフジの三要素缺除栄養液による水耕試験, 東大演報 **41**:43-46
- 15) 牧 俊夫・唐鎌良助(1928): 精煉管使用窯内消火式清澄炭窯製炭試験成績, 東大演報 **3**:55-100 + 写真, 付表
- 16) 牧 俊夫(1930): 製炭試験成績後報, 最近に改良したる製炭窯, 東大演報 **11**:1-45 + 写真
- 17) 右田半四郎(1931): 古記の拾遺と思ひ出, 文献 2), 450-470
- 18) 右田半四郎(1934): 演習林長としての川瀬博士, 文献 3), p.20-27
- 19) 嶺 一三(1950): 薪炭林の施業法改善, 林野庁
- 20) 三浦伊八郎(1971): 林学科講座の変遷, 文献 37), p.6-11
- 21) 村井日吉(1939): 千葉縣演習林の雨水被害報告, 東大演報 **27**:1-59



- 22) 中田 薫(1938): 古在氏の想出 p.118-134, In: 安藤圓秀編: 古在由直博士, 309p., 古在博士傳記編集會
- 23) 中村賢太郎(1930): 樺太に於けるトドマツ, エゾマツ天然林に關する研究, 東大演報 **12**:1-288+1-98
- 24) 中村賢太郎・佐藤大七郎・郷 正士 (1952): スギの母樹が子苗の開花結実並びにその生長に及ぼす影響 (第3報) 造林木の生長, 東大演報 **43**:39-48
- 25) 中村賢太郎(1955): 六十年の回顧, In: 山をみどりに, 303p., 石崎書店, 東京
- 26) 中村賢太郎(1961): 世の中さまざまー生涯をかえりみてー, In: 新しい造林, 244p., 石崎書店, 東京
- 27) 中村賢太郎(1962): 本多静六先生, In: 林業先人伝 (日林協編), p.337-372
- 28) 中村賢太郎(1971): 生涯の記録, In: 随想造林学ー喜寿翁の造林回顧ー, 295p., 中村賢太郎先生喜寿記念会 (日林協内), 東京
- 29) 中村賢太郎(1973): 東京大学北海道演習林視察所感, 北方林業 **286**:22-24
- 30) 中山博一(1971): 林業人としての生涯の回想, 文献 37), p.32-45
- 31) 中島道郎(1929): 千葉縣演習林に於ける日本鹿飼育試験報告, 東大演報 **8**:95-114
- 32) 根岸賢一郎・鈴木 誠・斯波義宏(1991): 千葉演習林沿革史資料 (3), 東京大学農学部林学科学生の造林学現地実習の変遷, 演習林 **28**:13-57
- 33) 奥野道夫編(1936): 駒場交友會, 母校獨立記念號:314-317
- 34) 大味新学(1971): 日本林業大学論, 林業技術 **354**:2-7
- 35) 大崎六郎(1972): 大学演習林の改革方向ー日本學術會議レポートしてー, 林業技術 **359**:29-31
- 36) 林學科生徒手記(1908): 房州清澄山農科大學演習林に於ける造林實習日誌 (1), 山林 **306**:43-50
- 37) 林業經濟研究所編(1971): 大正・昭和林業逸史 (上), 561p., 日刊林業新聞社, 東京
- 38) 林業經濟研究所編(1972): 大正・昭和林業逸史 (下), 646p., 日刊林業新聞社, 東京
- 39) 佐藤大七郎・中村賢太郎・扇田正二 (1955): 林分生長論資料 (1)ー立木密度のちがう若いアカマツ林ー, 東大演報 **48**:65-90
- 40) 扇田正二(1953): 東大千葉縣演習林「行幸記」, 山林 **830**:1-3
- 41) 芝本武夫・栗山 旭(1950): 木材炭化に關する研究 (第1報) 木材の含水量と乾溜生産物との關係, 日林誌 **32**:43-46
- 42) 芝本武夫・佐藤 修(1950): 同上 (第8報) 清澄G式黒炭窯, 東大演報 **38**:43-58
- 43) 芝本武夫・南 享二・堺 宏(1951): 同上 (第6報), 半工業的規模における木材の含有水分と乾溜成績との關係 (Ⅲ), 日林誌 **33**:12-17



- 44) 塩谷 勉(1971): 私の林学回顧, 文献37), p.26-31
  - 45) 藺部一郎(1931): 雲南省に於ける林業教育, 文献 1), p.789-794
  - 46) 高原末基(1954): スギおよびヒノキの枝打が幹の生長におよぼす影響, 東大演報 **46**:1-96
  - 47) 高島 (嶋) 規孝(1916): 乾餾窯の改造に就て, 山林 **405**:1-17
  - 48) 田中波慈女(1971): 林業回顧録, 文献37), p.397-411
  - 49) 手束平三郎(1981): 物語林政史, 第十七話その二, 林業技術**473**:30-31
  - 50) 東京大学百年史編集委員会(1985): 東京大学百年史, 通史 2
  - 51) 東京大学農学部附属演習林(1988): 東京大学演習林を利用して行われた試験研究文献目録 (1894年~1987年), 182p.
  - 52) 東京大学農学部附属演習林(1994): 東京大学演習林における試験研究 100年, 224p.
  - 53) 東京大学農学部附属演習林(1994): 東京大学演習林 100周年記念, 演習林 **32**:1-193
  - 54) 東京帝國大學農學部附屬演習林(1931): 演習林例規 (昭和 6 年 7 月改定), 149p.
  - 55) 東京帝國大學農學部附屬演習林(1943): 演習林概要 (創立五十周年記念版), 154p.
  - 56) 上田弘一郎(1971): 樺太・台湾の林政と林業の思い出, 文献 37), p.526-530
  - 57) 山本 光(1971): 東京教育大学林学科創設のいきさつ, 文献 37), p.62-66
  - 58) 柳 文治郎(1972): 外地森林開発覚書, 文献 38), p.249-265
  - 59) 吉田正男(1929): 植栽林の林木の構成状態に関する統計的研究 (第 1 報), 東大演報 **6**:1-60
  - 60) 吉田正男・平田種男(1956): 同上 (第 7 報), 東大演報 **52**:1-14
  - 61) Anon.(1928): 演習林に関する會議, 山林 **543**:81-82
  - 62) Anon.(1955): 演習林の近況(1946-1953), 演習林 **10**:87-139
  - 63) Anon.(1994): 千葉演習林, 演習林 **32** (東大演 100周年記念): 9-35
- [追加]
- 64) 小鹿勝利(1980): 戦前期における国有財産管理事業と大学演習林, 北大演報 **37**:609-630
  - 65) 小鹿勝利(1985): 演習林経営に関する社会経済史的研究—北大中川地方演習林を中心に—, 北大演報 **42**:221-442



## Ⅶ-2 年表（1892年～1970年）

### （1）事項の選択，出典

年表は，往復文書綴から選んだ事項を中心に編集した。選択の基準は，『番外メモ』に関係した事項を優先した。『番外メモ』本文に十分な記載がない事項については，出典がわかるようにした。

なお，試験・研究関係の事項については，往復文書のほか，概要，視察案内，施業沿革史，『全国大学演習林試験林・学術参考林（全演協1967）』，および1978年にまとめられた内部資料『千葉演習林試験研究経緯及目的一覧』，『千葉演習林樹木園年表』，『千葉演習林試験研究一覧』などを参考にした。

【学内】および《学外一般》の事項は，『東京大学一覧 自昭和44年度至昭和45年度，沿革略』，『東京大学百年史，資料3，年表』などを参考に選択した。

### （2）年月日の表示

年表は，暦年ごとに区切った。月，日のわかるものは記載した。林道の竣工のように，年度として記録されているときは，そのまま同じ暦年に読みかえたので，翌年3月末まで，ずれる場合も予想される。

### （3）見出し項目

千演関係の事項については，内容に応じた見出し『項目』を付けた。事項によっては複数の項目にわたる場合もあるが，重要度，他の事項との関連などを検討し，一つにした。

見出し『項目』と『内容』を，ほぼ『番外メモ』の記載順に，以下にしめす。

〔試験・研究関係〕

『養魚』養魚試験

『飼育』野獣園でのニホンジカを中心にした野生動物飼育試験

『木炭』製炭および乾溜試験，製品の払い下げ，本学への納入など

『椎茸』椎茸培養試験

『量水』森林治水試験

『樟脳』葉製樟脳試験，樟脳採集試験

『薬草』薬草栽培試験



『気象観測』気象観測関連の特記事項

『観測協力』地震研観測機器設定場所の提供など

『その他試験』上記以外の試験関連の特記事項

〔実習・教育関係〕

『実習』実習関連の特記事項

『視察』総長などの視察

『研修』篤志林業夫（林業実地見習），その他の研修関連特記事項

〔保護・管理関係〕

『気象害』異常気象による自然災害，記載内容：原因，被害地域，被害項目と程度；大

●，中◎，小○，なお，関東大地震による災害は『地震』

『火災』千演内森林火災，記載内容：場所，林小班，被害樹種，林齢，面積，原因，ほかに，森林火災の近火，一般火災

『禁猟』のち範囲を広げ『自然保護』

『狩猟』除害狩猟（参加者，猟獲），その他の特記事項

『保護嘱託』保護嘱託巡査

『盗伐』森林犯罪（場所，被害内容），ほかに『密猟』を別項に

『労災』労働災害（場所，原因，被害）

『レク』レクリエーション利用，公園

『試掘』試掘出願関連の特記事項

『計画』経営案（編成担当者，適用年次）

『測量』三角測量，地形測量，航空測量など

『境界査定』

『係争』下げ戻し問題など

『人事』古い時代の採用，退職，他演への転任など，なお，『主任（林長）交替』，『応召』（軍への召集）を別項に

『組織』管理組織，業務分担など

『雇用』定員，資格など

『給与』待遇，賃金，手当など

『収支』予算，会計関連の特記事項

『土地』土地の購入，借り入れなど

『建物』

『施設』苗畑の新設など

『造林実績』人工造林面積の累計



『用材供給』 本学への用材処分

『用材』 一般への用材処分の特記事項

〔交通・通信関係〕

『鉄道』『バス』

『道路』 林道，県道など

『車輛』 自転車，自動車

『通信』 郵便，電信

『電話』 一般の電話

『構内電話』

〔戦時下の千葉演習林〕

『南林・南拓』 南方林業要員錬成所，南方開拓技術員養成所

『勤労』 勤労奉仕，勤労働員

『軍隊』 旧軍，自衛隊

〔その他〕

『地元』 行政区画の変更，地元への補助金，謝金，随契払い下げなど

『他演』 演習林間の労力，物品などの融通

『記念』 五十周年，記念碑など

ほかに，『占領』，『職組』，『その他』

#### (4) 各年欄外の記載事項

『試験／研究』

前述のように，往復文書，その他の資料に準拠した。試験地の設定，新しい研究の開始などを記載した。

「試験の名称」は，統一のため改変，短縮したことがある。試験場所の小班名は，当時のものとしたが，試験地などとして現存する場合は，現行の小班名に改めた。

『来演』

本学・林学科，林産学科関係からの来演が，もっとも多いが，内輪同士のためか，残された記録がとぼしい。脱落の多い記述は，誤解を生じかねないので，ここには記載しなかった。

来演の目的によって，以下のように分類した。

〔見学／実習〕 月／日，学校名（指導教官，科目），教官数＋学生数

〔視察／研修〕 月／日，団体などの名称，引率者数＋参加者数，原則として，団体単位



のものだけを収録したが、芳名録が完備しない昭和年代初期までと、特別の場合は、個人についても記載した。

〔調査／研究〕月／日，所属，氏名（目的）

〔その他〕月／日，団体などの名称，参加者数（目的），上記3項目以外の目的での来演であるが，1965／S40年ごろ以降は，生物サークルなども〔その他〕とした。

記載のない場合の宿泊場所は，清澄宿舎である。

### 〔講師派遣〕

月，講師名（内容，講習先）

### 〔研究材料〕

〔提供〕月，内容 → 提供先

飼育動物（ニホンジカ），椎茸関係の分譲は，最初だけを記載。

〔受領〕月 内容 ← 提供者

〔来演〕，〔講師派遣〕，〔研究材料〕の記載は，〔試験／研究〕の場合とちがひ，主として往復文書のみによったので，脱落が多いと思われる。

〔年〕月／日	項目：内容	〔演全体，他演〕	〔学内〕	〔学外一般〕
〔1892／M25〕				
12	本多静六助教授，学生実地指導旅行テ 清澄ヲ 訪レ，帰校後同地域ニ 演習林設置ノ 議ヲ 起ス			
〔1893／M26〕				
(1894?)	清澄官林（大多喜小林区署管内）テ 乙科生徒，測量，森林設制学実習（1894/07/01開催，大日本山林会第10回総会ノ 参考陳列品ニ 実習成果ノ 基本図ト 林業図ヲ 出品）			
〔1894／M27〕				
08/01	《清国ニ 宣戦布告，日清戦争》			
11/29	千葉演習林，清澄官林ニ 発足 「千葉縣長狹郡清澄文部省用地 一 實測面積參百參拾六町四反壹畝壹歩 農科大學林學實習用トシテ 使用スベシ（明治二十七年十一月二十九日文部大臣達） 農科大學維持資金ニ 編入ス（明治二十八年五月六日文部大臣達）」		（東京帝國大學農學部附屬演習林例規）	
12/26-1895/01ナカ	実習：演習林ニ 入ル 最初ノ 実地演習（志賀，本多，河合引率）			
—	ソノ他試験：浅間山 41A <sub>1</sub> ，独鈷山 42A ノ 禁伐ヲ 継続			
〔1895／M28〕				
04/03-10	実習：本多，第1回造林学現地実習テ 見本林，人工林ノ 造成開始（活着不良）			
04/05	禁猟：演習林禁猟ノ 手續キヲトリ，禁猟制札ヲ 立テル			
04/17	《日清講和条約締結，台湾領有》			
〔1896／M29〕				
01/01-05	狩猟：川瀬，志賀，河合 勲，仔猪1（川瀬ニ 入ル 除害狩猟ノ 始マリ）			
03/29	地元：長狹郡ガ 安房郡ノ 一部トナル			
春	実習：本多，造林学現地実習テノ 造林ヲ 継続（フタビニ 活着不良）			
11	火災：梨ノ 木台43，サト 5年生 0.60 ha，原因不明			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
<b>【1897/M30】</b>				
春	実習：本多，造林学現地実習デノ造林ニヨク成功（南沢ノ松野記念林）			
04/17	鉄道：民営房総鉄道，上総一ノ宮マテ延長（千葉・上総一ノ宮間開通）			
06/22	【帝國大學 → 東京帝國大學ト改称（京都帝國大學ノ開学ニトモウ）】			
12/25	久留里小林区署管内，奥山官林ナドヲ編入（東京帝國大學農學部附屬演習林例規）			
	「上總國君津郡松丘村大字大阪外十二，總稱奥山外面貫外七十四字官林内 字郷田倉外三十七字 一 反別千八百參拾參町九反歩（但立木共） 同國同郡龜山村大字四方木六百十七番ノ二古川官林 一 反別參町歩（但立木共） 農科大學ニ於テ使用ス（明治三十年十二月二十五日文部大臣達） 農科大學維持資金ニ編入ス（明治三十一年二月二日文部大臣達）」			
12	狩猟：川瀬ハ，仔猪4，狸1，猿1			
—	視察：濱尾総長ハ（11/06 濱尾ハ文部大臣ニ就任，時期ハル以前カ）			
	【試験／研究（試験地設定，研究開始ナド）】			
	「内外国樹種見本林」長坂，七曲45D <sub>3</sub> (1901=モ)，地藏堂堀ハ（造成開始，1918概要）			
<b>【1898/M31】</b>				
—	組織：奥山官林編入後，清澄ニ詰所ヲ設ケ，雇員1名ヲ置ケ，ナ1名増 （シラマデハ，トケニ管理機関ヲ置カス，大多喜小林区署ニ保護ヲ委託） <sup>K1</sup>			
05/13	【農科大学乙科廃止，実科設立】			
07/20	【東京帝國大學官制（明治三十年六月勅令第二百十号テ公布）ニ演習林ノ条項ヲ 追加（明治三十一年七月勅令百七十一号テ公布）】			
	「第十五條 農科大学附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大学教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ 補ス 演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス」 （1919/03/31ノ官制改正テ第十條ニナル）			
08/25	組織：清澄ニ演習林派出所*ヲ開設，書記1，ナサニ助手1ヲ置ケ <sup>K1</sup> * 国有林テハ当初，大林区署ノ下ニ派出所（ナ小林区署ト改称）ガアッタ			
08/25	人事：松村繁栄助手着任（→ 千演主任）			
09/09	演習林長就任：川瀬善太郎教授			
<b>【1899/M32】</b>				
03/24	建物：清澄派出所庁舎竣工（ナノ教官宿舍）W1: 128 m <sup>2</sup> ，ハニ定夫小屋ナド			
04/01	【農科大学構内ニ農業教員養成所開設（1902年 農科大学附屬施設トナル）】			
04	係争：清澄寺カ林地 271 haト同上林木ノ下ケ戻シ申請（1939/40年解決）			
10/13	北海道演習林創設			
12/13	鉄道：民営房総鉄道，大原マテ延長（千葉・大原間開通，1907年国有化，房総線）			
12	建物：清澄寄宿舎（初代）竣工 W1: 131 m <sup>2</sup> （1914年 札幌へ移築）			
—	記念：『三輪治三郎君』碑建立（七曲外国樹種見本林入口） 道路：郷台林道竣工（1898年起工）全長 7,909 m 幅 2.1 m （清澄・池ノ沢間ハナハ拡張工事ガ必要） <sup>HM33/07/07</sup>			
<b>【1899/M32】</b>				
03/24	建物：清澄派出所庁舎竣工（ナノ教官宿舍）W1: 128 m <sup>2</sup> ，ハニ定夫小屋ナド			
04/01	【農科大学構内ニ農業教員養成所開設（1902年 農科大学附屬施設トナル）】			
04	係争：清澄寺カ林地 271 haト同上林木ノ下ケ戻シ申請（1939/40年解決）			
10/13	北海道演習林創設			
12/13	鉄道：民営房総鉄道，大原マテ延長（千葉・大原間開通，1907年国有化，房総線）			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
12	建物：清澄寄宿舎（初代）竣工 W1: 131 m <sup>2</sup> （1914年 札郷へ移築）			
—	記念：『三輪治三郎君』碑建立（七曲外国樹種見本林入口）			
	道路：郷台林道竣工（1898年起工）全長 7,909 m 幅 2.1 m			
	（清澄・池ノ沢間ハ材 拡幅工事が 必要）HM33/07/07			
【1900/M33】				
01/04-05	狩猟：川瀬，樺山 材，仔猪 1，牡鹿 1（川瀬，除害狩猟ニ 文相樺山資紀ヲ 招待）			
01	係争：池ノ沢事件（池ノ沢，小屋ノ沢官林ト 西原民林ノ 境界係争，1902年解決）			
02/14	建物：巡視詰所（清澄）W1: 60 m <sup>2</sup> 竣工			
03/01	【篤志林業夫規則ヲ 制定】			
03	境界査定：濁川，仲沢，前沢方面 HM33/03/13			
04	火災：桜ヶ尾43，下木 0.30 ha，煙草火？			
06/14	《義和団，連合国ト 北京テ 戦闘》			
06	【農科大学所属演習林区内旅費規則改正（千演，北演ニ 適用）】 CM33/06/28			
08	【農科大学へ 会計検査（文部省）テ 演習林 ニモ 若干ノ 指摘】 CM33/08/03,09/01			
09-11	計画：松村，千演ノ 運営方針ニ 対シ 林長，林学科教官ト 文書ヲ 往復			
10-11	境界査定：黄田畑区方面（1904/02,09，誤謬ノ 大量訂正）CM33/10/19,11/18			
11	組織：本演 カ 『寄宿舎宿主員ノ 心得』『防火心得』（M22/02/04 制定，M25/12/28 改正）ヲ 受領（防火体制 ヲ 考ヘ 参考）			
11	測量：陸地測量部カ 三等三角点ヲ 一盃水，高天神，西原，大見山ニ 設定 （元清澄テハ 大学テ 埋 メ 標石 [掘リテ 現存] ト 一致）CM33/11/20			
11/17	気象害：暴風雨，清澄管内；建物○			
12/10	養魚：今澄養魚所テ マ 養魚試験ヲ 開始（1909年 コロ 中止）			
—	盗伐：奥山方面（詳細不明）			
—	施設：郷台（畑）苗畑（圃）開設（1901年拡張）			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』				
「カ類造林」本多ノ 指示テ 造林用 ニ アカシ，シラカシ 種子ヲ 採取，土中埋蔵，付イカシ 種子ヲ 熊本大林区署ニ 依頼				
「クスノ造林」追原17D <sub>6</sub> ，硯石47D <sub>2</sub>				
『来演』				
【見学／実習】10 御宿高等小学校 高等科3,4 学年男子生徒 CM33/10/23				
【視察／研修】03 長野大林区署長 白河太郎 HM33/02/22				
【1901/M34】				
01	通信：天津郵便局電信業務開始			
02-03	密猟：演習林内密猟状況ノ 本演 へ 報告ト 取り 締 マリ			
03	火災：近火，清澄方面隣接民有地，火入レ			
03	建物：郷台畑ニ 森林經理実習生用ノ 簡易宿泊小屋ヲ 整備			
08	境界査定：筒森国有林方面 HM34/08/24			
09	地元：江見高等小学校用材払い下 ヲ HM34/09/15			
12	養魚：猪ノ川ニ 新養魚池設置案（実現 セス，松村，養魚試験ノ 前途ニ 不安ヲ 表明）			
—	木炭：官行製炭（製炭試験）開始（大降西，1900年？）			
	木炭：本学（駒場）へ 木炭輸送ヲ 開始			
	禁猟：狩猟法一部改正(1901/04) へ 対応不充分テ 『清澄地先禁猟区』ハ 法的ニ 無効トナル （ソノマ 1923年 マテ 経過）			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』				
「測樹関係資料収集」冬期休暇期間 寺崎 渡（大学院研究事項） HM34/11/21,24				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
<b>【1902/M35】</b>				
02末	火災：切通茶店裏，0.00 ha，火入レ			
03/11	火災：長坂，平四郎茶店焼失，見本林 1.7 ha，茶店侵入者ノ失火			
03	視察：山川総長，松井学長 共			
03	気象観測：来演ノ銚子測候所員ニ本(M35) 年度 カ観測開始ノ予定ト回答（本演ヘ予算ノ トヲ照会）			
05	境界査定：四方木区方面 HM35/05/26			
06	木炭：木醋液採集ニヨル醋酸塩（曹達，石灰）製造開始（観音南沢）			
08/01	研修：『森 榮太郎』篤志林業夫病死（脚気）			
09/18	府中演習林，代々木演習林創設			
09/25	台湾演習林創設			
09/28	気象害：暴風雨（台風），全域；林木◎，建物○，共ニ貨物船遭難ヲ海路輸送中ノ 本演ヲ木炭ト流失			
—	木炭：本学（農科大学）ヲノ木炭納入量増加 道路：一杯水林道竣工（1900年起工） 全長 2,367 m 幅 2.1 m			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』				
「枝条・幹材比率」05 戸沢又次郎（卒論資料） HM35/05/10				
<b>【1903/M36】</b>				
03/04	建物：清澄標本室及機械室竣工（派出所事務所） W2: 89.1 m <sup>2</sup>			
04	木炭：醋酸石灰，醋酸曹達ヲ日本醋酸製造株式会社ヘ納入開始			
10	地元：輪伐払い下ケ炭材ノ対象ガ炭焼人ノミカ区民一同カ問題ニナル HM36/10/26			
11/28	火災：切通茶店焼失（焼死者 1），炊事失火			
—	測量：実習トニヨル千演全体ノ測量，調査，ヒトマス 終了，地況，林況ノ概略判明 施設：札郷（堂沢）苗畑開設（同年，前沢，仲沢，濁川ノ各苗畑ニ開設） 造林実績：千演創設後ノ新植地累計 160 ha CM36/06 道路：四方木坂本・荒桧沢半軒茶屋間 県道工事 HM36/10/23			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』 「低湿地造林」安野2C5				
<b>【1904/M37】</b>				
02/10	《ロシアニ宣戦布告，日露戦争》			
02/17	火災：硯石47b,d，カマヲ5年生不良造林地 共 6.5 ha，煙草火？			
02	木炭：醋酸塩製造本格化			
02	境界査定：黄和田畑方面ヲ大量誤謬ノ訂正 CM37/02/05			
02	土地：龜山村所在ノ民有林ト演習林ノ交換 CM37/02/12			
04	収支：モミ板価格上昇，払い下ケ出願者増加（軍需用箱材需要ニヨル）HM37/04/14			
04	収支：造林，実習トニテル年度末予算ノ余裕ヲ本演ヘ要望 HM37/04/17			
04	《軍事費調達ノタメ予算使用ノ極力節約通達（文部大臣）》			
05	応召：川嶋明八助手，第8師団31連隊（弘前） CM37/05/14 （1901年本科卒，1907年助教授，1911年鹿児島高農教授）			
06	気象観測：観測台塗装用 白ペンキヲ本演ヘ注文			
09	係争：池ノ沢立木下ケ戻シ問題（1905年解決）			
12	養魚：仁ノ沢養魚池完成 1,023 m <sup>2</sup>			
—	ソ他試験：本演カ義眼受領（動物標本作成用） CM37/04/15 施設：仁ノ沢苗畑開設			
<b>【1905/M38】</b>				
02/06ゴロ	火災：池ノ沢22，ヒキ1902植 0.04 ha，煙草火？			
02/06	火災：切通45j，ヒキニ見本林 0.00 ha，煙草火？			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
02/17	火災：硯石47b,d, カマツ 6年生不良造林地 4.500 ha, 煙草火？			
02	収支：台演ノ収入好調ニキ 千演収入予定ノ一部ヲ来年度へ本演ヲ指示 CM38/02/23			
05	視察：山川総長，松井学長 4			
05	木炭：『長塚 節』醋酸塩製造試験ヲ見学（写生文『炭焼きのむすめ』）			
05	木炭：謄写版購入（醋酸塩製造パンフ，実習生日誌，公売案内作成用）HM38/05/13			
06/30	人事：三浦常雄助手，北演（主任）へ転勤			
06-08	道路：清澄・天津間 県道経路ノ検討（見本林へノ影響ヲ懸念）			
09/05	《日露講和条約締結，南樺太領有》			
—	樟脳：葉製樟脳試験開始（1911年中止）			
	気象観測：清澄ヲ観測開始（1902年コロカヲ準備，予備観測？ 1918概要）			
	計画：松村繁栄『第一次経営案（千葉県下演習林経営方案）1905-1909』			
	道路：仁ノ沢林道竣工（1901年起工） 全長 1,767 m 幅 1.5 m			
	道路：四郎治林道竣工（1904年起工） 全長 4,084 m 幅 2.1 m			
	【来演】【視察／研修】 03/02- 山林局試験苗圃 白澤保美 CM38/02/25			

## 【1906／M39】

04	境界査定：久留里小林区署笹保護区方面 CM39/04/20
06	境界査定：折木沢区方面 CM39/06/20
06	土地：折木沢細野 36 ha 購入 CM39/06/20, 40/02/04
09	人事：勘太郎（苗字不詳）渡台（台演）ノ件 CM39/09/20
12/04	火災：大仙場35b, スキ 1901植 0.30 ha, 煙草火？
12/29	火災：近火，天津共有林
12	狩猟：川瀬 4, 牝猪 2, 牡猪 1, 牝鹿 1
—	道路：清澄周辺 県道工事 CM39/05/11

【来演】【見学／実習】 06 木曾山林学校 2,3 学年生徒

## 【1907／M40】

01/04	火災：池ノ沢22b, スキ, ヒキ 1903植 0.02 ha, 東條共有林 カヲ類焼
01	樟脳：硯石 クノキノ小枝ト生葉ヲ原料トスル 第1 回試験
01-03	火災：郷田倉25d, スキ 13年生 0.87 ha, 0.85 ha, 0.18 ha, 放火（3 回）
04	盗伐：カワ, コウゾ（副産物）払い下ケ 伺イ（盗伐予防） HM40/04/23
春	椎茸：椎茸栽培開始（1908年本試験開始）
06/10	盗伐：神田上，70年生 スキ 1 本
10	用材供給：本学，井原寅松技手来演（供給予定材ノ木口検査） CM40/10/19
12 カ	用材供給：建築材（農科大学学生集会所増築，三崎臨海実験所増築） CM40/12/12
12/26-29	狩猟：川瀬，右田，諸戸 4, 鹿 3
—	道路：本沢林道 坂本区民地通過問題（1908/02 土地購入） CM40/12/04, 41/02/19

## 【1908／M41】

02/27	火災：四郎治沢14a, 神田上16a, スキ 1901植 0.23 ha, 煙草火？
02	収支：立木処分方法ノ詳細ヲ会計検査院へ報告 CM41/02/16
03/10	労災：本沢林道工事，岩石崩壊，林業人夫死亡 1, 重体 1, 軽傷 2
03/20	建物：郷田倉宿舎竣工 W1 付属建物 ト 248 m <sup>2</sup> （郷田作業所開設？）
03	他演：鉄20, 鎌20ヲ購入シ北演へ送ル HM41/03/10
05	視察：濱尾総長，松井学長，随員，山口孝吉建築技師 4
05 カ	用材供給：建築材（法文科大学学生控室） CM41/05/10
07 カ	用材供給：建築材（三崎臨海実験所増築第二回分） HM41/07/08, CM41/10/14
09 カ	用材供給：建築材（演習林本部付属官舎，農科大学教室修繕用） CM41/09/27
09	気象観測：風力計ニ故障多発（10/31 新品ヲ受領）



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
10 ㍻	用材供給：建築材（農科大学動物学教室新営，1909/10 竣工）	CM41/09/12		
—	椎茸：椎茸培養場設置（小屋ヶ尾）	HM41/10/03		
	道路：相ノ沢林道竣工（1905年起工）全長3,100m 幅2.1m			
-----				
【1909/M42】				
04 ㍻	用材供給：本学へ建築材供給（農科大学植物学教室新営，1910/05 竣工）	CM42/04		
05/29-31	視察：上山満之進山林局長（川瀬林長案内，三石方面，千演拡張問題？）			
05	椎茸：宮城大林区署ニ孢子分譲（孢子，楢木分譲ノ始マリ，表10参照）			
05	盗伐：郷田倉 ㍻，伐用『ササ木』材料，雑木2百束（前年3月ゴロ㍻）			
06	木炭：陸軍砲兵工廠分析掛へ落駄炭見本ヲ送ル			
07/30-08/26	視察：川瀬林長，右田教授，各所			
09/09	主任交替：松村繁朶助手（本演へ）→ 川原勘次郎助手（千演勤務，1911/03助教授）			
10	飼育：小屋ヶ尾野獸園開設，奈良県春日産仔鹿3頭ノ飼育開始			
10	椎茸：日英博覧会へ椎茸楢木，乾燥椎茸ヲ出品			
10	収支：台演増収，千演ノ収入達成ニ無理ハ不要ト本演 ㍻ 指示	CM42/10/27		
12	他演：鋏，鎌ヲ北演へ送ル	CM42/12/?		
—	木炭：官行製炭窯所在；相ノ沢竈（複数），一杯水竈(2)，桜ヶ尾竈(2)，硯石橋竈，永井竈，栗ヶ沢竈，梨ノ木台下備長竈（新設）	CM42/10/27		
	ソノ他試験：見本林用ニ諸樹種ノ苗ノ斡旋ヲ近野英吉助手ニ依頼	CM42/04/05		
	施設：武者戸（小屋ヶ尾）苗畑開設（1906年ステニ小規模テ存在？）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「スキ，ヒノキ3-7年生苗 樹高成長ノ季節変化」本多ノ依頼ニヨル	CM42/04/28		(1910ニモ継続)
	「スキ，ヒノキ列状混播植栽」向山6b1, 1910ニワタル，「エンビ°ヰ°ヤクシ 見本林」鍛冶坂			
	「鉄索ニヨル木材運搬」瀧ノ沢	CM42/05/09		「水力ニヨル小用材ノ製材」稚児ヶ瀧
	CM42/06/22			
	【来演】【見学／実習】01/01-（小梅屋泊）盛岡高農・林2+23	CM41/12/21		
	【研究材料】【受領】04 ラクショウ 苗150本 ← 林学科			
-----				
【1910/M43】				
02/01	火災：鳥居沢2a, スキ，ヒノキ1903植 2.87ha, 狩獵者ノ失火			
04	鉄道：木更津・久留里間 県営鉄道敷設計画ノ経済調査ニ回答			
08/01	ソノ他：健康診断（対象：所員，定夫，準定夫）			M43 派出所日誌
08/22-24	収支：会計検査（第1回？会計事務，郷田苗圃，官舎ト）	CM43/05/25, 08/12 ト		
08	気象害：大雨（前線ト台風），千演外；和泉道崩壊			
09 ㍻	用材供給：建築材（本部会議所増築，小屋ヶ尾伐採）	CM43/09/29, HM45/02/03		
09	記念：『松野先生』記念碑建立（七曲外国樹種見本林入口）			
10	木炭：天津町龍ヶ尾ニ木炭置場借り入レ			
12	土地：長坂ニ茶店ヲ建テ民有地ノ有無カ問題ニナル	CM43/12/07		
—	木炭：官行製炭本格化，本学へ木炭，砲兵工廠へ落駄炭納入トテ生産量増加			
	計画：右田半四郎『第二次経営案（千葉縣下演習林改訂経営案）1910-1914】			
	【研究材料】【提供】06 クスノ幹 → 本演			
-----				
【1911/M44】				
01	ソノ他試験：材鑑，岩層標本採取			M43 派出所日誌
03/25-27	視察：古在学長，久保助教授隨行，川瀬林長案内			M43 派出所日誌
03	気象観測：清澄テ 林内外ノ比較，治水目的ノ天津，郷田テノ測定ノ意見	CM44/03/02		
04	木炭：東條村和泉ニ木炭倉庫借り入レ			
04	飼育：小屋ヶ尾野獸園拡張，0.41ha → 1.13ha			
04	組織：『千葉縣下演習林業務實行仮規則』『同各部業務取扱心得』キマル	HM44/04/11		
05 ㍻	用材供給：建築材（本学教官会議所新築，1912/02 製材）			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
06	土地：天津ノ土地購入ヲ高値ノヲ断念 CM44/06/03,17			
06	組織：『千葉縣演習林』名入り公印ノ使用開始			
07	収支：北演テ山火事被災木ヲ大量処分，千演ノ収入予定額減額サレル CM44/07/07			
07/25,08/21	気象害：2回ノ暴風雨（台風），清澄管内；林木◎			
10	養魚：仁ノ沢養魚池テコイ，ナナノノ大量密猟被害（養魚試験ステニ中止）			
11	盗伐：仁ノ沢，団扇用ヲ，1千本以上（1913年発覚）			
12	狩猟：『演習林清澄禁猟区内除害狩猟規則』ヲ検討			
12/26-28	狩猟：川瀬 ㊦，牝猪4，仔猪1，牡鹿3，兎1			
【研究材料】	【提供】ミ試験用材 → 藤岡光長林学士 CM44/01/25			
-----				
【1912/M45, T01】				
01/08	盗伐：東漢沢，埋没流木			
01/16	火災：土沢12b, 細野12a, スキ 1909植 0.20 ha, 放火		HM, CM45/01/10	
01	ソノ他試験：秋田，天竜，九州産 スキ 種子ト北山 スキ 挿シ穂ノ入手ヲ本演ヘ依頼			
02/05	盗伐：山椒沢付近，カマスミナト（洋傘ノ柄用ナトトシテ）			
02	人事：門田 管助手ノ台演転勤予定，前任者病氣テ繰リ上ケ HM45/02/29			
03/18	木炭：荒天ノヲ平砂浦テ貨物船遭難，輸送中ノ落駄炭ノ一部ヲ失フ			
03	飼育：トイタムシカ，ノロシカノ飼育開始（小屋ケ尾野獣園）			
03	他演：鉄，録ヲ北演ヘ送ル CM45/03/2			
08/21	鉄道：国鉄木更津線，木更津マテ延長（千葉・木更津間開通）			
09/01	気象害：暴風雨（台風），清澄管内；林木○，建物○，施設○			
12/12	朝鮮江原道演習林，朝鮮全羅南道演習林創設			
12/25-27	狩猟：川瀬，濱尾 ㊦，牝猪2，牝鹿2，牡鹿3（前総長ヲ招待）			
12/28-30	気象害：大雪，全域；林木●			
12/28	鉄道：千葉県営軽便鉄道，久留里線（木更津・久留里間）開通			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
【産地ヨリ母樹年齢トスキ，ヒキノ造林】七曲45m，今澄24j				
【7造林】郷台畑水源林雑木内，ナナノ挿シ木苗（能登国産，寄贈） CM45/03/16				
【研究材料】				
【受領】02 秋田スキ種子 ← 羽後国北秋田郡下大野村八幡岱，藤田市太郎（秋田大林区署林 駒之助幹旋） HM45/02/22				
-----				
【1913/T02】				
03	土地：天津町龍ケ尾民有地 1,089 m <sup>2</sup> ヲ購入			
03/10	火災：菖蒲沢36g, スキ 1907植 2.00 ha, 筒森国有林 ㊦ 類焼			
03/11	火災：菖蒲沢36g, スキ 1907植 4.00 ha, 筒森国有林 ㊦ 再度類焼			
04	人事：山口初太郎，黒川富庄ヲ江演定夫ニ推薦 CT2/04/26			
05	地元：清澄区小学校分教場新築，不足資金援助ノ要請ヲウケル CT2/05/06[C27]			
05	土地：亀山村蔵玉神田上官有地 17,820 m <sup>2</sup> 農商務省 ㊦ 移管			
06/10	主任交替：川原勘次郎助教授（中国ニ招請サレル）→ 菌部一郎嘱託（1914/01助教授）			
06/20	鉄道：国鉄房総線，勝浦マテ延長（千葉・勝浦間開通）			
09/07	構内電話：札郷線（清澄・札郷間），郷台線（清澄・郷台間）開通			
11	土地：亀山村折木沢新田民有地 55,440 m <sup>2</sup> ヲ購入			
12/08	建物：清澄寄宿舍（二代目）竣工，W2: 300+76 m <sup>2</sup>			
—	量水：足谷テ森林治水試験開始，流域面積 23 ha（1916年中断，1919年再開）			
	道路：札郷林道竣工 全長 574 m 幅 1.5 m			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】 【ミ，カノ天然更新試験】濁川32i				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
--------	-------	----------	------	--------

### 【1914／T03】

- 01/29 火災：柚ノ木沢3d, ｽｷ\*, ﾋﾉｷ 1911 植 0.40 ha, 通行人ノ失火
- 02/08 火災：長坂45k(j), 見本林 0.20 ha, 放火?
- 02/09 道路：地元所有者，猪ノ川林道敷地ヲ寄付 HT3/02/26, 09/?
- 03/01 建物：札郷寄宿舎竣工（一代目清澄寄宿舎ヲ移築）（札郷作業所開設?）
- 03 土地：天津町龍ヶ尾民有地 1,091 m<sup>2</sup> 購入
- 06/07 樺太演習林創設
- 07/16 人事：清水憲造助手，全演（主任）ハ転勤 CT3/07/31
- 07/28 《第一次世界大戦始マル（08/23 日本参戦）》
- 09 土地：独鈷山付近県道ヲ土地（小屋掛け）貸付継続（火災見張りヲカネル）HT3/09/10
- 10/29 構内電話：小屋ヶ尾線（清澄・小屋ヶ尾椎茸培養試験所間）  
天津線（清澄・天津龍ヶ尾木炭置場間） 開通
- 12 木炭：木炭価格大暴落 HT3/12/19
- 木炭：石造窯（高嶋式乾溜窯）ニヨル 木材乾溜試験開始（一杯水，T4ﾊｼﾞﾏ?）  
道路：本沢林道竣工（1908年起工） 全長 2,594 m 幅 2.1 m  
道路：猪ノ川林道竣工（1911年起工） 全長 4,080 m 幅 2.1 m  
道路：同上接続線林道竣工（1909年起工） 全長 249 m 幅 2.1 m
- 【来演】 【視察／研修】 03-04 東京大林区署林務教習生（1組 03/16-18, 2組 04/08-10）

### 【1915／T04】

- 03/22 火災：近火，筒森国有林
- 03 土地：切通南沢 125 m<sup>2</sup> 貸付（小屋掛け，火災見張りヲカネル）HT4/03/24
- 04 電話：天津町カラ公衆電話開設費用ノ一部負担要請ヲウケル（1916/03/29通話開始）
- 04 保護囑託：天津町駐在ノ千葉県巡査ニ境界保護ヲヲ委嘱開始
- 07 盗伐：向峯，20年生ｶｼ 10本
- 09/03 主任交替：菌部一郎助教授（本演ハ）→ 高嶋規孝囑託（1917/4助教授）
- 10-11 盗伐：願人坊山ノ柵下，25年生ｽｷ\* 5本，45年生ｽｷ\* 3本
- 11 木炭：落駄炭ノ価格暴騰 CT4/11/23
- 12 実習：森林経理学，亀山村蔵玉ニヲナス 発生ノタメ 宿泊場所変更
- 造林実績：千演創設後ノ新植地累計 511 ha（ウチｽｷ\*+ﾋﾉｷ 98%），1918概要  
道路：一杯水・足谷間 林道竣工（1915年起工） 全長 1,236 m 幅 2.1 m

#### 【試験／研究（試験地設定，研究開始ヲ）】

「造林（斜面上ノ位置ト成育ヲ）」 亀ノ沢，小屋ヶ尾， 1918概要

【来演】【見学／実習】 03 秋田鉦専（地質）CT4/02/26

#### 【研究材料】

【提供】 04 ミヤマシキ陰干シ葉 200 kg → 本学医科大学（有毒成分研究用）CT4/04/22

### 【1916／T05】

- 01/03-06 狩猟：川瀬 ㊦，牡猪 2，牡鹿 2，仔鹿 1
- 02 火災：柚ノ木沢3b, ｽｷ\* 1909 植 0.05 ha, 通行人ノ失火
- 03/29 電話：鴨川・天津間，電話架設竣工（東京・天津間通話可能）
- 04 演習林例規（加除式）CT5/04/01(H11), T10/12（加除式），S6/07（製本）印刷
- 04 視察：九大総長（野獸園ヲ）CT5/04/22
- 05 飼育：鹿数頭ヲ北演ハ移ス準備（本演ノ指令ニヨル）
- 06 他演：山下文七定夫，秩演予定地調査手伝 HT5/06/08
- 07/08 飼育：郷田野獸園開設
- 07/29-08 ㊦ 気象害：暴風雨（台風）+ 長雨，全域；林地●，林道●，施設○
- 09 木炭：小屋ノ沢（郷台）ニ醋酸石灰製造小屋設置



【年】月／日	項目：内容	演全体、他演	【学内】	【学外一般】
09	構内電話：小屋ヶ尾・高天神間開通			
12	秩父演習林創設			
—	収支：大戦ニヨル船腹不足デ木材価格高騰、木炭価格も高騰 気象観測：清澄デ正規観測ヲ開始			
【試験／研究（試験地設定、研究開始ト）】				
「森林試験測定地（スギ、ヒノキ、クス林デノ本数、直径、樹高、材積トノ継続測定固定試験地）」				
スギ：安野 1,2号 2C <sub>5</sub> , 郷台 1,2号 10C <sub>1</sub> , 郷田倉26C, 札郷 1,2号 27k, 千石33a, 黒塚41C <sub>5</sub> , 南沢 1-4号 45C <sub>10</sub> , 二ノ台46C <sub>6</sub> , 遠矢ヶ台47i; ヒノキ：女瀧 1-3号 38C <sub>7</sub> , 大平 1,2号 46C <sub>6</sub> , C <sub>8</sub> ; クス：硯石47C <sub>2</sub> ;				
【研究材料】				
【提供】02スギ材→台湾台北共進会; 10千演関係資料→熊本県立球磨農学校演習林部				
-----				
【1917/T06】				
01	地元：二間川カラ製氷原料水取水ノ出願ニ対シ権限外ト回答		CT5/12/27[C124];	CT6/01/26[H212]
02/05	労災：一杯水・長尾沢歩道、運搬作業中ニ路面崩壊転落、林業人夫負傷 1			
02	飼育：キジ飼育開始（小屋ヶ尾野獣園）			
03-09	用材：東京湾要塞（築城部本部横須賀支部）へ電柱材納入		HT, CT6/06/16	
	（一杯水・足谷間林道デノ長材搬出試験ヲカネル）		CT6/03/05, 06/12, 09/05 **	
03/27	車輛：自転車購入（木炭入札処分トノ連絡用）			
04/25	構内電話：郷台畑・瀧ノ沢・折木沢間開通			
04	建物：天津町龍ヶ尾ニ保護官舎（天津第一号官舎）竣工 W1: 107 m <sup>2</sup> （半分ヲ天津町第二駐在所トシテ千演保護囑託巡査ガ居住）			
05	気象観測：林内外比較観測準備ノタメ中島道郎助手、銚子、筑波山測候所へ		CT6/05/14	
07-08	組織：事務ノ方式統一ノタメ森本 晉雇、本演へ1週間出張		CT6/07/30	
08/13	飼育：小屋ヶ尾野獣園カラ北演ト北海道林試へ鹿移送			
09	人事：斉藤市蔵、千演人夫カラ秩演定夫へ（労力不足対策）		HT6/09/10	
09/30-10/01	気象害：暴風雨（台風）、全域；林木●、建物○、施設○			
10/27	労災：相ノ沢、風倒木処理中ニ岩盤崩壊シ転落、林業人夫負傷 1			
11/07	《ソビエト政権樹立（ロシア10月革命）》			
12カ	木炭：木炭価格暴騰、本学へ職員用ヲ含メ納入（本学用ヲ優先ノタメ一般へノ処分ハ控エヨ ウ本演カラ指示ヲウケル）			
—	計画：右田半四郎・園部一郎『第三次経営案 1915-1924』（編成遅延） 測量：1/5,000 基本図完成 ESS 施設：郷台小屋ノ沢苗畑開設 道路：瀧ノ沢林道竣工（1916年起工）全長 1,414 m 幅 1.2 m			
【試験／研究（試験地設定、研究開始ト）】 「スギ老齢見本林」桜ヶ尾43D <sub>1</sub>				
「内国樹種見本林」大見山42D <sub>1,2,3,4</sub> , 三本松43D <sub>3</sub>				
【来演】【見学／実習】07/11-13 東北大・農・林（新島善直教授、夏季修学旅行）1+15; 04/13- 中国学生 10				
-----				
【1918/T07】				
01/05-08	狩猟：川瀬、飯島、園部 カ、牝鹿 2, 牡鹿 3（狩猟状況ノ詳細記録7リ）			
02	地元：地元小学校へ補助金下付ニツキ検討		HT7/04/05, CT7/02/20, 03/30	
03/24-25	火災：真根沢36g, スギ、ヒノキ 1916植 0.20 ha, 筒森国有林カラノ類焼 （筒森国有林大火、2百ha焼失ノ詳細記録）			
05	他演：唐鎌良助、北演へ製炭、乾溜試験指導ノタメ出張			
06	他演：藤平祐三雇、秩演境界査定ニ出張		CT7/06/30	
07/23	《富山県下デ『米騒動』始マル》			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
09	密猟：鹿ノ死体ヲ栗ヶ沢テ発見，保護囑託巡査立会イテ，密猟カトウカラ検討			
10	木炭：土沢テ官行製炭トモニ醋酸石灰製造本格化			
11/11	《第一次世界大戦終結》			
11	係争：瀧ノ沢事件（下ヶ戻シ係争中テ公売中止，1919年解決）	CT7/11/16,19,12/25		
12	実習：森林経理学，スヘイン風邪（インフルエンザ）流行ノタメ実習延期			
—	収支：物価騰貴テ経費節約ガ要望サレタガ，予算内テノ旅費3割増支出ナトガ認めラレタ			
【来演】				
【見学／実習】06/19- 本学・医・学生13；06/29-07/03 南京江蘇省立第一農業学校 2+11；07/24-25 千葉県下中等学校博物科教員（植物採集）				
【視察／研修】03/16-18 盛岡高農 三浦第二郎助教授；04/23 夷隅郡林業家 50+；11 元山林局技師 村田重治				
【講師派遣】				
08 高嶋主任（製炭，乾溜：岡山県山林会，乾溜窯模型持参）				
-----				
【1919／T08】				
01	地元：スヘイン風邪ニヨル木挽職休業テ特売払い下ヶ立木ノ搬出期限ヲ延期	HT8/01/09		
02/07	【東京帝國大學農科大學 → 東京帝國大學農學部ト改称】			
02/08	気象害：大雪，全域；林木◎			
03/31	【東京帝國大學官制改正（大正八年三月勅令五十號），第十條ニ演習林ヲ規定】			
「第十條 農學部ニ附屬演習林及附屬農場ヲ置ク				
演習林ニ演習林長，農場ニ農場長ヲ置キ農學部ニ屬スル教授又ハ助教授ノ中ヨリ				
文部大臣之ヲ補ス				
演習林長及農場長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス」				
03/31	【学年制ヲ廃止，科目制ヲ採用，必修科目，選択科目ヲナク】			
04カ7	用材供給：建築材（本演演習林官舎新営）	CT8/04/17		
04	【試験事項調べ，試験計画のナモヲ作成（千，北，台，樺ノ各演別）】	CT08/04/18		
05-12	地元：小学校ハ林業補習教育費トシテ補助金交付開始（1917年ゴロカラ要望ノ実現，当初ハ清澄小，蔵玉小ノ二校ニ各百円ノ年，ナチ四方木小ナトヲクエ，金額ニ各千円ノ年程度ニ順次増額，1947年ゴロマテニ継続）	CT7/03/30[C27],CT9/08/24[C81]ナト		
05/24	鉄道：国鉄北條線，北條（館山）マテ延長（千葉・北條間開通）			
06/28	《ベルサイユ条約調印》			
07	給与：日雇イ払いノ常傭人夫ニ『林業夫』ノ辞令ヲ交付，日給分ハ前渡金払い，臨時手当ハ本演払いトナル（労力確保策）	CT8/06/26[H81,84],07/05[C64]		
07	量水：足谷テノ森林治水試験再開			
12	他演：高嶋式乾溜製炭竈築造経験者ノ派遣ヲ台演カテ要望	CT08/12/12		
—	地元：四方木小学校新築用材払い下ヶ	CT08/09/11		
施設：砂沢苗畑開設				
道路：土沢林道竣工（1918年起工） 全長 431 m 幅 1.2 m				
【試験／研究（試験地設定，研究開始ナト）】				
【スギ，ヒノキ間伐】南沢45C10 スギ強度； 大平46C6 ヒノキ弱度，中度，強度1号，強度2号（1919/01，1920/01 設定）				
【来演】				
【見学／実習】05/15 南京金陵大学 2+25；07/16 盛岡高農・林3年（武藤益蔵教授）1+15				
【視察／研修】02/04-03/15 東京大林区署第9 回森林主事林務教練 2+49；08/23-24 大日本山林会第1 回林業講習会 2+75				
【研究材料】				
【提供】12 高嶋式乾溜製炭竈模型 → 岐阜県林産参考館（陳列用）				
CT8/09/11,11/28				
-----				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
<b>【1920/T09】</b>				
02/22	火災：亀ノ沢21a, スキ+ヒキ 1915植 0.75 ha, 煙草火			
02	構内電話：『火災通報電話架設ノ件』トシテ 東京大林区署 カ照会 ガアツク			
05/11	【学年暦ノ開始ヲ9月カラ4月ニ変更，秋学期・春学期ガ夏学期・冬学期トナル】			
09/28	【林長交替：川瀬善太郎教授（農学部長ヘ）→ 右田半四郎教授】			
09	地元：建築材払い下ケ（清澄小教員住宅改築用）CT09/09/25			
09	境界査定：神田上，四郎治沢付近，民有林関係者トノ協議 CT09/10/22			
09	量水：西ノ沢，中ノ沢デノ森林治水試験予備観測開始，流域面積 81 ha (1921/06 本観測開始)			
10	椎茸：椎茸樽木ヲ本演ヘ送付（皇太子殿下農学部行啓ノサイノ上覧用）			
—	【第一次世界大戦後ノ経済恐慌始マル】			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
【独鈷山天然植物園】42a (千演創設後モ禁伐継続)				
【来演】				
【視察／研修】03/07-13 東京大林区署第10回森林主事林務教練3+66; 08 大日本山林会 第2回林業講習会; 06 (2週間) 北京農業専門学校卒業生 曹益謙，邢樾二				
【講師派遣】				
03/16-26 高嶋主任（製炭：千葉県下）				
<b>【1921/T10】</b>				
01/04-06	狩猟：川瀬，飯島，本多，右田 初，牝鹿2，牡鹿4			
02	気象観測：リジャー型（玉屋）ニマサル 自記雨量計ニツキ 气象台，林試ニ照会 CT10/02/19			
03/01	火災：中ノ沢5c, スキ+ 1915 植 0.16 ha, 通行人ノ煙草火			
03	実習：造林学実習ノ状況ヲ映画撮影（10月，大日本山林大会デ映写）			
05	土地：天津町龍ヶ尾民有地 1,772 m <sup>2</sup> 購入 ESS			
06	飼育：鹿野山神野寺カラ鹿分譲ノ要請			
06	気象観測：有林地ト無林地ノ比較（郷台畑ト安野台）CT10/06/07			
07	【保護所】（造林事業担当員ヤ苗圃監督員詰所）ヲ【作業所】ト改称			
07	電話：天津郵便局電話交換業務ヲ開始			
10	木炭：君津郡木炭同業組合カラノ加入要請ヲコトル			
11	給与：各演デノ不満ノ多イ区内旅費ノ支出ニツキ 意見ヲモラル，主任ヲノヅキ 他ハ平等ニト本 演ヘ回答 CT10/04/28, 09/20, 11/10			
—	収支：予算逼迫デ本演カラ収入確保ノ要望再三 CT10/10/08 (林産物ノ商況ハ不振デアツカ 収入予定ヲ達成) 視察：古在総長カラ CT11/01/11 造林実績：千演創設後ノ新植地累計 563 ha (ウチスキ+ヒキ 98%), 1922概要			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
【エンピツヤクシ 見本林】鍛冶坂47D1				
【来演】				
【視察／研修】03/13 (2週間) 東京大林区署第11回森林主事林務教練 65; 04/13-18 帝室林野管理局林務講習 30				
【その他】05/05-09 千葉県下男女青年団体指導者講習会 60				
<b>【1922/T11】</b>				
01	土地：天津町龍ヶ尾橋頭ノ民有地（後方ハ山林，古在総長出張時ニ踏査）ノ価格トニツキ 本演カラ照会 CT11/01/11, HT11/01/20			
02	【『東京帝國大學農學部附屬演習林調査及試験施行内規』制定】			
03	【停年制実施（財政上ノ理由トデ適用ガ遅レタ）】			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
04	{国有財産法施行，以後1934年マテ国有財産整理ノ一部トシテ演習林縮小案ガ国有財産調査会テ検討サレル}			
04	木炭：本学医学部附属病院へ納入（1年間ノミ）			
05	収支：前年度ニ引キ続キ本演カラ収入確保ノ要望 CT11/05/24			
09/01(11/03)	{愛知県演習林創設}			
10	実習：コレヲ流行ノタメ学年暦変更ニトモナウ秋季実習ノ延期ヲ要望（四川省農業専門学校卒業生一行3+12名ノ見学ト中止）			
11/03	火災：近火，筒森国有林			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「スキ間伐」後沢45C <sub>2</sub> 弱度ト択伐の間伐			
	「札幌見本林」堂沢27D,E, 前沢28D <sub>2</sub> ,E <sub>1,2,3</sub>			
【来演】				
	【視察／研修】03/10-12 長野小林区署山林技手 町田勇作；07 岩手県九戸郡役所産業技手 加藤兵衛			
	【その他】05/19-23 千葉県下男女青年団体指導者講習会 50			
-----				
【1923／T12】				
01	飼育：猪（人吉カラ購入）ノ飼育開始（小屋ケ尾野獣園）			
02/28	主任交替：高嶋規孝助教授（欧米留学ヘ，1925/8 岐阜高農教授）→牧 俊夫助教授（秩演主任カラ）			
03	飼育：鹿野山神野寺ヘ鹿ヲ分譲（民間ヘノ鹿分譲ノ始マリ，表4参照）			
03	禁猟：『清澄地先禁猟区』ガ認可ヲウケフタビ法的ニ有効トナル（以後1933年，1943年，1953年ニ更新）			
04	木炭：本学農学部ヘノ納入方法ヲ一定化，以後クレム減少 CT10/08/08[C52]，			
05	量水：猪ノ川テノ発電ニツキ出願ガアツタ（支障アリト回答） CT12/05/10[C14]			
09/01	地震：関東大地震，全域；林地○，林道○，建物○			
09/01	量水：同上地震テ足谷治水試験地ノ地層ニ亀裂ヲ生ジ，数年後観測中止トナル			
09/01	鉄道：千葉県営輕便鉄道，久留里線，国鉄ヘ移管（1930年改軌）			
09/08	用材供給：本演カラ本学ノ応急復旧工事用ニツキ木材処分停止ノ指示			
10	土地：天津町龍ケ尾民有地 3,806 m <sup>2</sup> 購入			
12	用材：復旧用ニ用意ノ杉丸太ハ輸送ノ関係テ活用テキテ陸軍築城部本部ヘ納入			
11-12	木炭：本学本部職員家庭用木炭ノ払い下ゲ（震災後ノ特例）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「中林見本林」荒樫24A，堂沢27A <sub>1</sub>			
	「ヒマラヤスキ見本林」鍛冶坂46D <sub>2</sub> ヒマラヤスキホカ			
【来演】				
	【見学／実習】03/17-19 北大・農・林2年（宮井健吉教授）1+6			
	【視察／研修】06/22-23 帝室林野局林務講習 3+21；10/20-21 スエデン森林官 ストレーハー（菌部助教授案内）			
	【その他】05/11-15 千葉県下男女青年団体指導者講習会 50			
【研究材料】				
	【提供】01/15 1922概要 → 安房郡長（安房郡誌編集資料トシテ）			
-----				
【1924／T13】				
03	土地：天津町龍ケ尾民有地 558 m <sup>2</sup> 購入			
09/16-17	気象害：暴風雨（台風），全域；林地○，林道○			
10/08	気象害：大雨，全域；林地○，林道○			
12/04	火災：梨ノ木台43k, スキ,ヒノキ1918植 0.35 ha, 木挽ノ煙草火			
—	道路：荒樫・大仙場間 林道竣工（1923年起工） 全長 2,257 m 幅 2.1 m			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				



【年】月/日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
--------	-------	----------	------	--------

【ｽｷﾞ間伐】安野2C5 寺崎式 B, C, D種

【来演】

【見学／実習】06/01-03 大多喜中学校生徒（動植物採集ｽﾀｰ）

【視察／研修】02/03-06 国立林試 白沢場長，寺崎技師，山林局 徳本林業課長，田中技師，千葉小林区署長 ｶ2（02/04-06 郷台滞在，上記間伐試験地設定に関係？）

【研究材料】

【提供】08 針葉樹，広葉樹材 → 宮下保雄（在ワシントン大，ﾅｽﾋﾞｰｽ用）

【1925／T14】

- 01/05-07 狩猟：川瀬，菌部 ｶ, 牝鹿 1, 牡鹿 7（川瀬ニヨル 除害狩猟ノ終リ）CT14/01/27
- 01 ヲ他試験：亜熱帯植物園新設ノメ 本学造林学教室，本演，台演ニ 苗ヲ 依頼
- 03/31 車輛：ﾌｵｰﾄ 貨物自動車購入（1924年製新車）
- 04/21 火災：一杯水46a,c, ﾏｷ 1906,1922 植 0.17 ha, 通行人ノ 煙草火
- 05/21 気象害：大雨，郷台管内；林道○
- 06 箱根演習林創設
- 06 観測協力：清澄ニ 地震観測室設置（本学地震研）CT14/06/24
- 07/09,22 気象害：大雨，清澄管内；林道○
- 07/11 鉄道：北條線，安房鴨川 マテ 延長（千葉・安房鴨川間開通）
- 08/13,26 気象害：大雨，全域；林地○，林道○
- 09/10,29-30 気象害：大雨（29-30ハ台風ニヨル），全域；林地○，林道◎
- 09/28 土地：天津町龍ヶ尾民有地 1,560 m<sup>2</sup> 購入
- 10/13 建物：天津第二号助手官舎 W1: 82 m<sup>2</sup>, 第三号書記官舎 W1: 79 m<sup>2</sup> 竣工
- 11/28 気象害：大雨，清澄，郷台管内；林道○
- 11 富士演習林創設
- 11-1926/02 狩猟：千演職員ニヨル 禁猟区外テノ 兎ノ 除害狩猟
- 12/21 気象害：大雨，郷台管内；林道○
- 狩猟：演習林協議会『有害鳥獣駆除』ニツキ 対象種，期間，場所，従事者ヲ キル  
計画：三浦常雄・望月 岑『第四次経営案 1925-1934』  
道路：大仙場・濁川間 林道竣工（1925年起工） 全長 1,575 m 幅 2.1 m

【試験／研究（試験地設定，研究開始ｽﾀｰ）】

「外国樹種見本林」46n,u

【来演】

【見学／実習】01/19-20 盛岡高農・林（武藤益蔵教授）1+16

【その他】06/15-19 千葉県下男女青年団体指導者講習会

【研究材料】

【受領】02 モクマカ,ﾏﾝ類種子 ← 台演

【1926／T15, S01】

- 01 鉄道：亀山村 ｶｶ 木原線・久留里線接続工事陳情ニ 理解ヲ 求メラル  
（12月，久留里・亀山間 路線測量開始）
- 02/04 建物：天津事務所庁舎 ｶ 竣工 本館 W2: 366 m<sup>2</sup> ｶ
- 02/04 建物：天津第四号主任官舎竣工 W1: 129 m<sup>2</sup>
- 02/11 組織：千演派出所（事務所），清澄 ｶ 天津龍ヶ尾ノ 現在地へ 移転
- 02/27 電話：派出所ニ 特設電話『天津 7 6 番』開通
- 04/28 土地：天津町龍ヶ尾民有地 2,305 m<sup>2</sup> 購入
- 05/22-23 気象害：大雨，清澄，郷台管内；林道◎，施設○
- 06/28 気象害：大雨，清澄管内；林道○
- 08/30 火災：一杯水46a,b, ﾏｷ 1896植 0.16 ha, 通行人ノ 煙草火



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
08	代々木演習林廃止			
09/04	気象害：暴風雨（台風），清澄管内；林道○			
10/28-29	気象害：大雨，清澄管内；林道○			
11	木炭：千葉県山林会へ各品等木炭見本（俵装）ヲ寄贈			
—	木炭：各種白炭窯比較試験（大日本山林会主催，長尾）			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』				
「亜熱帯植物園」天津事務所構内				
『来演』				
【見学／実習】01/22-23 盛岡高農・林2年（上田正次助教授）1+20（表20日程参照）				
【視察／研修】02 信濃山林会製炭講師 酒井譽治郎，遠山義一（大日本山林会白炭窯比較試験見学）； 09/20-10/05 山林局第1回製炭技術講習会 87； 09/28（4日間）新潟県森林組合連合会 3				
『研究材料』				
【受領】04 センペルコイ7 種子8合 ← 三浦助教授（郷台苗畑ニ播種）				
『1927/S02』				
03/04-05	気象害：雪，郷台管内；林木○，林道○			
04/01	鉄道：国鉄房総線，上総興津マヅ延長（千葉・上総興津間開通）			
04/04	視察：古在総長（5日間／予定）CS2/04/01			
04/10	給与：林業夫日給，製炭請負賃金減額 CS2/04/10			
05/30	労災：東ノ沢11c，間伐カリ木ノ処理中ニ転落，林業人夫負傷1			
06/05	気象害：雨，清澄管内；林道○			
06/24	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
09/14	気象害：暴風雨（台風），郷台管内；林地○，林道○			
09/27-29	気象害：雨，清澄管内；林道○			
11	係争：清澄寺下マヅ戻シ申請ニマヅ牧主任，林長へ意見書（若干ノ財政的援助ノ観点カラ判 断ヲ要請）CS2/11/12			
12/04-05	気象害：雨，清澄管内；林道○			
12/09	気象害：雨，清澄管内；林道○			
12/29-31	狩猟：右田，菌部，小島，川瀬，鈴木 勲，獵獲不明（川瀬ハ特別参加）			
『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』				
「造林地改良」葛蒲沢36h				
「マヅ造林」郷台小屋ノ沢8f				
「保護樹指定」165種，606本ニ達シ（1933概要）				
「マヅ分布調査」				
『来演』				
【見学／実習】01（清澄1泊）盛岡高農・林2年（内田繁太郎教授）1+20；12/23（3日間）農業教員養成 所・3年（野宮定茂講師）10				
【視察／研修】04/12（2日間）東京営林局森林主事林務教習（神谷長雄技師）1+30；08/31-09/14 山林 局第2回製炭技術講習会 75；09 三重県木炭同業組合役職員ト県係員 5；10/14-15 朝鮮総督府 主催林業視察団 54				
【その他】06/21-26 千葉県下男女青年団体指導者講習会				
『講師派遣』				
04/08(予定) 牧 主任（製炭：安房郡農会，造林学実習ト重ナリ中止）				
『1928/S03』				
01/10	文部省『演習林整理問題』ヲ会議ヲ開催（東大，北大，京大，九大 相ヒテ 盛岡，鹿 児島，三重ノ各高農ノ関係者参加）			
02/14-15	気象害：暴風雨（低気圧），清澄管内；林道○			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
03/10-11	気象害：暴風雨（低気圧），郷台管内；林道○			
03/24	火災：近火，筒森国有林豆原地先			
04/22	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
05/09	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
05/28	飼育：郷台野獣園閉鎖			
05/31	気象観測：郷台テノ観測中止 CS4/05/22			
06/02	気象害：大雨，清澄，郷台管内；林木○，林道○，施設○			
06/02	量水：同上大雨ヲ中ノ沢，西ノ沢ノ各量水堰堤損傷，以後，観測中止			
06/21-22	気象害：雨，清澄管内；林道○			
06	建物：清澄標本室及機械室（現作業所事務所）現位置へ移動 CS3/06/27〔C83〕			
07/30-31	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
08/?	気象害：大雨，郷台管内；林道○			
09/30	『各演習林ヲ縮小シ得サル理由 其ノ二』ヲ本演カ受領			
09	木炭：山林局製炭技術講習会ニ備長窯，吉田窯，大竹窯，大正新式窯，栃沢窯，清澄窯ヲ使用 CS03/09/26			
10/06	建物：清澄標本館竣工（標本室兼庁舎 1929/02/28）W2: 185 m <sup>2</sup>			
10/08	気象害：暴風雨（台風），全域；林木○，林道○，建物○			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「林木ノ構成状態ノ推移」（1928/04-1929/04 設定）				
地位上：千石33C <sub>1,2</sub> ，瀧ノ沢18a，前沢28C <sub>1</sub> ，三十三曲9C <sub>1</sub> ，檜ノ台46d				
地位中：相ノ沢10C <sub>4</sub> ，鐘ヲ台3b，郷田倉28a，郷台小屋ノ沢9b，檜ノ台46d				
地位下：平物沢18C <sub>8</sub> ，千石33D，前沢28C <sub>1</sub> ，東ノ沢11C，檜ノ台46d				
「サキ林内ヒノキ下木植栽」今澄40D <sub>2</sub> ，水源老齡林				
「カ類用材林」荒檜24k，1928-1929 設定				
「広葉樹（クサキ）施業法改善」郷台小屋ノ沢8f				
【来演】				
【見学／実習】 01/21-22 盛岡高農・林2年（伊藤門次教授）1+23				
【視察／研修】 07/05 安房郡農会；09/15-09/24 山林局第3回製炭技術講習会 57；10/26 帝室林野局林務講習 2				
【その他】 06/06-10 千葉県下男女青年団体指導者講習会 50				
【講師派遣】				
唐鎌良助（製炭：07 亀山村，12 天城地方）				
【研究材料】				
【提供】 10 クサキ種子 → 台湾総督府中央研究所林業部 HS3/10/05				
【受領】 12 中島道郎（サキ地方品種挿シ穂，京都，九州地方，出張採取） HS3/12/10				
-----				
【1929/S04】				
04/15	鉄道：国鉄房総線，安房鴨川マテ延長（房総一周路線完成），安房天津駅開業			
04	バス：安房天津駅・清澄間路線バス開業			
05	気象観測：観測結果ヲ東大演報ヘ掲載ノタメ準備 CS4/05/22			
05/23	気象害：暴風雨（低気圧），清澄管内；林道○			
07	《財政緊縮ノ通達》			
09/10	気象害：暴風雨，郷台管内；林道○			
09	《官吏欠員ノ補充ノ通達》			
10/24	《NY株式市場大暴落，世界的大恐慌ノ始マリ》			
10/31	【林学科田無（多摩）苗圃創設（サノ演習林田無試験地）】			
—	気象観測：天津事務所構内テ観測開始			



【年】月/日

項目：内容

【演全体、他演】

【学内】

【学外一般】

『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』

「ス\*1 年生造林」袋山2C, 新田2C<sub>3</sub>, 神田上16C<sub>4</sub>, 池ノ沢22C<sub>2</sub>, 長尾37C<sub>1</sub>, 2,3,4 年生苗ノ造林ト比較, 1929-1930 設定

「矮林択伐比較」仁ノ沢40B<sub>2</sub>

「矮林ノ伐採季節ト萌芽」長尾37B<sub>1</sub>

「センバノセイイ見本林」桑ノ木沢1D

「ハンテンボク見本林」桜ヶ尾43k

「長尾見本林」37D

『来演』

「視察／研修」05? 東京営林局森林主事林務教習; 09/01-09/15 山林局第4 回製炭技術講習会 53; 10/26-27 帝室林野局林務講習 17

「その他」06/05-09 千葉県下男女青年団体指導者講習会 50

『講師派遣』

唐鎌良助（製炭：10 秩父地方, 11-12 愛知県下, 12 静岡県下）

『研究材料』

【提供】02 ㄗ 造林成績資料 → 東京府 HS4/02/02

08 薬用植物 124種 → 千葉医大薬草園

-----

【1930/S05】

03/31 林長交替：右田半四郎教授（定年退官）→ 菌部一郎教授

06/12 給与：林業夫日給，製炭請負賃金減額（1割減，07/01 実施）

07 鉄道：木原線敷設計画ノ経済調査ニ回答

08 鉄道：国鉄久留里線，軌間改良工事完了（762 mm → 1,067 mm へ拡張）

10/? 気象害：雨，清澄管内；林道○

10 レク：ケーブルカー（坂本・清澄間）敷設出願ニ対シ支障ナト回答

10 試掘：石油（天然ガス）試掘出願ニ対シ支障アリト回答 CS5/12/01

12 収支：収支均衡ノヲ本演カラ要望（材価暴落ヲ払下ケ中止，入夫数ノ削減ヲ）

12 収支：陸軍工兵学校，陸軍造兵廠ヘミ材ノ売り込ミ CS5/12/24

12 収支：製材所ヲ四郎治，濁川，真根沢，長尾ニ設置シ官行製材ヲ行ウ CS5/12/24

（失業対策トシテ1932年マテ継続，50周年概要）

『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』

「ス\*間伐」硯石沢

「ス\*品種」袋山2C<sub>1</sub>, 仁ノ沢40D

「保護区設定」木本類 54, 草本類 3, 計57区ニ達シ（1933概要）

『来演』

「見学／実習」01/14-15 盛岡高農・林2 年（武藤益蔵教授）1+10+; 07/10-13 北大・農・林実3 年（木下助教授）30

「視察／研修」01/18-19 東京市水道水源林 中川技師 勅; 01/27-28 東京営林局担当区詰員（窪田圓平技師）6; 04 秋田営林局 石川静一(04/16), 佐伯直臣(04/16-19), 島田吉重郎(04/15-17); 04/17 中華民国中央大学農学院森林科 張福延教授，中山陵園 傳煥光技師; 05/25-26 北大 矢戸乙熊教授; 05/28-29 岐阜県林業家高橋正介

「その他」06/05-09 千葉県下男女青年団体指導者講習会

『講師派遣』

08/05-09/09 唐鎌良助（製炭：山口県下）; 09/13-11/07 鈴木義太郎（製炭：千葉営林署管内）; 11/08-1931/03/15 鈴木義太郎（製炭：愛知県下）; 12/10- 錫田敏夫（製炭：愛知県下）

『研究材料』

【提供】08 千演ニハ\* 天然生ナト回答 → 青森営林局ニハ\* 分布区域調査 CS5/08/19

-----



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
<b>【1931/S06】</b>				
01	構内電話：東京通信局官庁用電話監査ノサ仁1917年以降ニ増設ノ各作業所・火ノ見小屋間線ナドヲ届出			
03/04	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
05/09-13	気象害：大雨，清澄管内；林道○			
05/15-16	気象害：暴風雨，清澄管内；林道○			
06	給与：7月支給ノ賞与廃止（従来，判任官以下ヘ支給）CS6/06/25			
07	【文部省，帝大演習林長協議会ヲ開催，ノ演習林整理問題ヲ各大学ニ一任スル文部省案ヲ作成】			
07	給与：月給55円以下ノ雇員，傭員ニ臨時給与ヲ月給ノ4割以内テ支出CS6/07/02			
09/15	車輛：フォート貨物自動車ヲ森林利用学教室ヘ移管			
09/18	【柳条溝事件→満州事変，日中戦争ノ始マリ】			
09/26-27,10/12-13	気象害：2回ノ暴風雨（台風），全域；林地○，林道○，施設○			
12	地元：町村助成金ノ交付開始（龜山村148円90銭，天津町118円66銭）CS6/06/01			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ナリ）】				
【サキ品種】相ノ沢9D 33サキ品種（1932ニ9D4）；四郎治沢14C7				
【アカマツ優良林】砂沢30A				
【ナラ老齢見本林】堂沢27A2				
【来演】				
【見学／実習】01/21 盛岡高農・林2年（三浦第二郎教授）1+12				
【視察／研修】08/15（2週間）大日本山林会第13回林業講習会 87；10/28-29 帝室林野局林務講習20；12/25-01/06 山林局農林事務官 数名				
【講師派遣】				
09-10 唐鎌良助（製炭：帝室林野局林試，秩演）；10/17-12/15 鴫田敏夫・唐鎌頭司（製炭：愛知県下）				
【研究材料】				
【提供】10 コナキナノ実 多量 → 千葉医大附属薬学専門部 小幡武郎教授				
<b>【1932/S07】</b>				
03	造林実績：千演創設後ノ新植地累計755ha（ウチスキ+ヒキ95%），1933概要			
04/02	人事：行政整理ニヨル退職（巡視ノ久保近五郎雇，書記ノ藤平祐三雇）			
05	給与：林業夫日給，製炭，製材請負賃金減額HS7/05/07			
07	収支：官舎1棟借り入レノ上申，経費節約ノタメ不認可CS7/07/11			
09	電話：特設電話【天津76番】カ電話規則ニヨル電話ニ変更サレル			
10/01	【大東京実現ニヨリ本演住所変更【目黒町大字上目黒】→【目黒区駒場町】】			
10	人事：農村救済事業林道工事ノ技術員ヘ転出ヲ演職員ヘ勧メル（本演ガ）CS7/10/15			
12/29	労災：龍ヶ尾製材倉庫，製品積込中ニ転倒，林業人夫負傷1			
12	保護囑託：委嘱ヲ中断，天津町第二駐在所廃止			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ナリ）】				
【サキ品種】西ノ沢4D 16サキ品種+32千演母樹；大仙場35C4 31サキ品種+6千演母樹ナカ（1933ニモ）；高天神37B3ヤフクナリ				
【来演】				
【見学／実習】01/13- 盛岡高農・林2年（飯田助教授）10				
【視察／研修】02 秋田営林局真室川営林署 稲葉正雄技手（造林事業調査）；04 北大農・中島広吉教授；08 静岡県賀茂郡木炭同業組合2・静岡県山林会木炭組合技術員1（製炭実習）				
【研究材料】				
【提供】12 生椎茸 880g → 山林局林試				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
<b>【1933／S08】</b>				
04/14	労災：郷田倉27c, 造材中ニ転落，林業人夫負傷1			
06	実科独立ノサノ演習林トシテ千演ノ移管ヲ希望スル陳情書提出サレ			
08/09-12	《関東防空演習》CS8/05/12, 06/29			
08/20	労災：大降西42, 樹高測定中ニ立木カヲ転落，林業人夫負傷1			
09	雇用：千葉営林署カラノ月別気象観測表（写）送付希望ニ対シ，人手不足ノタメソテカラ出張シテ筆写ヲ回答CS8/09/09			
11/12	労災：桜ヶ尾43g, 木馬運搬中ニ河床ヘ転落，林業人夫負傷1			
12	レク：本多・小寺『清澄山縣立公園計画』ヲ発表			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「サキ品種」神田上16D <sub>1</sub> 31サキ品種+4千演母樹ホ（1934ニ）；郷田倉27C <sub>6</sub> 自家受粉苗（1934ニ）				
「外国樹種見本林」札郷（1934ニ）				
【来演】				
【見学／実習】07/11（1週間）岐阜高農・林2年（高嶋教授）29				
【視察／研修】02/11-12 本学・医・薬学科 橋本 亮・緒方正資ホ6（シキ類，地衣類採集）；11/15-16 宇都宮高農 宇野昌一助教（製炭）				
【その他】11/22-28 千葉県中堅青年講習会				
【講師派遣】				
唐鎌良助（製炭：01/20-02/28 兵庫県下，架線：05/07-24 山形県下；サ朝鮮慶尚南道カラノ要請ハ人員減ノ人手不足テ辞退）				
【研究材料】				
【提供】01サキ種子5dl→北大演習林				
<b>【1934／S09】</b>				
05/19	火災：鳥居沢2b <sub>2</sub> , マツヒノキ1929植，矮林1928伐，6.00ha，煙草火			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「サキ母樹ガ子苗ノ開花結実ナレニ成長ニ及ボス影響」檜ノ台45D <sub>2</sub> , 桜ヶ尾43D <sub>3</sub> （1930準備開始）				
「サノ開花寿命調査地」郷台10D（1930実生育苗）				
「外国樹種見本林」43k				
【来演】				
【見学／実習】11/04-05 本学・理（牧野富太郎講師，植物採集）10				
【視察／研修】03/10-11 営林局員（営林局実験係員協議会テノ出京者）20+				
【その他】08/02-03 千葉県海外移民教育講習会；08/06-26 千葉県小学校長講習会				
【講師派遣】				
唐鎌良助（製炭：-10/20 樺太，架線：11/19-21 君津農林学校）				
<b>【1935／S10】</b>				
01/12	建物：札郷寄宿舎竣工 W1: 113 m <sup>2</sup>			
04/01	【農学部実科ガ東京高等農林学校トシテ分離独立，サノ東京農工大学】			
04	主任会議テ昭和10年度カラ『施業沿革史』ノ作成ガキル			
05	箱根演習林廃止			
07/06	気象害：大雨，全域；林地○，林道○，施設○（四郎治沢テ民家2軒埋没，死者5，負傷者4）			
07/17	【農学部ノ位置ヲ東京市本郷区向ヶ岡弥生町ニ変更】			
08/01	府中演習林廃止（東京高農ノ敷地ノ一部トシテ同校ヘ所属換）			
08/09	レク：清澄山県立公園指定（千演1,712haガ含マレル）			
08/10	演習林本部ガ駒場カラ本郷ヘ移転 CS10/06/07[H64]			
10	《『天皇機関説』ニツケノ内閣書記官長通達》			
11/23	視察：長與総長ホ6名			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
計画：嶺 一三『第五次経営案 1935-1944』				
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「下刈」真根沢36C <sub>4</sub>				
「ミ、ツカ」天然更新」濁川32A <sub>2</sub> （1929 濁川テ 始マル，1933 概要）				
【来演】				
【見学／実習】07/11-25 岐阜高農・林2 年（高嶋規孝教授 ㊦1，造林，見学）2+30；09/16-25 東京高農・林1 年（中島道郎助教授，林木，測樹）1+39；12/13-24 東京高農・林3 年（望月岑教授 ㊦1，森林経理）2+36				
【視察／研修】07/30-31 北京大学教授一行 3				
-----				
【1936／S11】				
01/25	気象害：雨水，全域（トニ 郷台管内）；林木●			
03/25	主任交替：牧 俊夫助教授（退官，奉天農業大学教授へ）→高原末基助手 （北演勤務，1936/11 助教授）			
03/25	鉄道：国鉄久留里線，上総亀山マテ 延長（木更津・上総亀山間開通）			
05/08	火災：早尾42o.f，見本林 0.06 ha，天津共有林 カヲ 類焼			
11/19	労災：猪ノ川林道，復旧作業中ニ 岩石落下，林業人夫死亡 1			
12	保護囑託：委囑再開，（1932年 カヲ 中断ヲ 復活）			
—	道路：猪ノ川林道延長工事 延長 652 m 幅 2.1 m			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「雨水被害跡造林」四郎治沢15e，郷台小屋ノ沢8d				
「下刈」池ノ沢22C <sub>3</sub> ，真根沢36C <sub>4</sub> ，長尾37C <sub>10</sub> ，檜ノ台45C <sub>12</sub>				
「枝打」ヒナ：郷台小屋ノ沢8C <sub>1</sub> ，相ノ沢10C <sub>4</sub> ，千石33D，戸立46C <sub>4</sub> ，大平46C <sub>8</sub> ；サキ：細野12C <sub>1</sub> ； ナキ：郷台小屋ノ沢8D <sub>3</sub> ，牛蒡沢11B <sub>1</sub> ；ハンテホク：長尾37D				
「関東マツ」真根沢36C <sub>3</sub>				
「矮林施業法改善」四郎治沢15D <sub>2</sub> ，上人沢17B <sub>2</sub> ，一杯水46B <sub>2</sub>				
「試験製炭」一杯水46e				
【来演】				
【見学／実習】01/17-18 盛岡高農・林2 年（内田繁太郎教授）20；04/01-10 東京高農・林2 年（造林）； 04/11-20 東京高農・林2,3 年（製炭）；04/16-27（札郷）岐阜高農・林（安倍季彦助教授，森林経理）1+26；07/11-24 岐阜高農・林2 年（高嶋規孝教授 ㊦1，造林，測樹，製炭）2+30；12/04-15 東京高農・林3 年（中島道郎教授 ㊦1，森林経理）				
【視察／研修】04 東北大・理 吉井義次教授；04 本学・農 雨宮育作教授；06 九大・林学生 今里久；07/23-25 北大・農 宇留野祐寿講師				
【その他】09 千葉県融和事業指導者及教育関係者講習会（中止）				
【研究材料】				
【提供】04 千演写真→ハーバート大；09 外国樹種供試木 → 本学・農・林・藤林 誠講師				
-----				
【1937／S12】				
04	【農学部ノ本郷移転後モ 駒場ニ 残留シテ『農学部附属農業教員養成所』カ『東京農業教育専門学校』トシテ 分離独立（ノ東京教育大学農学部，現筑波大学第二学群農林学類）】			
06	鉄道：天津／鴨川・亀山間鉄道計画（測量，経済調査）			
07/07	《蘆溝橋事件 → 日華事変，日中戦争ノ本格化》			
08/30	応召：唐鎌楨二雇，輜重第9 連隊（金沢），（1938/05/16召集解除）			
12/15	応召：関口 芳 林業人夫，騎兵第1 連隊			
12	気象観測：郷台，札郷テ 観測開始			
—	狩猟：兎ノ 除害狩猟 （日中戦争ノ 拡大トモニ 物資配給関係ノ 書類カ 多クナリ，敗戦後 マテ 続ク）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				



【年】月／日

項目：内容

【演全体，他演】

【学内】

【学外一般】

「重要樹種ノ開花結実状況ト種子ノ品質」

「枝打」スキ：相ノ沢10C<sub>1,3</sub>, 郷田倉25C<sub>8</sub>, 水呑場26C<sub>2</sub>, 前沢28C<sub>1</sub>, 下馬不動44C<sub>6</sub>, 戸立46C<sub>4</sub>;  
ヒノキ：橋ノ沢19C<sub>7</sub>, 亀ノ沢21C, 願人坊44C<sub>3</sub>; アカマツ：砂沢30C<sub>3</sub>; 庇陰・巻込ミ：植ノ木8D<sub>1</sub>, 桜ヶ尾  
43C<sub>8</sub>, 一杯水46C<sub>2</sub>; 偏心成長：高天神36C<sub>12</sub>, 梨ノ木台43C<sub>11</sub>

「保護樹下ノ造林」追原17b<sub>2</sub>(クヌギ); 郷田倉27C<sub>2</sub>; 前沢28b(ヤギ); 砂沢30C<sub>2</sub>

「スキ品種」(多雪地方産品種見本林) 郷台10C<sub>1</sub> アキスキ 4系統 + シスキ

「スキ植栽季節(4月ト6月)比較」4c 林

「スキ密度」相ノ沢10C<sub>3</sub>(雨水被害跡地)

「アカマツ造林」瀧ノ沢18C<sub>4</sub> 津島マツ; 真根沢36b<sub>3,4</sub> 関東マツ, 大道マツ

「矮林施業法改善」前沢28B<sub>4</sub>; 仲沢29B<sub>1,3</sub>; 四方木沢31B<sub>3</sub> カシ造林地; 高天神37B<sub>3</sub>; 長尾沢39B<sub>6</sub> V 齢級; 半軒  
茶屋40B<sub>1</sub>; 桜ヶ尾43C<sub>5</sub> スギ造林不成績地跡

「クヌギ台切り」郷台小屋ノ沢8D<sub>3</sub>

「ヤマト品種改良」武者戸 林

【来演】

【見学／実習】01/16-17 盛岡高農・林2年(武田進平教授) 15; 04/18-28 東京高農・林2年(中島道郎  
教授 林1, 造林) 2+39; 04/30-05/01 埼玉県立浦和中学校 8+72; 05/22-23 本学・医・薬(藤田直  
市助教授) 30; 07/01-10 東京高農・林2年(夏目 正助教授, 森林土木) 1+36; 07/12-23 (札  
郷) 岐阜高農・林2年(高嶋規孝教授, 川島助教授) 2+28; 09/24-10/02 東京高農・林3年(中  
島道郎教授 林1, 森林経理) 2+37

【視察／研修】04/05 本多静六名誉教授; 05/04 中井猛之進教授; 05/08 岐阜高農・林 高嶋規孝教授;  
06 中華民国視察団 5; 11/14-16 右田半四郎名誉教授 林2; 12/13-15 三重高農・林 馬岡隆清助  
教授

【その他】06/26 (15日間 札幌) 林産物検査員養成講習会(千葉県); 06/30-07/11 開墾及耕地整理短期講  
習会(帝国耕地協会)

【研究材料】

【受領】ウルシ苗 200本 ← 国立林試(猪ノ川沿仁植栽)

【1938/S13】

01/16 火災：仲沢29a,h, 矮林 1930 伐, 刈上場 0.41 ha, 通行人ノ煙草火

02/11 ソ他試験：郷台竹開花寿命調査試験地, 石標ノ設置 CS13/01/10[H578]

04/01 《国家総動員法公布》

04 土地：藤林作業所敷地 973 m<sup>2</sup> 有償借り入れ

06/09 《集团的勤勞作業運動実施ニ関スル件(文部省通牒)》

06/15 電話：主任官舎ニ『天津59番』開通

07/26 労災：清澄寺妙見山, 試料採取中ニスキ立木カサ転落, 林業人夫負傷 1

07 勤勞：東京高等学校(旧制) 勤勞奉仕(尋常科4年 80名)

08/31-09/01 気象害：暴風雨(台風), 全域; 林木○, 林地○, 林道○, 建物○

10/21 気象害：暴風雨(台風), 郷台, 札幌管内; 林道○

【試験／研究(試験地設定, 研究開始ト)】

「スキ品種」4c

「クヌギ・シスキ育成比較」柚ノ木3C<sub>5</sub> 中林伐採跡地; 四郎治沢15D 矮林伐採跡地; 砂沢30C<sub>1</sub>+サンフスキ

「スキ・ヒノキ・アカマツ・コナラ群状植栽」30a<sub>1</sub>

「スキ・ヒノキ樹下植栽」16e (1853/嘉永6年植 スギ林内)

「スキ天然下種」安野2C<sub>6-1</sub>, 郷台小屋ノ沢8C<sub>4</sub>, 10a,m, 13e, 15b, 郷田倉25C<sub>2</sub>(スギテ雨水被害疎開地)

「アカマツ造林」母樹ノ形態ノ影響：郷台小屋ノ沢8D<sub>3</sub>, 砂沢30C, 女瀧38C<sub>8</sub>; 冬芽色ノ比較：真根沢36C<sub>2,15</sub>;  
ソ他：瀧ノ沢18C<sub>5</sub>, 高天神36A<sub>1</sub>, 今澄40B<sub>4</sub>, 南沢45C

「アカマツ密度」砂沢30C<sub>4</sub> 白旗松 2.5, 4.5, 10, 40 千本/ha

「ヒノキマツ造林」砂沢30C<sub>6</sub>



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
	「有用闊葉樹造林」大仙場35B <sub>2</sub> , 37j			
	「ヤキ造林」播種・植林ノ比較: 15a + f; 群状植栽: 28b			
	「矮林施業法改善」37a			
	「コルクガシ接木」武者戸 林			
【来演】	(S 13 年度) バ 『學生實習及見學關係往復書類』綴カ* 7リ, 五十周年準備資料ト思 7ルル)			
【見学／実習】	04/10-11 奉天農業大学・林 (牧 俊夫教授 林1) 2+28; 04/16 (12日間, 札郷) 岐阜高農・林 (森林經理) 1+27; 04/18-28 東京高農・林2 年 (中島道郎教授, 造林) 34; 05/06-07 埼玉県立浦和中学校4 年 180 (寄宿舎, 旅館ニ 分宿, 例年ト* 林1 7ル); 05/14 東京府立家政女学校3 年 (伊藤教諭 林2, 亜熱帯植物園) 100; 05/? 女子学習院; 06/18-19 東京農大 (佐竹義輔講師, 常谷幸雄, 植物採集) 2+30;			
	06/18 千葉高等園芸 (川村清一, 植物採集) 50 (前年ニ 実施); 07/03-09 東京高農・林1 年 (黒岩菊郎助教授, 測樹) 1+39; 07/13-25 岐阜高農・林2 年 (川島助教授, 測樹, 高嶋規孝教授, 林学) 2+28; 07/29-08/07 安城農林学校生徒 (実習) 4; 09/04-06 宇都宮高農・林3 年 (塩谷 勉教授) 1+28; 10/05 東京府立農蚕学校2 年 (亜熱帯植物園, 内外国樹種見本林, 野獸園 ト* 見学) 2+48; 10/21-28 (札郷) 東京高農・林3 年 (望月 岑教授, 森林經理) 1+35; 12/11-12 本学・理・植物 (本田正次助教授, 植物採集) 1+6			
【視察／研修】	01/16-17 山林局各府県公有林野施業計画業務担当者協議会参加者 74; 01/30-31 熊本営林局技手 2			
-----				
【1939/S 14】				
02/10	労災：天津亜熱帯植物園，樹木ノ 手入レ 中ニ 転落，林業人夫負傷 1			
03/31	林長交替：菌部一郎教授（農學部長ヘ）→ 三浦伊八郎教授]			
03	施設：藤林ニ 木炭置場新設			
07/10-16	勤労：東京高等学校（旧制）勤勞奉仕			
09/01	＜ドイツ，ポーランドヘ 侵攻，第二次世界大戦始マル＞			
12/14	係争：清澄寺申請 (1899/02/02) ノ下ケ* 戻シ 問題解決 ESS (土地5 箇所, 計 0.41 ha, 立木 6,167 m <sup>3</sup> 下ケ* 戻シ, 1940/03/12 調印)			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト*）】				
	「ヤスキ造林」真根沢37C <sub>8</sub>			
	「スキ*ヒノキ, マツ, カシ, コナラ群状植栽」36e, f			
	「手入レ, 無手入レ, 人工林成長比較」スキ*: 橋ノ沢19C <sub>6</sub> , 池ノ沢22C <sub>2</sub> , 郷田倉25C <sub>8</sub> , 44g; ヒノキ: 梨ノ木台43C <sub>12</sub> , 東漢沢44C <sub>8</sub> , キンノルシ44C <sub>3</sub>			
	「林地肥培」四郎治15a			
	「アカマツ地方品種」砂沢30D <sub>2</sub> 5 産地			
	「モミ, フカ* 天然更新」檜ノ木台8D <sub>1</sub> , 29a, 濁川32A <sub>2</sub> , 真根沢36A <sub>2</sub>			
	「移動式組立窯」移動，足谷46q → 47e			
	「マツタケ培養」菌糸ハ 愛演産，半軒茶屋40a，遠矢ヶ台47l，鶏毛山47q			
【来演】				
【見学／実習】	01/17-18 盛岡高農・林2 年 (武藤益蔵教授) 1+20; 03/22-23 奉天農業大学・林 (牧 俊夫教授 林1) 2+27; 07/12 (2 週間, 札郷) 岐阜高農・林2 年 (桜井教授) 1+29; 10/18-27 (札郷) 東京高農・林3 年 (望月 岑教授, 森林經理) 1+34			
【視察／研修】	02/10-11 林産物検査所館山北条支所 御簾納好郎所長 林15 (製炭窯); 03/11-12 内閣印刷局 矢野道也技師 林15 (繊維植物); 03/26-29 山林局, 営林署担当区詰員教習 (第1 回) 140; 04/10-06/15 東京営林局 『林業ノ 講習及講話』(満州国森林官吏養成講習) 40; 04 北海道庁 杉山良次, 西沢政則, 竹花薫, 櫛田徳一農林技手; 07/14 帝室林野局 三矢宮松, 津村昌志, 中村賢一郎, 坂口勝美 林1; 09/22-24 朝鮮黄海道 柳 寅奎技手 (製炭); 10 山林局, 営林署担当区詰員教習 (第2 回); 11/08 荒木貞夫 (前文部大臣, 陸軍大将)			
【その他】	02/03-06 千葉県融和事業指導者及教育関係者講習会			
-----				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
【1940／S15】				
02	気象観測：千演観測地が 銚子測候所管内 から 富崎測候所管内 に 変更			
05/28	熱帯林業研究所（海南島演習林）創設	CS15/05/29[H174]		
07	木炭：木材乾溜試験開始（坂本）			
09	飼育：鹿ノ大量払い下げ（牡3，牝5，仔2），飼料不足対策？			
11	車輛：ビュイック乗用車購入（1934年製 中古車，自動車用木炭瓦斯研究用）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「枝打」43m, 46f			
	「スギ品種」砂沢30a2 サンフスギ，クマスギ，シスギ；スミ沢32f メササ			
	「スギ・ヒノキ列状混交」向山6C1			
	「スギ成長測定」牛蒡沢11C1			
	「各地産ミ種子直播」砂沢30A2，大沢又32A2			
	「クスノキ成長測定」追原17D6			
	「杉類直挿シ」相ノ沢10A1, 36i			
	「ケヤキ造林地施肥」15a			
【来演】				
【見学／実習】05/21-22 本学・理・植物（本田正次助教授，古沢 潔助手，植物採集）2+5；07/13-24（札幌）岐阜高農・林2年（桜井教授）1+30；10/19-29（札幌）東京高農・林3年（望月 岑教授，森林経理）1+35				
【視察／研修】03/05-08 山林局，営林署担当区詰員教習（第3回）3+111；04/05-06（吉田屋泊）H.Uffenorde（Forstmeister），W.Classen（Dozent, Heidelberg Univ.），W.Donat（日独文化協会理事）；06/23 東京府中等教育研究会（植物採集）30；06 山林局，営林署担当区詰員教習（第4回）；10/24-25 山林局，営林署担当区詰員教習（第5回）101；12/16-18 右田半四郎名誉教授				
【研究材料】				
【提供】05 7ヒ 葉 100 kg → 陸軍科学研究所登戸出張所第3科				
【受領】 芳樟，脳樟 ← 台湾専売局				
【1941／S16】				
02/04	【林学科ニ 林業学専修ト 林産学専修ヲ 設ケル】			
10/16	《大学学部等ノ 在学年限又ハ 修業年限ノ 臨時短縮ニ 関スル 件，公布》 （繰り上げ卒業，学年短縮が 始マル）			
11/08	林長交替：三浦伊八郎教授（農学部長ハ）→ 吉田正男教授			
12/08	《米英両国ニ 宣戦布告，大平洋戦争（大東亜戦争），日中戦争ノ 拡大》			
12	気象観測：情報ノ 管制			
—	造林実績：千演創設後ノ 新植地累計 854 ha（ウチ スギ・ヒノキ 95%）50周年概要			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「林地改良・肥培」郷田倉26C7，堂沢27E，濁川32C1，菖蒲沢36h			
	「杉類造林」四郎治沢15D2，前沢28D3（アカシ，アラカシ，ウラジロカシ，シラカシ，実生苗，挿木苗，直挿シ）			
	「樹木園（中国産樹木）」31d1			
【来演】				
【見学／実習】03/29-30 盛岡高農・林2年（武田進平教授）1+23（別動 3/19-20,6）；04/22 安房農学校 5年42；05/06-07 本学・理・植物（篠遠喜人，植物採集）1+6；06/05（3日間）東京農業教育専 3年（嶺 一三講師）1+37；07/20（2週間，札幌）岐阜高農・林30（関特演ニ 中止）；09/08-12 千葉県立青年学校教員養成所（林学）08-10,30；10-12,40；10/16-25 東京高農・林3年（望月 岑教授，森林経理）1+39				
【視察／研修】03 山林局，営林署担当区詰員教習（第6回）；03/07 山梨県内林業経営者10；04/08-09 熊本営林局竹田営林署 相馬丑五郎署長 来1；04/25 千葉県山林会大会視察団 100；11/08-11 山林局，営林署担当区詰員教習（第7回）100				







【年】月／日	項目：内容	〔演全体、他演〕	【学内】	《学外一般》
【1944／S19】				
01/09	【南方自然科学研究所開設（1946/03/22 立地自然科学研究所ト改称）】			
01/23	火災：飛越41a, スギ・ヒノキ 45年生 材0.39 ha, 民有林へ延焼, 出炭残り 火			
02/10	応召：久保田孝磨嘱託 中部38部隊			
03/07	《決戦非常措置要綱ニ基づく学徒動員実施要綱ヲ閣議決定》			
03	薬草：『薬用植物ノ育種並ビニ増殖ニ関スル研究』開始（中原）			
06/30	南林・南拓：『南方林業要員錬成所』廃止			
10/10	南林・南拓：『南方開拓技術員養成所』（青年文化協会）、清澄ニ開所			
10/22	労災：猪ノ川林道・折木沢橋、橋改修用材料運搬中ニ転落、林業人夫死亡 1			
12/10	応召：八代保壽 東部62部隊			
12	鉄道：国鉄久留里線、久留里・上総亀山間休業（レールヲ軍需用ニ転用）			
【試験／研究（試験地設定、研究開始ト）】				
「造林地改良」菖蒲沢36C <sub>11</sub> , 45c				
「各地産マツ造林」四郎治沢15D 4産地				
「アカマツ造林」45k				
「マツ、コウヨウサン、カシ見本林」47j				
「混農造林（カシ栽培ト）」郷田倉26C <sub>7</sub>				
【講師派遣】				
嶋田敏夫（製炭：02 樹研、10 東部軍関係、11 陸軍機甲整備学校）				

【1945／S20】

01/19	火災：近火，天津町有林（硯石付近）
03/10	【東京大空襲ニヨリ 本郷農学部ノ 一部焼失】
03/24-26	狩獵：吉田，東畑，中山 材，獵獲ナシ
03/24	応召：佐伯慶一 南拓業務嘱託 金沢58部隊
03/28	応召：渡邊 毅 東部83部隊
04/01	応召：西林敏彦 南拓業務嘱託 東部13326 部隊
04/16	応召：飯塚鎌二 南拓業務嘱託 東海25部隊
04/19	応召：大石永三 科研嘱託 暁6178部隊
04/20	勤勞：君津農林学校報国隊動員受ケ入レ
05/10	南林・南拓：『南方開拓技術員養成所』第二期訓練生修了（閉鎖?）
05/29	軍隊：陸軍護北22456 部隊，綱本隊，札幌寄宿舍ニ 駐留（07/05 マ <sup>ツ</sup> ）
05	用材：横浜ヨツト 銚子工場カ <sup>ラ</sup> ノ 工場地下化用 スキ <sup>ト</sup> 丸太ノ 供給要請ヲ 搬出困難ト 断ル
05	木炭：松根油ノ 生産要請（農商務省山林局長 カ <sup>ラ</sup> ）CS20/05/14[H45],05/23[C47]
06/06	応召：田口義夫 南拓業務嘱託 東部36部隊
06/19	応召：峯 泰夫 南拓業務嘱託 東北75部隊
06	飼育：小屋ヶ尾野獸園閉鎖
07/07	人事：千葉作業所 豊田 勉 雇，07/06 米軍機銃掃射ヲウケ 重傷ヲ 死亡
07/27	応召：荒井末吉 林業手 東部36部隊
08/05	勤勞：君津農林学校報国隊 動員解除
08/15	《連合国ニ 無条件降伏，敗戦，日中戦争（太平洋戦争）終結》
10	〔植民地演習林（台演，樺演，江演，全演，熟研）廃止〕
12/09	《GHQ，農地改革ニツキ 覚エ書キ》
—	計画：榎本雄二郎『第六次経営案 1945-1954』
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】	
[スキ <sup>ト</sup> 品種] 山ノ神下44b（中島道郎 カ <sup>ラ</sup> ノ 送付苗ニヨル）	



【年】月／日	項目：内容	【演全体、他演】	【学内】	【学外一般】
	「林内ニナル 水稻栽培」新田			
	「製塩」天津			

# 【1946／S21】

- 01 地元：高原林長，『千葉県地方木材需給調整協議会』委員ニ就任 CS21/01/09
- 02/28 <公職追放令公布>
- 03/22 【南方自然科学研究所官制改正，立地自然科学研究所ト改称（1952/03/31廃止）】
- 04/21 火災：大窪44p,u,スギ 1895-98,1934植，矮林 0.34 ha, 製炭着火ノ飛火
- 05/07 <教職員追放ニ関シ「教職員ノ除去，就職禁止及復職等ノ件」公布>
- 05 【教員適格審査会ヲ学部，研究所単位ニ設置】
- 06 コロ 木炭：県経済部林務課ノ移出許可ヲエテ 本学（本演，大学事務局）ヘ納入開始
- 06 占領：英字看板表示ノ演習林名ニツキ 本演 カノ指示 CS21/06/26[H114]
- (CHIBA EXPERIMENT FOREST Attached to TOKYO IMPERIAL UNIVERSITY)
- 08 研修：林業実地見習希望増ニ対応 スルタメ『見習規定』（案）ヲ本演ヘ送付
- 09 ソノ他試験：ジヤガノ任ノ林間栽培試験用 クネノ分譲ヲ群馬県ヘ依頼 CS21/09/25
- 10 地元：高原林長，『千葉県薪炭需給対策委員会』委員ニ就任 CS21/10/21
- 11 研修：「内規『東京帝國大學演習林林業實地見習規定』制定」
- 11 その他：親交会ノ改組ト新規約制定
- 11 【東京大学職員組合結成】
- 12/28 職組：農学部職員組合結成 CS21/12/27 （千演 カノ高原林長ヲ委員 トシ 33名ガ加入申請  
CS22/01/17[C243]）
- 収支：インフレノタメ 頻繁ノ予算修正ガ続ク
- 「演習林（本部）内規制定（1951,1959 改正）」

## 【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】

- 「スギ成長」前沢28C2
- 「アカマツ造林」45k
- 「アカマツ密度」高天神36A1（不良母樹苗，密度ト樹形）
- 「クワ造林」郷台小屋ノ沢8D3，四方木沢31，千石31C4

## 【来演】

- 【見学／実習】05/06-09 東京農教専・林3年（藤井真一教授）1+36

## 【研究材料】

- 【提供】11 炭材用 カノコナラ，アカマツシ 各60 kg → 本学・農・林・森化；11 クスノ現況資料 → 東京地方  
専売局

# 【1947／S22】

- 01 鉄道：久留里・中野間ノ鉄道建設ニツキ 運輸省 カノ意見ヲ求メラレタ
- 02 葉草：千葉市亥鼻町 35ノ借り入レ家屋ヲ解約（千葉作業所ノ廃止？）
- 02 給与：超過勤務手当ノ未付地手当ノ実施ヲ要望 CS22/02/11[C283]
- 03/01 雇用：千演ノ嘱託以下ノ定員ガ 20名 カノ 30名ニ改定 CS22/04/02[H11]
- 03 <学校特別会計廃止>
- 04/23 火災：郷田倉25h,e,f,皆伐跡，スギ，ヒノキ 1923-24植 未付 0.66 ha, 入山者失火
- 04 鉄道：国鉄久留里線，久留里・上総亀山間 営業再開
- 04 職組：演習林職員組合結成 CS22/04/11[H19]
- 05 占領：GHQヘ林況トノ資料ヲ提出
- 05 占領：GHQヘ科学技術者経歴調査書ヲ提出（該当者，高原林長ノミ）
- 05 占領：『連合国軍指令第3号ニ依ル 研究所半年報告』ノ原稿作成，提出開始（ノ年報，  
1952年3月マデ提出）



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
06/10	林長交替：吉田正男教授（林業試験場長兼務へ）→ 中村賢太郎教授			
06	菓草：東條村農地委員会が 中原試験地で 農地改革ニトシテ 強制買収対象地ニ 指定，以後 1949年2月ノ 解決 マデ， 千濱ハ 同上委員会， 県当局 トノ 交渉ヲ 継続 (1973年ニ 旧地主関係者へ 返還)			
06	木材供給：木材移出許可申請（本演修繕材料ト 試験用）			
09/30	【東京帝国大学ヲ 東京大学ト 改称】			
—	禁猟：全国的ニ マシカノ 捕獲禁止			
—	【東京大学職員組合結成】			
	【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】			
	「スギ 母樹ノ 年齢ト 子苗ノ 成長 ナルニ 開花結実」 梨ノ 木台43D <sub>1</sub>			
	「各地産ノ 杉 造林」 東ノ 沢11D <sub>2</sub> 33 産地 ヲ (1948,1949ニシテ； 南沢45C <sub>7</sub> )			
	【来演】			
	【見学／実習】 08/23-25 東京農教専・林3 年（植物採集） 10			
-----				
【1948／S23】				
01/20	火災：桜ヶ尾43a， 皆伐跡， スギ 1920 植， 矮林 0.45 ha， 出炭残り 火			
01	火災：真根沢36a,b， 被害輕微， 炭窯 ヲ			
03/09	労災：濁川32e， 枝打ヲ 作業， 林業人夫負傷 1			
03	菓草：千葉薬用植物研究用地（借地）ヲ 千葉医大ヘ 移管			
03	保護囑託：囑託制度廃止（03/31）， 警察官ヘ 保護委嘱中止			
04/02	火災：真根沢36a,b,e,f， スギ， ヒノキ 1906,1938 植， 中林1934皆伐， 矮林1930-38 伐， マツ， スギ， ホ カ 試験地1936-42 植， 9.77 ha， 筒森国有林 ヲ 類焼			
04	菓草：川台薬用植物栽培試験地設定（17c <sub>3</sub> ）			
09/16	気象害：暴風雨（7 <sup>イ</sup> 台風）， 全域， 天津； 林木●， 林地○， 林道●， 建物●， 施設●			
10	禁猟：占領軍向ケ 禁猟制札ノ 設置			
12	ソノ他試験：電力量増加配給申請， 月間180kw ヲ 300kwニ 増量 ヲ CS23/12/29			
	【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】			
	「スギ 品種」 一杯水43C <sub>2</sub> シンブスギ， クマスギ， シスギ			
	「ヒノキ 枝打功程調査」 各所			
	【科研】「ワツル樹」「木材炭化及ヒ 松根油」			
	【来演】			
	【見学／実習】 05/26-28 長野県立農専・林， 2+40； 06/17-19 宇都宮農専・林2 年， 1+17； 07/03-05 淑 徳女子農芸専門学校（埼玉県与野， 製炭） 3+11			
	【視察／研修】 02/07-09 参議院農林委 永田龍之助委員 ヲ (経済安定本部 2， 林野局 3)			
	【調査／研究】 01 本学・医・薬 教官 2～3（菓草調査）			
	【研究材料】			
	【提供】 02 クスノキ林調査資料 → 専売局館山出張所 CS23/02/20			

-----  
【1949／S24】

01/29	火災：古川33f, 平塚34a, 34f, スギ， ヒノキ 1902-06, 1932 植， 矮林 0.35 ha， 煙草火			
03/31	土地：大日本山林会 ヲ 記念林（貸地）返還（鍛冶坂47a, 9 町4 反8 畝）			
04	菓草：中原試験地ニ ガラス室 完成			
04	地元：ハビノキ 増殖用接ぎ 穂譲渡（輸出用ニ 増産奨励， 君津郡湊町『房総特用樹造林農 業協同組合』） CS24/04/14			
05/31	【新制東京大学創設】			
07	給与：郷台作業所ノ『へき地指定』ヲ 申請 CS24/07/22			
08/31	気象害：暴風雨（キタ 台風）， 清澄管内， 天津； 林木○， 建物○， 施設○			



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
10/28	気象害：暴風雨（ハトリジャ台風）全域；林木○，林地○，林道○，建物○			
—	地元：清澄寺改宗（真言宗→日蓮宗）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「森林試験測定地」アイキ，キイ台風被害ノタメ スキ* 測定地ノヒツ（黒塚41p,1916設定）ヲ廃止			
	「スキ*品種」臥牛山45C <sub>10</sub> シンブ*スキ*，クマスキ*，アキスキ*，メアサ（熊本，鹿児島産）			
	「ヒノキ間伐」新町松葉44C <sub>11</sub>			
	「アマガツ造林」前沢28h；今澄40j（樹形不良母樹カラ採種，直播）			
	「アマガツ造林」硯石47C <sub>1</sub>			
	「矮林施業法改善」郷台小屋ノ沢8D <sub>3</sub> ，砂沢30B <sub>1</sub> ，仁ノ沢40B <sub>2</sub> ，大見山42D <sub>2</sub> ，臥牛山45C <sub>6</sub>			
	（伐採季節 オビ* 伐採高ト萌芽）			
	「荒樫樹木園」24e			
	【科研】「チョウセンアサカ*類ノ栽培条件トアルカリト生成」(柴田承二助教授代表，高原分担,1950ニト)			
【来演】				
	【見学／実習】06 日大農・林2年，25； 10/14-16 教育大農・林（陣内 巖教授，石川茂雄講師）			
	2+50			
	【視察／研修】06/15-19 国立林試木炭研究室 内藤三夫，樋口五郎，樋口 優（製炭）			
【1950／S25】				
02-04?	盗伐：戸立，25年生 カシ約100本			
03/16	火災：大窪44p,u,46q, スキ* 1895-98 植，矮林，無立木地 2.75 ha，原因不明			
03	薬草：東條村県有海岸砂地デ* マウノ試験栽培開始（1953年ゴ*ロマデ* 継続）			
04/03	火災：真根沢36e，無立木地（1948年火災跡）2.88 ha，通行人ノ失火			
04	ソ他試験：果樹栽培試験，果樹園造成ノタメ 千葉県農事試験場安房分場ニ 夏蜜柑，温州蜜柑ノ接ぎ穂ヲ依頼 CS25/04/12			
06/10	【林長交替：中村賢太郎（任満了）→ 三好東一教授】			
06/25	《38°線 全域デ* 軍事衝突，朝鮮戦争 始マル》			
08	構内電話：各作業所・火ノ見小屋間ノ電話廃止			
10	【地方林長会議デ* 演習林ノ使命達成ニハ予算カ* 必要タ*カ*，予算増ニハ収入増加カ* 前提トノ認識デ* 一致】 CS25/10/27			
—	木炭：農職ヲ通ジ 農学部職員ニ木炭ヲ斡旋（1961マデ*）			
—	（物資配給関係書類ハ少ナカリ，残ルハ石油関連品目カ* 主トナル）			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
	「幼齡林，手入れ，無手入れノ比較」濁川32C <sub>3</sub> スキ*，願入坊44C <sub>2</sub> ヒノキ			
	「造林地改良（施肥）」四方木沢31C <sub>5</sub> ，葛蒲沢36h，鍛冶坂47C <sub>4</sub>			
	「スキ*成長測定」郷田倉26C <sub>7</sub>			
	「マヒコイ7苗植栽」小屋ヶ尾（Chinney 博士寄贈）			
	「特用樹種植栽」川台17C <sub>1</sub> ；荒樫24j；仲沢29j 77*ラキ*リ			
【来演】				
	【見学／実習】05/18-20 君津農林高・林3 2+28			
	【調査／研究】08/01-03 林試 宮崎技官（繊維植物）			
【研究材料】				
	【提供】02/20-21 暖地性薬用植物種苗 → 東京都立衛生研究所 新井養老所長，木村雄四郎製薬部長，西川洋一技師（来演採取）			

## 【1951／S26】

- 02/14-15 気象害：暴風雪（低気圧），全域；林木●，林地○，林道○，施設○
- 03/31 【林長交替：三好東一教授（定年退官）→ 島田錦蔵教授】



【年】月／日	項目：内容	【学内】	【学外一般】
04/01	【新制教養学部学生，本郷ノ各学部専門課程ニ進学】		
04	他演：水耕実験ホットノ移動用ニ大型トロリ4台カノ北演カノ保管転換ニナルCS26/03/16		
05	ソノ他試験：林学科芝本武夫教授幹旋ノ泥炭肥料（日本肥料K.K.）ニヨル肥培試験ヲ開始 CS26/05/23		
07/10	《朝鮮休戦会談開催》		
07	他演：砂耕実験用石英砂ヲ愛演カノ受領（以後数回）CS26/07/02,27/04/08,29/10/12		
09/08	《サンフランシスコニ対日講和条約ニ調印，日米安全保障条約締結（1952/04/28 発効）》		
12	葉草：海岸砂地テノマコ栽培好成績，試植用苗木ヲ愛演，北演ハ送ル		
12	雇用：行政整理，演全体ヘノ割リ当て6名ニ退職希望者11名，千演カノ4名カノ希望 CS26/12/26,27/02/08		
—	道路：猪ノ川林道改修工事開始（亀山村森林組合ニヨル奥地林道開発工事トシテ，1953年完工，全長5,300m 幅4.0m）		
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】			
【科研】「主要林木ノ光合成」「林業用肥料（1952ニ）」「暖地性薬用植物」			
【来演】			
【見学／実習】06/12-15 農工大・林2年（中島道郎教授，林木学，植物採集）1+30；07/08-10 東京教育大・農・林（樹木）2+25； 07/28-31 東京都立武蔵高校（生物クラブ，美術クラブ）5+25； 10/27 本学・二工・土木（三木三五郎助教授，地質）3+20； 11/16-17 東京教育大・理・植物（伊藤教授，植物採集）2+13； 11/17-19 お茶の水女子大 2+12			
【視察／研修】01/09-15 林業専門技術普及員講習会（利用，林産化学）； 02/21-26 林業経営指導員講習会 15（雪害テ中止）；10/13-14 本学・医・薬 柴田教授カノ（中原）			
【講師派遣】			
嶋田敏夫（製炭：04/20- 安房郡主基村，12/02-24 和歌山県； 木炭審査：11/05-14 東京，11/21-28 大阪）			
【研究材料】			
【提供】04 清澄G式黒炭窯資料 → 大阪府経済部（東大演報37,38ノ別刷送付）			
-----【1952／S27】-----			
02/20	【劇上演中ノ法文経25番教室ニ本富士警察署私服警官立入（ホッロ事件）】		
03/03	【矢内原総長衆院法務委員会テ「大学内ニナル学内活動ノ秩序ノ維持ハ大学ガコレヲ行ウ。警察権ハ大学ノ了解ノモノニオテ活動スル」メテ発言】		
03/31	【立地自然科学研究所廃止】		
04/30	土地：中原試験地内 宅地485m <sup>2</sup> ，所有者カノ寄付受入（1985年売り払い）		
05/01	《メーデー事件》		
05/26	労災：猪ノ川林道，黒瀧，人夫手配ノ途次，断崖カノ転落，作業員死亡1		
07/04	《破壊活動防止法案成立》		
09	火災：近火，民有地（内国樹種見本林45f隣接）		
—	道路：本沢林道改修工事開始（1957/09 完工 全長3,484m 幅4.0m）		
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】			
【造林地改良】葛蒲沢36h（1954ニ）			
【サキ品種】水呑場26D			
【科研】「薬用資源開発」			
【来演】			
【見学／実習】07/01-03 恵泉女学園短大園芸科（中島道郎）3+24； 09/21-22 鹿沼農商高校・林2,3年（田添 元校長）42			
【視察／研修】01/16-22 林業経営指導講習会 30； 04/07-11 新潟県 今井元政技師（林業経営，作業ノ機械化）；10/13-14 大日本山林会（優良林業視察第一回）；10/23 君津郡小糸村森林組合 10			



【年】月／日	項目：内容	〔演全体，他演〕	【学内】	《学外一般》
	【調査／研究】10/06-09 本学・理・地質 坂本峻雄教授，小池 清助手，西川 泰；11/08-09 東京教育大・理・植物 小宮定志 ほか（シタ植物採集） 【講師派遣】01 錫田敏夫（製炭：長生郡） 【研究材料】 【受領】03 芳樟苗 ← 専売公社 ショウ脳試験場 CS27/03/17 【提供】06 赤心（南沢45k），黒心（黒塚民有林）シタ丸太材 → 本学・農・林・パルプ			

### 【1953／S28】

03/26	【新制東京大学大学院設置】
03/28	【旧制東京大学最後，新制東京大学最初／卒業式举行】
04	軍隊：保安隊，警備地誌資料収集 CS28/04/18
05/07	視察：昭和天皇，皇后ノ行幸啓（千葉県下御巡行ノ途次，天津事務所構内亞熱帯植物園，七曲外国樹種見本林，清澄作業所構内ナト）
05	気象観測：富崎測候所へ施設 設置届 CS28/05/28
06	車輛：ビュイック乗用車ヲ本学工学部へ移管（学生実習用）
07/25	労災：本沢林道，稚児ヶ滝橋，林道改修工事中ニ岩石落下，傭人死亡2
07/27	《朝鮮休戦協定調印》
09/25-26	気象害：暴風（台風13号，潮風害），清澄管内；林木○
【試験／研究（試験地設定，研究開始ナト）】	
「シタクロン造林」26k（福田孫多氏 選抜）	
「アイノマツ造林」追原17D1,D5 沼津三明寺苗畑産	
「外国産マツ」七曲45D3 3種	
【科研】「林業用肥料」（芝本教授）：不良造林地改良 菖蒲沢；造林地施肥 郷田倉；苗畑施肥；海岸砂丘地施肥 待崎	

### 【来演】

【見学／実習】05/18-19 君津農林高 35；07/17- 山形大・文理・（皆川信弥教官，地質巡検）1+4；07/27-29 千葉大教育学部附属第一小5年（自然観察，共同学習）10+50；09/20-22 君津農林高・林1年4+42	
【視察／研修】05/11 菅田村森林組合 27；05/13-15 千葉県林業技術普及員研修 21；07/26 群馬県北群馬郡林業懇話会 40；11/13-14 群馬県勢多郡林業研究会 40；12/08-09 北海道有林森林計画関係職員研修 5；12/09-19 東京営林局担当区主任研修生実務教習	
【調査／研究】10（14日間）林試 栗山 旭技官（黒炭窯製炭試験）	

### 【研究材料】

【受領】03 エーカ 種子 200粒 ← 月本二郎；03 クスノキ苗（リナロール10，ヒスキテルペン5，サフロール5本）← 専売公社 ショウ脳試験場（小屋ヶ尾45rニ植栽，アルハ天津事務所裏？）	
【提供】06 アカマツパルプ 用試料材（荒樫24i 41年生）→ 本演；10 葉草苗 → 千葉県	

### 【1954／S29】

01/23-24	気象害：暴風雪（低気圧），清澄管内；林木○
02/12-13	研修：清澄ナ 第7回日本林学会関東支部大会ヲ開催 CS29/02/25
03/31	〔林長交替：島田錦蔵教授（任期満了）→ 中村賢太郎教授〕
03/31	千演林長交替：高原末基助教授（→名大農教授）→ 渡辺資仲助教授（樹研主任，1955/11 教授）
04/06	気象害：大雨，郷台管内；林道○
05/01	地元：亀山村四方木カ天津町ニ編入（千演林地面積 665 ha カ 地方交付金ノ配分へ影響）



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
06/03	《教育二法案公布》			
06	他演：秩演 カ 移管，レベル 5.5 m (6k) 120本ナ			
07/01	地元：鴨川町ニ 東條村，西條村，田原村カ 合併，中原試験地ノ 所在地名 カ『鴨川町東』 トナル (1971年，鴨川町ハ鴨川市ニナル)			
09/18	気象害：暴風雨 (台風14号)，清澄，郷台管内，天津；林木○，林道○，建物○			
10/01	地元：久留里町，松丘村，亀山村カ 合併，上総町トナル			
10	道路：郷台作業所・折木沢間林道開設費用分担 (170 万円ノウ 20万円) (1950/10,11, 郷台作業所管内通過奥地開発林道)			
11/28	気象害：暴風雨 (低気圧)，清澄，郷台管内；林道○			
—	地元：清澄小学校新築用材ノ 随契払い下ケ 道路：一杯水林道路面補修 (真根沢付近 延長 323 m 幅 3.0 m)			
【試験／研究 (試験地設定，研究開始ナ)】				
「造林地改良」葛蒲沢36h				
「土壌通気」安野2ts, 荒樫24j, 葛蒲沢36h				
【来演】				
[見学／実習] 05/15-16 君津農林高・林3 年 3+46; 08/25-26 鹿沼農商高 2+34; 09/04-06 千葉大文理 (西田教官，植物採集) 1+4; 09/26-27 東教育大農・林 (草下正夫講師 カ1, 樹木) 2+30; 11/25-28 農工大農・林2 年 (中島道郎教授，植物採集) 1+33; 11/29-12/02 東教育大理・植物 (伊藤 洋教授 カ1, 植物分類) 2+15				
[視察／研修] 02/04-05 北海道庁職員 5; 04/26-28 千葉県林業経営指導員講習会 30; 05/28 宮城県 (県技師，町村職員，林業先進地視察) 6; 07/12-13 神奈川県森林組合連合会 45; 08/17-18 日光林業地区森林組合 20; 11/12-13 東山梨木炭生産組合連合会 (清澄G式黒炭窯) 6				
-----				
【1955/S30】				
02/11	地元：天津町ト小湊町合併，天津小湊町トナル			
02	他演：秩演 カ 軌条ノ 保管転換ヲウケル (12 lb, 4 km, 移動式軌条トシテ) CS30/02/24			
05	ソノ他試験：『主要林木枝打試験』ノ 今後ノ 扱イ 渡辺，高原ト協議 CS30/05/28, 30 (渡辺ノ 縮小ノ 要望ニツテ 高原ハ 亀ノ 沢，戸立 ノ 保存ヲ 希望)			
07,12	地元：亀山中学校増築用材ノ 随契払い下ケ			
12	盗伐：荒樫，正月生花用切枝トシテヒメマツ 13，クロマツ 2，カ 1本ノ 立木カ 採取			
12	雇用：行政整理，演習林ハ 割当分ヲ 越エテ 整理ヲステニ 終了 CS30/12/26			
—	業草：積極的ナ 栽培，増殖ヲ 中止 計画：堀田雄次『第七次経営案 1955-1964』			
【試験／研究 (試験地設定，研究開始ナ)】				
「群状植栽」飛越41C6 シンブスキ，ヒノキ，アカマツ：1, 3, 5, 7本ノ 果				
「アカマツ密度」飛越41a1				
「アカマツ天然更新」砂沢30D				
「ユカリ植栽」45k4				
「精油試料用樹種植栽」(本学・農・林・材ニ 依頼，サワラヒノキ，サワラ，ヒノキ，ヒメロ)				
「メタセコイナト 見本林」相ノ沢9e				
「オシマサクラナト 見本林」東ノ沢11c,h, 仲沢29D1				
【来演】				
[見学／実習] 07/01-02 東教育大・農・林 (樹木); 07/20-21 埼玉大・文理1+15; 07/28-30 千葉大・理 (渡辺清彦教授，西田誠助手，植物採集) 2+29; 09/15-17 東教育大・農・林 (篠崎哲教授，海 上道雄助手，森林經理予備調査); 09/21-24 農工大・農・林 (中島道郎教授，川名 明講師) 30; 11/08-17 東教育大・農・林3 (芝本武夫教授，海上道雄助手，原口隆英助手，製炭) 30; 11/20-21 本学・理・植物 (前川文夫助教授，竹内正幸助手) 2+5				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
	<b>【視察／研修】</b> 02/16-18 山梨県林務部職員（清澄G <sub>2</sub> 式炭窯）；03/16-17 京大演 橋本英二教官 ㊦1； 03/18 栃木県林業経営指導員 30；04/07 宮城農短大 阿部 旻講師；06/23 岩村田営林署員 2； 06/29-30 千葉県林産物検査員研修 40；07/31-08/01 本学・農・職員（農職） 27；09/13-17 千葉 県森林組合役職員講習会45；10/19-21 林試熊本支場 山本常喜；10/26-27 岩手県林業改良普 及員 15；11/14-16 千葉県林業技術普及員講習会			
	<b>【調査／研究】</b> 01/11-12 本学・理・地質 小池助手，院生 2（地質調査）；03/19-20 東教育大・理 小宮 定志 ㊦1（植物分布調査）；06/07-09 資源研 野口光茂（成分研究用 ハラ類 採集）			
	<b>【研究材料】</b>			
	<b>【提供】</b> 02/17-19 リンク 幹材 3 kg → 国立林試 古川 忠技官（サカ 属心材色素成分研究用，来演採 取）；02 モウカク実生調査資料 → 京大上田弘一郎教授；04 コウカクン，アメリカス・カナ，アキリ 苗 → 本 学総合運動場（検見川）CS30/04/15；04 ヒバ 葉 2 梱包 → 本学・農・林・材二；05 アカツ試験材 2 → 本学・農・林・森林利用；05 ニオイバ 葉 → 本学・農・林・材二；06 スキ マカヒバノ 50% 程度 腐朽材 → 本学・農・林・森林利用；06 コウカクン 成育状態調査資料 → 高知大 福田；07 ア キリ 成育状態調査資料 → 王子製紙；09 イヌキ 試験材 → 本学・農・林・材二			
	<b>【受領】</b> 03 実生 モウカク ← 林試赤沼試験地（札幌見本林27Dへ植栽）CS30/03/05			

# 「1956/S31」

- 01 {雇用：常勤労務者ノ3,4級職へ採用以外ハ国家公務員初級採用資格試験合格者ヲ採用  
ノコト（本演ヲ通達）}
- 02 他演：秩演ヲ移管，ワイローフ 3 分，386m，111 kg CS31/02/06
- 02 用材供給：本学総合運動場（検見川）ヘスキ，ヒキ丸太，812+710+108 本 CS31/02/14
- 03 ソ他試験：スキ 葉精油採取試験（スキ 葉 500 kg，本学・農・林・材二 広瀬 ㊦来演）
- 04/01 {林長交替：中村賢太郎教授（定年退官）→ 藤林 誠教授}
- 04/01 {田無苗圃ノ管理ガ 演習林ニ委嘱 サレ}
- 04/01 【林産学科新設（林業学専修 → 林学科，林産学専修 → 林産学科）】
- 05 {本演 カ 演習林} 11号ニ掲載予定ノ『演習林ノ近況』原稿ノ提出依頼  
（各演 カノ原稿提出ガ 遅レ14 号ニ掲載ナル）
- 07/17-19 その他：林学教育研究集会（文部省主催，全国大学演習林長 ㊦，25 名出席）
- 11 用材供給：本学農学部附属牧場へ牧欄用杉丸太ノ払い下ゲ
- 12 地元：千演林長ト地元区長トノ懇談会
- 12 地元：天津小湊町簡易水道水源ノダム用地貸付（本沢地区）
- 12 禁猟：安房郡デ きち捕獲禁止ナル
- 試掘：石油資源開発株式会社ニヨル地質調査

## 『試験／研究（試験地設定，研究開始ト）』

- 「主要樹種時期別植栽」郷台小屋ノ沢8f
- 「林木ノ養分吸収」
- 「スキ 品種」山ノ神下44C<sub>1</sub>
- 「スキ 採穂林 ㊦レ 見本林」川台17E（1957ニモ）
- 「ヒキ 密度」神田上16C<sub>3</sub>
- 「アノマツ造林」追原17D<sub>3</sub>，前沢28g，47cs
- 「モミ人工造林」植ノ木台8c
- 「サカ × ヒキナト 植栽」東ノ沢見本林11h

## 『来演』

- 【見学／実習】06/05-07 東教育大駒場中；06/12-15 農工大・農・林2 年（中島道郎教授㊦1，林木）2+39；  
06/28-30 恵泉女学園短大（中島道郎教授）3+25；07/01-02 東教育大・農・林1 年（樹木）2+35；  
08/16-17 鹿沼農商高校 2+39；10/10-17 東教育大・農・林（篠崎 哲教授，海上道雄講師，森  
林経理）2+33；11/11-20 東教育大・農・林3 年（芝本武夫教授，原口隆英助手，製炭）30







【年】月/日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
【1958/S33】				
01/26-27	気象害：暴風雨，郷台管内；林道○			
01	概算要求ニヨル林木育種研究費ノ申請計画ノ千演テハ，サキ*精英樹選抜，採穂園，アイノマツ，外来樹種（マツ類，アカマツ類ナド）ヲ予定 CS33/01/28,02/03			
02/01	林長交替：藤林 誠教授（01/10 死去）→ 永田龍之助教授			
02/02	気象害：大雨，清澄管内；林地○，林道○			
02	林産学科ノ独立ニトモナク演習林内規ノ改正 CS33/02/12			
03	ソノ他試験：造林地ノ施肥試験ニツキ芝本教授，研究部ト打合せ CS33/03/20,04/09			
04/01	【本学職員ノ定年ニ関スル内規施行】			
04/01	演習林業務分掌規程実施（1957/09 成案）			
04/08	視察：三笠宮殿下（天津事務所構内亜熱帯植物園）			
04	地方林長会議，千葉県演習林→千葉演習林ヘノ名称変更ヲキメルカ*実施ハ延期			
05	道路：猪ノ川林道再改修工事計画，年度内開始（1960年完工）			
07/23	気象害：暴風雨（台風11号），全域；林木○，林地○，林道○，建物○，施設○			
07	雇用：本演，常勤労務者ニ国家公務員初級採用資格試験ノ受験ヲスメル CS33/07/22			
08/01	レク：清澄管内南部分カ*南房総国立公園ノ一部ニ指定サル（清澄管内，513 ha，ワ 浅間山，独鈷山 5.5 ha 第一種特別地域，ノコリハ第三種特別地域）			
08/22	労災：猪ノ川林道改修工事，落盤，死亡1			
09/18	気象害：暴風雨（台風21号），全域，天津；林木○，林地○，林道○，建物○，施設○			
09/26	気象害：暴風雨（台風22号，狩野川台風），全域，天津；林木○，林地○，林道●，建物○，施設○			
10	労災：猪ノ川林道改修工事，落盤，負傷1			
10/18	気象害：大雨，清澄，郷台管内；林道○			
12/04	演習林編集委員会内規，「演習林報告」ナド「演習林」ノ編集方針制定			
12	他演：秩演カ*移管，構内電話用電線 硬銅線 2.9 mm, 3,350 kg, 56,900 m (1959/01 受領) CS32/07/29,33/12/04			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ナド）】				
「主要樹種造林法」神田上16h（1954ニモ）				
「林地肥培」郷田倉25C <sub>2</sub> ,C <sub>7</sub> ,C <sub>11</sub> ，葛蒲沢 36C <sub>11</sub>				
「サキ*品種」郷田倉25C <sub>5</sub> （24 サキ品種）				
「セハ*ルヒコイ*見本林」葛蒲沢36D				
【来演】				
【見学／実習】06/23-26 農工大・農・林2年（林 弥栄，林木）1+37；07/01-03 東教育大・農・林1年（樹木）1+30；08/22-27 東教育大・農・林2年（堀田雄次，堀内孝雄，測樹）2+31；09/15-17 本学・理・植物（原 寛，植物分類）1+10；10/01-02 君津農林高・林1年（植物採集）48；10/02-03 君津農林高・林2年（植物採集）40；10/11-18 東教育大・農・林3年（篠崎 哲，堀内）2+39；11/05-07 君津農林高・林3年（植物採集，見学）40；11/05-14 東教育大・農・林3年（田島，原口，製炭）2+35				
【視察／研修】03/05-08,03/08-11 林野庁森林火災保険講習会（都道府県保険事務担当者）5+40,5+40；03/13-15 千葉県林業改良指導員現地研修会 50；05/30-31 本学・医・薬・薬化学教室 25；06/10-12 千葉県林道開設事業講習会；06/19-21 農工大・農・林 新井助手カ1；07/29 加茂村白鳥森林組合 50；09/25-27 静岡県中堅林業研究者研修（二俣林業事務所）；10/05 渋川林業事務所関係 50				
【講師派遣】				
01 鍋田敏夫（製炭：市原郡市津村木炭組合）				
【研究材料】				
【提供】02 マツ 300株 → 鳥取県農業組合；08 テーグマツ 苗 → 上総町山林会（部分林造林用）				



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
【1959／S34】				
02/13	研修：千演内部研修会（造林，研究部長扇田教授出席，札郷）CS34/02/05			
02	道路：追原吊り橋工事			
03/21	労災：猪ノ川林道，鳥居沢，碎石採取作業中落石，負傷1			
03/30	視察：秩父宮妃殿下（天津事務所構内亜熱帯植物園）			
03	地元：蔵玉小へ皇太子殿下御成婚記念植樹用苗ヲ寄贈CS34/03/14			
03	地元：黄和田畑区へ国策ニヨル拡大造林ノタメ萱生地貸地ノ返還ヲ要請CS34/03/20			
03	火災：近火，県有林（22林班隣接）			
04/01	労災：猪ノ川林道，黒瀧付近，改修作業中転落，負傷1			
04	試掘：1 鉦区（カマシ 沢30d）バノ試掘ヲ可トスル 本学ト5 鉦区ヲ主張スル 東京通産局トノア タデ協議ヲ続ケ			
05	測量：航空写真撮影（日林協）終了（7月，本演へ納入）CS34/01/21,05/01,05			
06/09	レク：清澄山県立公園ガ 県立養老溪谷奥清澄自然公園ト改称，国定公園ニ編入スミノ清 澄管内南部分ハ県立公園カラ除外			
06/24	電話：清澄作業所共同電話加入【天津266乙】			
06	道路：郷台林道改修計画			
07/01	労災：仁ノ沢39e，広葉樹材積調査，マシ咬傷1			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「主要樹種造林法」2j，四郎治13c，14a2,e，橋ノ沢19l，31d，32d				
「林地肥培」中ノ沢5C1，四郎治13C1				
「密度」鍛治坂46C10 スキ* 林，東漢沢44C9 マツ				
「スキ* 品種」四郎治沢13C1（31 スキ* 品種）				
「マツ植付ケ法」十面沢41C1				
「外国産マツ」七曲45D4 7 種カ				
「マシコイカ見本林」檜ノ木台8D2				
「野鳥巣箱観察」郷台苗畑付近				
【来演】				
【見学／実習】01/20-21 本学・農・園芸第二（樹木生態）2+3；03/06-08 農工大・農・林3,4年（川名）1+3；04/27-28 本学・理・地質（高井冬二カ3，地質図学）4+13；05/07-09 君津農林高・林2年48；06/03-06 茨城大・文理（生物）15；06/23-26 農工大・農・林2年（林，川名）2+40；07/18-20 千葉大・文理・生物（渡辺清彦カ2，植物）3+27；08/24-29（札郷）東教育大・農・林2年（堀田，堀内，測樹）2+30；09/27-28 東教育大・農・林1年（草下，樹木）1+28；10/01-03 埼玉大・文理（江森貫一カ1，植物採集）2+8；10/11-18 東教育大・農・林3年（篠崎，堀内，森林経理）2+34；11/04（10日間）東教育大・農・林3年（田島俊雄，中沢春治，製炭）2+30				
【視察／研修】01/10-11 全国森林組合連合会常勤役職員40；01/28-29 台湾省立農学院方 榮伸講師，林試 福原植勝技官；03/07 埼玉県大滝村森林組合；03/25-26 中央林業懇話会30；05/28-30 林業専門技術員研修（林野庁）60；08/04-05 市原郡白鳥村森林組合45；11/27 長崎県林業専門技術員 野瀬哲也				
【調査／研究】08/12-14 農工大・農・林 中村克哉（導入外国樹種病害調査）；09/15-16（以後12月マテ 毎月2日間）東教育大・理学研究科院生 内田正之助（伊藤 洋教授，カ* 菌ノ調査）				
【研究材料】				
【提供】03カ* 精英樹（千石2，瀧ノ沢1）挿シ穂 → 千葉県；05 清澄山植物園説明資料 → 京都植物園；05 スキ* 挿シ穂2,770本 → 農電研（渡辺）				

## 【1960／S35】

02/01	【演習林長事務代理 島田錦蔵教授（永田林長病氣ノタメ）】
02	【演習林業務分掌規程】



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
03/17	火災：黄和田畑地区火災，千演職員3名，家屋被災			
03	他演：郷台苗畑，札郷苗畑で使用するノハントトラクターヲ秩演へ送ル CS35/03/22			
04/01	人事：病氣ノヲ資金前渡官吏交替，渡辺千演林長 → 唐鎌禎二事務主任 (1961/10/02マテ)			
04/27-28	研修：内部研修会ト造林コンクール			
05	地元：黄和田畑部落火災復興木材ノ払い下げ CS35/04/20,05/15,21			
05	記念：千演創設 75 周年記念展示林ノ設置計画検討 CS35/05/23 (スギ品種別展示林ト， 一杯水林道，本沢林道，武者戸苗畑周辺)			
05	用材供給：本学農学部附属牧場へ牧欄用杉丸太 400本ノ払い下げ CS35/05/25			
05-06	《新安保条約反対デモ，06/23 条約発効》			
08/20-21	気象害：暴風雨（台風14号），全域，天津；林木○，林地○，林道○			
09	観測協力：県開発局依頼ノ札郷雨量観測ヲ了承 CS35/09/?.10（君津三川工業用水取水計 画ノヲ小櫃川水利利用計画ノ基礎資料）			
09-10	記念：75周年記念林用スギ挿木品種苗幹旋ヲ林試九州支場トニ依頼 CS35/09/27**			
12/27	《池田勇人内閣，所得倍増計画ヲ決定》			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「主要樹種造林法」南沢45k <sub>1</sub>				
「林地肥培」（各社カヲ試験用肥料，研究費）				
「苗木ノ大小，地上部切除ト成育」四郎治沢13C <sub>1</sub>				
「スギ植付ケ法」大窪44C <sub>12</sub>				
「マツ地方品種」飛越41D 6産地26母樹＋千演母樹1トテマツ				
「クロマツ密度」東漢沢44C <sub>9</sub> 2.5, 4.5, 10千本/ha				
「矮林施業法改善」27i				
「センペルコイア，メキコイア 見本林」檜ノ木台8D（+サンフスギ，1961,1962ニモ）				
「鍛冶坂展示林」46t				
「千演創設 75 周年記念展示林」造成開始				
【来演】				
[見学／実習] 04/15-16 本学・理・地質（高井 敏3，地質図学）4+14； 06/12 千葉大文理学部学生ヲ （房総一周見学ノ途次）； 07/07-09 千葉大・文理・生物（渡辺，植物）1+30； 07/12-18 東教 育大・農・林2年（堀田，岩淵 裕教務員，測樹）2+28； 07/22-26 安房一高（植物採集）； 08/10-11 鹿沼農商高・林 2+40； 09/13-14 東教育大・農・林1年（草下，樹木）1+28； 10/12-14 君津農林高・林2年 2+46； 10/26-11/02 東教育大・農・林3年（篠崎，岩淵，森林経 理）2+27； 11/04-13（札郷）教育大・農・林3年（田島，製炭）1+35				
[視察／研修] 01/09-11 東洋造林 難波江伸武（東北林木育種場研究実習生）； 02/11-13 下総御料 牧場（三里塚）根本 亨； 02/23-24 栃木県林業研究クールフ先進林業地視察研修 3+50； 02/24-03/06 静岡県林業実習生 1+9； 03/14-16 山形県置賜地方林業改良指導員 8； 03/29 君 津郡小糸町森林組合 45； 06/14-15 千葉県林道関係講習会（千葉県林務課）8+45； 08/11-13 農工大・農・林 喜多村助手，藤田正雄技能員； 11/28-29 千葉県林産物検査職員研修会 （千葉県林務課）45				
[調査／研究] 03/14-16（以後7月マテ 毎月2日間），東教育大・理学研究科院生 内田正之助（伊藤 洋 教授，サビ菌ノ調査）； 07/11-14（札郷）本学・理・地球物理 赤松敬助手 カ院生2（千葉県内 及ヒッソ 周辺ニ起ル微小地震及ヒ 脈動ノ予備観測，本観測ハ7月下旬カラ1ヶ月間）				
【研究材料】				
[提供] 04 スギ挿シ穂 500本（切通南沢 45k <sub>2</sub> ノ母樹10本カラ） → 農電研； 11/19-20 交換用種子 → 本 学・理・植物園（来演採取）； 11 教材用植物 → 長狭町立吉尾中学校； 11 シ 幹材 100 kg → 本学・農・林産・森化； 11 スギ葉（41林班） → 京大 柴田信男，大阪府大 永山 修（スギ 葉ニカハスストロノチウム濃度ノ地域差ト経年変化ノ試料）； 12 サンフスギ 苗 100本 → 大分林試				



【年】月/日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
	【受領】10 杉* 挿シ木基準品種苗（展示林用）← 九州林木育種場			

### 【1961/S36】

- 01 記念：75周年記念林用 杉\* 挿木品種苗ノ幹旋ヲ林試石崎厚美氏ニ依頼（九州地方以外ノ品種）CS36/01/11,21
- 01 地元：黄和田畑方面15 ha, ヲムサト計画ヲ県ニヨル地形測量CS36/01/31
- 02/01 {林長交替：永田龍之助教授（任期满了）→島田錦蔵教授}
- 03 雇用：本演，日雇者（甲）ノ賃金予算ノ制約強化，新規採用見合ヲ要望CS36/03/29
- 04 記念：千演創設75周年記念展示林造成初年度予算50万円ヲ計上
- 05 他演：秩演へ移管，孔掘機CS36/05/04
- 06/27-28 気象害：大雨（S36梅雨前線豪雨），郷台管内；林道◎
- 07 他演：北演へ移管，クラッシャー（発動機ヲ）CS36/07/10
- 10 禁猟：千葉県下一円ヲオシカノ捕獲禁止（1961/10/24-1971/10/23）
- 11/21-22 気象害：大雨（低気圧），郷台管内；林道◎
- 構内電話：小屋ヶ尾線廃止

### 【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】

- 「林地肥培」 柚ノ木沢3C<sub>4</sub>，相ノ沢10C<sub>2</sub>，東ノ沢10C<sub>4</sub>，毘沙門41C<sub>4</sub>
- 「施肥，植付ケ法」 柚ノ木沢3b<sub>2</sub>，西ノ沢4a<sub>1</sub>
- 「サンフス杉\*造林」 柚ノ木沢3C<sub>3</sub> 挿木苗，実生苗，直挿シ比較
- 「杉\*品種」 仲沢29D<sub>2</sub>，（28 杉\*品種）
- 「アカマツ地方品種」 濁川32C<sub>1</sub> 6産地26母樹＋千演母樹1
- 「ミ各地産」 砂沢30C<sub>4</sub> 千演，秩演，富岡営林署産
- 「矮林施業法改善」 仲沢29p<sub>1</sub>
- 「外国産マツ見本林」 飛越41C<sub>5</sub>
- 「東漢沢展示林」 44s（カ類造林，マツ密度試験）
- 「願人坊林地肥培展示林」 44j
- 「架線搬出」 千石33（直営生産，山土場処分ヲ実習・研究用トシ架線搬出ニ変更）

### 【来演】

- 【実習／見学】 06/25 千葉大文理学部学生ヲ10+120； 07/10-12 千葉大・文理・生物（渡辺教授，西田講師，吉田助手，植物）3+30； 07/12-18（札幌）東教育大・農・林2年（堀田，岩淵カ1，測樹）3+15； 08/29 茨城県高等学校生物研究会 50； 10/11-13 君津農林高・林2年 2+42； 10/26-11/02 東教育大・農・林3年（篠崎，岩淵，森林經理）2+16
- 【視察／研修】 01/23-27 三井物産山林部現場員 10； 02/07-10 千葉県農山漁村青年農事研修会 20； 02/23-03/04 静岡県林業技術研修生 1+9； 11/29 愛知県鳳来町中部森林組合 40； 12/07 埼玉県林業改良普及協会 40

### 【研究材料】

- 【提供】11 枝，葉試料 → 東京医科歯科大・材料研究所

### 【1962/S37】

- 03/19 火災：大窪44p<sub>5</sub>，矮林11年生0.07 ha，隣接民有林カ類焼，煙草火
- 04 観測協力：県開発局依頼ノ札幌雨量観測ノ継続ヲ了承CS37/04/11
- 04 雇用：日雇者（甲）全員（16名）ノ定員化CS37/04/10
- 04 道路：清澄ハス道路新設用地ノ所管換エ開始CS37/04/27,05/01
- 06 道路：千石林道建設準備CS37/06/04,21
- 07 道路：四方木地先，県道トシテ拡幅工事（秋マテ）CS37/07/16,20,09/28
- 09/12 火災：鳥居沢2i, スキ, ヒノキ1961植 0.05 ha，煙草火
- 09 地元：清澄簡易水道設置用地（578 m<sup>2</sup>）ノ天津小湊町ヘノ貸与CS37/09/03
- 10 禁猟：清澄山鳥獣保護区指定（天津事務所ナドヲノゾク千演全域カ含メル）



【年】月／日	項目：内容	〔演全体，他演〕	【学内】	《学外一般》
10	禁猟：千演職員へ／狩猟監視員委嘱開始（安房農林事務所長 かな）CS37/10/20			
10	地元：地元部落 かな／炭材，建具材／随契払い下け 陳情 CS37/10/30			
11	土地：天津小湊町道敷地／所管換 Ⅰ, 2,813 m <sup>2</sup>			
12	他演：秩演へ 標高ヲ 変エモミ，ウラジノロモミ 標本ノ 採集ヲ 依頼（浸透交雑試験ノ 準備）			
—	道路：一杯水林道改修 全長 2,599 m 幅 3.0 m			
—	道路：千石林道竣工 全長 350 m 幅 3.0 m			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】				
「主要樹種造林法」 柚ノ木3C <sub>6</sub> ，毘沙門41C <sub>4</sub> ，一杯水43C <sub>2</sub> （植付ケ方法，時期別，疎植ト）				
「林地肥培」 柚ノ木3C <sub>1</sub> スキ 実生苗				
「育成紙」 柚ノ木3C <sub>6</sub> （五洋紙工，中井商店ト 材料提供）				
「育種（花芽着生促進，人工交配ト）」 神田上16f，仲沢29p，七曲45f，武者戸45r（シヘレリン・花芽着生，人工交配）； 札郷苗畑27i（光周性・花芽着生）				
「スキ密度」 千石33b，梨ノ木台43C <sub>14</sub> ，武者戸45s（サシスキ）				
「ヲカウショウ見本林」 瀧ノ沢7c				
「野鳥巣箱観察」 清澄付近（1963ニ）				
【来演】				
〔見学／実習〕 04/05-07 千葉大・文理・生物（植物）2+25； 06/03 千葉大文理学部学生ヲ 15+100； 07/06-08 千葉大・文理・生物（植物）2+30； 07/12-18（札郷）東教育大・農・林2年（堀田，岩淵，測樹）2+22； 07/18-20 学芸大・生物（川崎次男 かな2，植物系統学・植物生態学ノ 野外実習）3+22； 08/07-08 鹿沼農商高・林 3+37； 09/13-15 東教育大・農・林（倉田 悟助教授 かな1，樹木）2+20； 08/27 千葉県遺児奨学生（高校生）40； 10/15-22 東教育大・農・林3（篠崎，岩淵，森林経理）2+15； 12/01-02 本学・経済（柳川 昇教授，セミナル）1+13				
〔視察／研修〕 02/01-07 静岡県林業技術研修生 2+6； 02/06-09 千葉県農山村青年研修（林業技術）； 02/12 矢板市林業研究会 45； 02/27 静岡営林署 5； 05/31-06/02 東京営林局関係者（植付ケ方法）31； 06/06-07 関東各県土壌調査担当者研修（林試，林野庁）20； 06/12-14 林業改良指導員新任者研修 50； 06/25 栃木県営林担当者 25； 09/16-18 林業専門技術員新任者研修 46				
〔調査／研究〕 08/30-31（清澄），08/31-09/01（札郷），本学・地震研 技官3，院生1				
『微小地震活動観測（航自峯岡基地，地震研・鋸山観測所，清澄，札郷ノ 比較）』				
【講師派遣】				
渡辺林長（育林：『造林技術ノ 再検討』『ツルカヲノ 林業経営』ト，全国各地ヲ 講演）				
【研究材料】				
〔提供〕 03 キシヨラン → 北大・医・薬 三橋 博； 03 アカシアラカン 幹材，d:20 cm l:2 m各1本 → 本学・農・林産・森化； 04 ムナシ材 0.3 m <sup>3</sup> → 本学・農・林産・材二； 11/13-15 交換用種子 → 本学・理・植物園（技官3 来演採取）				

# 【1963／S38】

02/05	通信：郵便物ノ 配達ヲ 午前ノ かな午後ニ 行ウヨウ 要請
03/26	火災：天津町有林（硯石付近）
04	観測協力：県開発局依頼ノ 札郷雨量観測ノ 継続ヲ 了承 CS38/04/13
06	狩猟：ノウサキノ 除害狩猟（鳥獣捕獲許可証ノ 返納）
06	その他：研究部，外国雑誌ノ タイトルサービス開始（23 誌ヲ 依頼）CS38/06/14
07	境界査定：東京営林局，境界ノ 確定ニ 演習林ノ 境界標識ノ 活用ヲ 希望 CS38/07/24
08	土地：県道敷地所有ニ ツキ 会計検査院ノ 指摘，県へノ 所管換 ⅠCS38/08/31, 39/02/07
10	人事：渡辺資仲林長病氣ノ ツキ 高杉欣一助手千演林長事務代理
—	試掘：演習林外 かな 傾斜掘リニヨル 試掘ノ 可否ノ 照会

## 【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】

「林地肥培」 郷田倉25C<sub>3</sub>

「群状植栽，階段造林」 梨ノ木台43C<sub>14</sub>



【年】月／日

項目：内容

【演全体，他演】

【学内】

【学外一般】

「育成紙」郷田倉25C<sub>3</sub>，大平46C<sub>5</sub>

「モミ・ウラジ・ロミ 浸透交雑」3c1 花芽調査；東ノ沢11c ウラジ・ロミ枝採取；荒樫24i ミ種子採取；27 ミ，ツカ開舒観察；仲沢29b アカ・ナミ着生枝採取；武者戸45s ミ種子マキツ；ナミ（秩演へ依頼：モミ・ウラジ・ロミ アイノコ？ 球果の採取CS38/04/09，ミ，ツカ類ノ冬芽開舒ノ経過観察CS38/05/02，ミ，ウラジ・ロミ 花付き枝ノ採取CS38/05/06，20 ナミ）

「展示林」飛越41d マ；毘沙門41e 植付方法；一杯水43b 肥料木；梨ノ木台43u 肥料木混植，水平階段切り；太平46m 林地肥培，根系ノ発達状況，育成紙

「外国産マツ見本林」梨ノ木台43C<sub>19</sub>

【来演】

【見学／実習】04/03-05 千葉大・文理・生物（西田 勲1，植物）2+34； 07/08-13 東教育大・農・林2年（堀田 勲1，測樹）2+19； 07/24-27 学芸大・生物2年（川崎 勲1，植物系統，植物生態）2+28； 07? 千葉大・文理・生物（渡辺 勲1，植物）2+30； 09/13-15 東教育大・農・林1年（倉田 勲1，樹木）2+20； 10/10-12 君津農林高・林2年（見学）2+50； 10/14-21 東教育大・農・林3年（篠崎，今野）2+20

【視察／研修】01/25-26 秋田営林局管内営林署 3； 05/25-27，06/25-27 林業普及指導員中央研修（林野庁）46，45； 05/28-30 林業改良指導員新任者； 06/25-27 林業専門技術員新任者； 07/29-08/07 林業講習所専攻科 40； 07 文京区立中学校理科教員研修会（文京区科学教育センター）

【研究材料】

【提供】02 ナブ・スキ苗 → 田無試； 03 クス材 → 演研； 10 シ 幹ト 大枝（舟ヶ沢42a，10 kg，dbh 20 cm）→ 本学・農・林産・森化； 11 シ・レトスキ，ナブ 着花枝→ 林試・浅川実験林 小林義雄； 11 コテカ・シ 種子 37c，150g → 林試； 12 シ（2回目，舟ヶ沢42a，幹30 kg，枝30 kg，dbh 18 cm）→ 本学・農・林産・森化

【受領】04 スキ 挿し穂（ナカ平スキ 母樹2本）← 秩演；（ソノ他，秩演 ナミ『モミ・ウラジ・ロミ 浸透交雑』関係ノ材料）

【1964／S39】

01 労災：払い下ゲ 立木伐倒作業中ノ矢野木材従業員死亡 1 CS39/01/06

01 軍隊：付近地域テノ自衛隊野外演習実施ノ連絡 CS39/01/10 （以後，同種文書ガ各年往復綴ニ散見サレ，後年ノ自衛隊問題ニ至ル）

02/01 {林長交替：島田錦蔵教授（任期満了）→ 荻原貞夫教授}

02 記念：千演産樹木ノ材鑑製作準備ニ着手（75周年）CS39/02/27

04 《国立学校特別会計発足》

04 建物：札幌作業所事務所兼宿舍修繕完了 CS39/04/01

06 施設：中原 ガラス室修繕 CS39/06/06

07 ソノ他試験：アカ・ナミ保存ノタメ 処分林分ヲ変更（仲沢29b → 仁ノ沢39e）CS39/07/08

07 観測協力：札幌作業所ニ 半地下式地震計設置（地震研：筑波山，堂平山 トノ3点観測網ニヨリ 自然地震ヲ利用シ 地下構造ヲ推定）CS39/07/20

07/31-08/07 他演：樹研，山下林道工事ニ 協力（職員 5名派遣，1963年 ニモ）CS39/07/20

08/20-23 [研究連絡会議，第1回，秩演] CS39/08/06

08 境界査定：東京営林局計画課へ 千演・国有林境界測量資料ノ提供ヲ要請CS39/08/25

09 雇用：欠員ノ補充強化ノ通達（本演 ナミ）CS39/09/10

09 ソノ他試験：林地肥培試験（1958-1963年）ノ継続ニツキ 検討CS39/09/19

10/10-24 《第18回 利ビツク 東京大会》

11 ソノ他試験：秩演ト 共同研究ニツキ 打ち合ハレ（植付ケ方法，耐寒性ナミ）CS39/11/19

11 禁猟：安房支庁 ナミ 千演職員3名ガ 鳥獣保護員ノ委嘱ヲ受ケルCS39/10/23，11/19  
（以後毎年委嘱継続）

【試験／研究（試験地設定，研究開始ナミ）】

「主要樹種造林法」菖蒲沢36C<sub>10</sub>（地拵工）



【年】月／日

項目：内容

【演全体，他演】

【学内】

【学外一般】

「林地肥培（肥料木，マルチング）」西ノ沢4C<sub>2</sub>；郷台小屋ノ沢8C<sub>2</sub> 40年生 スキ<sup>\*</sup> 林；菖蒲沢36C<sub>10,11</sub> 6年生 サンフ<sup>\*</sup> スキ<sup>\*</sup> 林；梨ノ木台43C<sub>10</sub>

「スキ<sup>\*</sup> 品種／育種検定林」西ノ沢4C<sub>2</sub> 10 サシキ品種＋；遠矢ヶ台47D<sub>5</sub> 13 サシキ品種＋12千演母樹

「外国産マツ見本林」一杯水46D<sub>1</sub> 5種 林

【来演】

【見学／実習】04/02-04 千葉大・文理・生物（西田，植物）1+30； 07/06-08 千葉大・文理・生物（渡辺清彦教授，吉田 治助教授，植物）2+30； 07/13-19（札幌）東教育大・農・林2年（堀田，今野，測樹）2+20； 07/25-28 学芸大・生物2年（川崎 林<sup>1</sup>，植物系統学，生態学）2+30； 09/12-14 東教育大・農・林1年（倉田 林<sup>1</sup>，樹木）2+22； 10/26-11/02 東教育大・農・林3年（篠崎，今野，森林経理）2+20； ？安房高（植物・昆虫採集）

【視察／研修】02/17-03/16 松尾高雄（諸戸林産），中島平八（尾鷲市山林事務所）；06/16-19 関東地区治山事業技術講習会（千葉県）40； 12/07-09 栃木県山村中堅青年林業教室第4次総合研修会 ？+33； 12/10-12 福島県林業教室第2回総合研修会2+43； 12/17 多古町付近山林所有者（千葉県林試）1+19； ？山形県林業教室

【調査／研究】02/04-05 林試 坂口勝美，橋本与良，加藤善忠 林<sup>1</sup>（マツクイムシ被害状況）；12/25-28 資源研 吉野みどり 林<sup>2</sup>（常緑広葉樹林ノ植物生態地理学的調査，科研総合：関東地方ニ於ケル 第4紀ノ自然ノ変遷ニ関スル研究）

【講師派遣】

渡辺林長（育林：『良イ苗木ノ考エ方トソノ 仕立テ方』ナ<sup>\*</sup>，全国各地テ 講演指導）

【研究材料】

【提供】01 育成紙使用経過資料 → 五洋紙工，中井商店；02 試験用木材（イキ<sup>\*</sup>リ，ヤマク<sup>\*</sup>ワ，イヌヅク<sup>\*</sup>，イヌテ<sup>\*</sup>，アツ<sup>\*</sup>キ，トハ<sup>\*</sup>ラ）→ 名大・農・林・森林利用 山本 孝；04 見本園用樹木（10種405本，1963ニモ）→ 千葉県林試；05 キン<sup>\*</sup>ヨシ → 北大・医・薬 三橋博；07 アカマ<sup>\*</sup> 試験用木材（成長ノ 良イ d:20 cm, l:1 m, 2本）→ 本学・農・林産・バル<sup>\*</sup>；11 交換用種子 → 本学・理・植物園（技官3来演採取）；12 イキ<sup>\*</sup>リ種子 344 g → 農工大・農・林 相場芳憲；12 ヌ<sup>\*</sup>リハ根<sup>\*</sup>ツ 幹材 10 kg → 本学・農・林産・材二

【受領】1963ニ引キ続キ秩演カ<sup>\*</sup>【ミ<sup>\*</sup>・ウシ<sup>\*</sup>・ロミ<sup>\*</sup> 浸透交雑】関係ノ材料

【1965/S40】

01 演習林名変更（千葉県演習林→千葉演習林，愛演<sup>\*</sup>同様）ノ徹底ヲ本演指示ノ

02/07 <米軍機ガ<sup>\*</sup> 北ヘトハ<sup>\*</sup> 爆撃ヲ開始>

04/01 【大学院ノ生物系・数物系・化学系ノ3研究科ヲ改組，理学系・工学系・農学系・医学系・薬学系ノ5研究科ヲ設置】

04/01 【園芸実験所設置】

04-05 地元：町道清澄参道線改修，町道稚児ヶ滝線災害復旧，清澄簡易水道新設ノ各負担金支出 CS40/04/22,05/07,15, CS41/01/26

05 【農学部図書館再建】

10 土地：中原試験地（国有農地借地部分）ヲ旧地主ニ返還ノ方針トノ連絡ヲ受ケル

— 計画：高杉欣一「第八次経営案 1965-1974」

【試験／研究（試験地設定，研究開始ナ<sup>\*</sup>）】

「植付け法（時期別深植ノ浅植ノ比較）」井戸沢10C<sub>2</sub>，仁ノ沢39C<sub>3-1,2</sub>，大見山42C<sub>3-1</sub>

「スキ<sup>\*</sup> 品種／育種検定林」相ノ沢9C<sub>1</sub> 25 サシキ品種＋8千演母樹； 牛蒡沢11C<sub>2</sub> 18 サシキ品種；大見山42C<sub>3</sub> 35母樹；南沢45D<sub>7</sub> 11 サシキ品種＋8千演母樹；遠矢ヶ台47D<sub>5</sub>；鶏毛山47C<sub>8</sub>

「スキ<sup>\*</sup>，ヒキ<sup>\*</sup>密度」仁ノ沢39C<sub>2-1,2,3</sub>（1667, 3333, 6667, 13333本/ha, 1966, 1969, 1970ニモ）

【来演】

【見学／実習】04/02-05 千葉大・文理・生物（西田 林<sup>1</sup>，植物）2+28； 07/05-07 千葉大・文理・生物（渡辺清彦教授，吉田治助教授，大賀宣彦助手，植物野外実習Ⅱ）3+30； 07/08-14 東教育大・農・林2年（堀田，今野，測樹）2+21； 08/19 鹿沼農商高・林2年 2+50； 09/15-17



【年】月／日

項目：内容

【演全体，他演】

【学内】

【学外一般】

東教育大・農・林1年（倉田 悟講師，荒木真之教務員，樹木）2+20； 10/06-08 君津農林高・林2年2+57； 10/16-23東教育大・農・林3年（篠崎，今野，森林経理）2+20

【視察／研修】02/24 秋田営林局管内担当区 2； 02/27 岩手県農地林務部林業課 4； 03/10-12 月夜野営林署 10； 03/12-14 水上営林署 7； 03/16 東京都林業教室3+9； 03/16-17 長野県林業教室31； 06/06-08 林業改良指導員新任者 43；08/02-13 農林省林業講習所専攻科 43； 08/30 岩手県筑波森林組合 11； 09/24-25 熊本県林務部県有林課 4； 10/03-05 埼玉県林業教室 12； 10/19-20沼津営林署 5； 10/22 長野県小県郡真田町共有財産組合 20； 10/28 新潟県西蒲原地区林業改良協会 22； 11/10-11 山形県林業教室； 11/15-16 林経協青年部研修会 30； 11/18-20 千葉県林業教室； 11/25-26 岩手県林業教室 50；12/08-10 福島県林業教室 2+45

【調査／研究】02/19-20 林試 岸 善一（スギ品種調査）

【その他】02/07 植物友の会（本田正次，植物採集）； 05/24-25 応微研（微生物関係セミナー）25； 07/21-24 安房高（植物・昆虫採集）2+43；07/30-08/01 東亜植物学会（倉田 悟，植物採集）； 08/08-09（札幌）上総町教職員植物研修会（植物採集）20； 08/17-19（札幌）君津郡内小・中校（第7回君津郡生活指導宿泊研修会）30

【講師派遣】

渡辺林長（育林：『造林技術ノ再検討』『明日ノ造林』ト，全国各地で講演指導）

【研究材料】

【提供】01 見本園用樹木（7種270本）→千葉県林試；04 各樹種幹材→東京歯科大・歯科材料研究所 石川正幸教授；05 マツノミ試験材（d:25 cm l:1 m 各2本）→本学・農・林産・ハルフ；06 ヒノキ試験材（d:20-30 cm l:1 m 3本）→本学・農・林産・森化；07 クマシ調査資料→長野県林試；08 マツノミ樹脂→Calif.大 Mirov；09 スギ精英樹挿し穂→千葉県林署；10 立山スギ苗（4年生，50本，豪雪地用）→福島県南会津郡南郷村；10 マツノミ被害木（真根沢36c7,5本）→愛演金光桂二

【1966／S41】

03 観測協力：県開発局依頼ノ札幌雨量観測ノ継続ヲ了承 CS41/03/17

04/01 林長交替：荻原貞夫教授（定年退官）→ 平井信二教授】

08/01-09/20 道路：折木沢橋工事

08/16-25 地元：天津，小湊両中学校生徒ノ演習林内ハイキング（天津小湊町青少年健全育成協議会主催）CS41/08/05

10/17 火災：清澄地区，2戸全焼，2戸半焼

10 地元：清澄地区火災復興木材ノ払い下ケ CS41/10/28

12 試掘：出願ニ対シ支障アリト回答

— 禁猟：天津鳥獣保護区指定（天津事務所周辺ガ含マレル，後年，区域外トナル）

【試験／研究（試験地設定，研究開始ト）】

「植付け法（深植エ）郷田倉28C<sub>2-1</sub>

「スギ品種／育種検定林」向山6C<sub>1-1</sub> 9サシ品種+26 千演母樹；大仙場35C<sub>5</sub> 5サシ品種+18 千演母樹

【来演】

【見学／実習】07/13-19 東教育大・農・林2年（堀田，今野，測樹）2+17；08/19 鹿沼農商高・林2+48；東教育大・農・林（倉田，荒木，樹木）2+24； 東教育大・農・林3年（篠崎，今野，森林経理）2+20

【視察／研修】01/31-02/01 栃木県林業センター 5； 02/10-11 岩手県千厩農林事務所林務課普及係 6； 02/11-12 青森営林局造林課 8； 02/18-20 富岡営林署 11； 03/03-04 国立林試造林部 7； 03/08-09 長野県林業教室 4+40； 03/10 東京都林業教室 21； 03/10 静岡県内森林組合 10； 03/10-11 前橋営林局管内営林署 8； 03/14-15 喜多方営林署 8； 03/21-22 北見営林局管内営林署 5； 04/08-09 埼玉県東松山農林事務所 10； 05/26-28 林業改良指導員新任者 44； 05/28 茨城県林政課 4； 06/14 千葉県八日市場市森林組合 50； 06/? 岩手県気仙沼林業改良指導区運営協議会 10； 07/04 千葉県清和村森林組合 20； 07/06 関東中部林業試験研究機関連



【年】月／日	項目：内容	【演全体、他演】	【学内】	【学外一般】
	絡協議会（千葉県林試）35; 07/06 山形県東置賜郡高島町和田財産区 12; 08/02-13 農林省 林業講習所専攻科 45; 09/27-28 宇都宮市有林; 09/29-10/01 埼玉県林業教室 10; 10/04 鹿沼市林業研究協議会 50; 10/11-13 秋田市有林 6; 11/04-12/03 愛知県山村中堅青年育成 事業技術交流研修生 2; 11/14-15 関東7 <sup>*</sup> ロック林業研究グループ交換研究会（千葉県農林部）52; 11/15-17 山形県林業教室 30; 12/01-02 岩手県林業教室 50; 12/07-10 福島県林業教室 2+50; 12/14 千葉県南部林業事務所 22; 12/? 千葉県林業教室			
	【調査／研究】10/07-08 本学・理・植物園 大山陽生（林内 <sup>*</sup> スノキ科植物ノ成育形態）			
	【その他】06/08-09 農職（阪本楠彦，組合員交流）30; 07/12-24 安房高（生物部，植物・昆虫採集） 2+30; 07/25-26（札幌）上総町教育委員会研修会（坂畑小学校長）16; 07/30 東総工高（旭市） 7+18; 08/12-13（札幌）蔵玉小学校長 林（植物採集 <sup>*</sup> ）25; 08/16-25 天津小湊町青少年健全 育成協議会（演習林内 <sup>*</sup> ハイキング <sup>*</sup> ，天津，小湊両中学校2年250名，50名 <sup>*</sup> スツ単位）; 08/21-22 応微 研10研（セミナー）20			
	【講師派遣】 渡辺林長（育林：「新 <sup>*</sup> シスキノ造林技術」 <sup>*</sup> ，全国各地 <sup>*</sup> 講演指導）			
	【研究材料】 【提供】11 交換用種子 → 本学・理・植物園（技官4 来演採取）			
-----				
【1967／S42】				
01	建物：応急仮設宿舍（準公務員宿舍）ヲ改築ニヨリ公務員宿舍トスル可能性ニツキ本演カ 照会（7戸可，6戸不可ト回答）CS42/01/24,28			
02/10-13	気象害：大雪（前線，低気圧），全域：林木◎			
02	地元：人口流出 <sup>*</sup> 演職員ノ地元消防団非常勤職員就任ノ可否カ <sup>*</sup> 問題トナル			
04	雇用：選考採用困難ニツキ日雇職員ニ国家公務員初級職受験ヲ本演要望 CS42/04/12			
08/02-09	地元：天津，小湊両中学校生徒ノ演習林内 <sup>*</sup> ハイキング <sup>*</sup> （天津小湊町青少年健全育成協議会 主催）CS42/07/29			
08	地元：06/28-29ノ豪雨ニヨリ鴨川町水道水源池汚濁ト郷台林道工事ノ捨土ノ因果関係カ <sup>*</sup> 問題トナル（以後，千演ト鴨川町ノ協議カ <sup>*</sup> 続キ1968年末解決）			
10/08	《第一次羽田事件（11/12 第二次羽田事件）》			
10/17	その他：郷台周辺「第4回千葉県自動鋸伐木材競技会」会場トナル CS42/09/30			
—	自然保護：「東京大学千葉演習林自然保護協力者ノ証」地元協力者ニ発行 自然保護：「動植物採集禁止」 <sup>*</sup> ノ立 <sup>*</sup> レ札ヲ設置			
	【試験／研究（試験地設定，研究開始 <sup>*</sup> ）】 「保残木作業」柚ノ木3C2-3（樹下植栽，二段林） 「育種検定林」瀬場沢3C2-2 「スキ品種」鶏毛山47C5 クモトシ，スケモン，キン 「ヨレスキ見本林」四方木沢31C4 「ヒメコマツ保護区」四郎治 林			
	【来演】 【見学／実習】04/02-05 千葉大・文理（栗田子郎講師，植物野外観察，一般教養）1+32; 07/12-18 東教 育大・農・林2年（堀田，今野，測樹）2+22; 07/27-30 学芸大・生物2年（川崎，植物分類， 植物生態）1+26; 08/21 鹿沼農商高・林2+47; 09/16-17 千葉大・園芸・造園植栽（飯島 林2， 造園植物採集）3+32; 09/? 東教育大・農・林（倉田，荒木，樹木）2+28; 10/04-05, 10/05- 06 君津農林高・林2年2+49, 2+45; 10/13-20 東教育大・農・林3年（篠崎，今野，森林經理） 2+17; 11/06-09 金沢大・理・生物3年（秋山茂雄教授，里見信圭講師）2+15 【視察／研修】表25参照 【その他】07/21-25 安房高生物部（生態研究）; 08/01-06 長狭高（清澄山ノ植物 <sup>*</sup> ）2+25; 08/02-09 （ヤン <sup>*</sup> ，白岩）天津小湊町青少年健全育成協議会（演習林内 <sup>*</sup> ハイキング <sup>*</sup> ，天津，小湊両中学校2年 240名，45名 <sup>*</sup> スツ単位）; 08/07-08（札幌）亀山中職員; 08/07-08（清澄寺）千葉市内小中校 理科担当教員50; 08/07-09 群馬県立大田二高生物クラブ 20			



【年】月／日

項目：内容

【演全体，他演】

【学内】

【学外一般】

【講師派遣】

渡辺林長（育林：岩手県，名古屋営林局管内，徳島県，九州方面ナテ講演指導）

【1968／S43】

01/27

【医学部学生大会無期限ストライキ決定（東大紛争ノ発端）】

02/15

気象害：暴風雪（低気圧），全域：林木●（被害調査ニ秩演職員協力）

03

道路：県道南総天津小湊線（天津・清澄間）改修計画ニ試験地ノ配慮ヲ県鴨川土木出張所ニ要望 CS43/03/23,05/08

04

その他：水源涵養保安林ノ指定ヲ受ケル（42-47林班ヲノゾク1,822ha） CS43/04/20

06/17

【警察力導入ニヨル安田講堂占拠学生ノ排除（東大紛争全学化ノ契機）】

06/26

《小笠原諸島返還実現》

06/28

【総長，職員・学生ト会見，『東大闘争全学共闘会議』結成ヲ】

08/01-08

地元：天津，小湊両中学校生徒ノ演習林内ハイキング（天津小湊町青少年健全育成協議会主催） CS43/07/18

08

土地：日本電信電話公社ハ無線塔敷地（飛越）トシテ3,051m<sup>2</sup>ヲ売り払い

09/30

【理，農ヲヒテ薬学部ガ無期限ストニ突入】

10/21

《国際反戦デモノデモ隊，新宿駅一時占拠（新宿事件）》

10/31

《米軍，北ベトナム爆撃ヲ停止》

11/01

【評議会，医学部ノ学生処分取り消シヲヒテ大河内総長ノ辞任ヲ了承】

11/05

【加藤一郎教授，総長事務取扱（代行）ニ就任】

—

道路：郷台林道改修 全長7,305m 幅4.0m

【試験／研究（試験地設定，研究開始ナテ）】

「水平二列植エ」仁ノ沢40C<sub>7</sub>（深植エ浅植エ比較）；郷台小屋ノ沢8C<sub>4-3,4</sub>,C<sub>5</sub>，大見山42C<sub>3-2,3</sub>（スキ各品種）

「育種検定林」前沢28C<sub>2-2</sub>，四方木沢31C<sub>1</sub>（交配種）；向山6C<sub>1-2,3</sub>（サシ）

「ヤナヒスキ，ヨシノスキ造林」鍛冶坂47C<sub>12</sub>

「スキ，クスノキ列状混交」土沢12C<sub>8,9</sub>

「下刈り功程調査」各所

【来演】

【見学／実習】03/29-04/01 弘前大・教育・生物（石川茂雄教授ナカ1，植物採集）2+5；04/13-19 宇大・農・林（近藤正巳教授，林業経営計画）1+35；05/25-27 本学・理・地質（飯島 東講師ナカ3，地質図学）4+16；07/11-12 千葉大・園芸・造園植栽（飯島ナカ3，造園植物採集）4+35；07/03-09 東教育大・農・林2年（堀田，今野，測樹）2+21；07/15-19 都立大・理・生物（北沢右三助教授ナカ2，生態，植物群落ト土壤動物群集ノ測定）3+12；07/30 福井県立福井農林高；8/20 鹿沼農商高 2+40；08/22-25 学芸大・生物2年（川崎ナカ1，植物系統学，生態学）2+40；08/29-30 本学・農・農生・園二（本間 啓助教授ナカ1，樹木採集）2+10；09/03-06 早大・教育・生物1年（大島康行教授ナカ5，野外実習）6+37；09/16-18 東教育大・農・林（倉田，荒木，樹木）2+22；10/14-21 東教育大・農・林3年（篠崎，今野，森林経理）2+22；11/09-11/10 お茶の水女子大（植物）2+23

【視察／研修】表25参照

【調査／研究】06/08-09 本学・工・航空 林 毅ナカ，教官5，学生11（立木ノ構造調査）

【その他】06/02 安房生物愛好会（イヅハノ属採集）10；07/20-24（自炊，清澄）安房高生物部（生物調査）2+40；07/27-28 松丘中3年（温暖林ノ観察）3+24；07/30-31（郷台）坂畑小全職員；08/01-08（キャンプ，白岩）天津小湊町青少年健全育成協議会（演習林内ハイキング，天津，小湊両中学校2年，40名スツ単位）；08/06-10（札郷）長狭高生物クラブ 1+32；08/07-10 応微研（柳田友道教授ナカ1，ゼミナル）2+9；08/10-11 本学・教養学部職員 15；08/18-19（札郷）亀山中2年 2+32

【講師派遣】

渡辺林長（育林：全国各地ナテ講演指導）



【年】月／日	項目：内容	【演全体，他演】	【学内】	【学外一般】
【研究材料】				
【提供】01 ヒハ <sup>*</sup> 葉 6 kg → 本学・農・林産・材二				
-----				
【1969／S44】				
01/18-19	【警察力ニヨル 安田講堂占拠学生ノ 排除】			
02	電話：自動化 <sup>テ</sup> 番号変更，天津事務所 04704-4-0621,0622，林長官舎 0059,清澄作業所 0585			
03/31	千演林長交替：渡辺資仲教授（定年退官）→以後林長空席ガ <sup>*</sup> 1981 年7 月マ <sup>*</sup> 続 <sup>ク</sup> 丹下 勲助手，千演林長事務取扱			
04/01	【林長交替：平井信二教授（再任）】			
04	観測協力：県開発局依頼ノ 札郷雨量観測ノ 継続ヲ 了承 CS44/04/01			
05/10	【大学紛争ノタメ 予算配布ガ <sup>*</sup> 遅延】			
07	観測協力：札郷作業所構内地下50 mニ 地震計設置（地震研）CS44/07/15			
08/04-07, 19-20	地元：天津，小湊両中学校生徒ノ 演習林内ハイキング <sup>*</sup> （天津小湊町青少年健全育成協議会主催）CS44/07/24			
10	その他：千葉県林業普及指導事業 20 周年記念式典 <sup>*</sup> 推進協力功労者ノ 感謝状受領 CS44/10/06			
11	土地：清澄ハス道路敷地ト 清澄作業所隣接町有地ヲ 交換 CS44/11/25			
12/17	【文部省『大学紛争白書』発表】			
【試験／研究（試験地設定，研究開始ト <sup>*</sup> ）】				
【林地肥培】 菖蒲沢36C <sub>15</sub>				
【育種検定林】 スキ <sup>*</sup> 交配種：郷田倉25C <sub>6</sub> ，瀬場沢31C <sub>5</sub> ，梨ノ木台43C <sub>19</sub> ；				
マツ交配種：真根沢36C <sub>5</sub>				
【千演植生リストノ作成】				
【保護樹ノ 総点検調査（2 回目）】				
【来演】				
【見学／実習】 07/21-24 早大・教育・生物1 年（大島 勲 <sup>2</sup> ，野外実習）3+48；08/25-26 鹿沼農商高 2+44；10/20-27 教育大・農・林3 年（篠崎，今野，森林經理）2+20；10/29-30,30-31 君津農林高・林2 年 1+44,1+47；12/22-23 千葉大・園芸・造園植栽研 25				
【視察／研修】 02/21-22 千葉県林業改良指導員研修会；02/21 山梨県鯉沢林務事務所 14；02/26-27 長野県林業教室39；02/28 山梨県塩山林務事務所；07/22-25 千葉県林業教室 3+30；07/28-08/05 農林省林業講習所専攻科 20；08/29-30 宮城県丸森町林業教室修了生 13；09/18 福島県岩瀬郡天栄村湯本財産区 12；09/25-26 林業協 8；10/13 千葉県香取郡市森森林組合多古支部 40；10/16-18 埼玉県林業教室 10；11/05-07 山形県林業教室 43；11/20 鹿沼市林業研究協議会 35；11/27-29 岩手県林業教室 50；12/03-06 福島県林業教室 2+50；12/08-12 農林省林業講習所 2+14；12/25-26 長野県林業教室 40				
【その他】 04/08-10 宇大学友会生物研究会（森谷 憲助教授）25；05- 長狭高生物 クラブ <sup>*</sup> （各季節植物採集）；06/10-11 林試コンホ <sup>*</sup> 計画研修生 4+7；08/01-04（札郷）長狭高生物 クラブ <sup>*</sup> （合宿）2+45；08/04-07,19-20（キャンプ <sup>*</sup> ，白岩）天津小湊町青少年健全育成協議会（演習林内 ハイキング <sup>*</sup> ，天津，小湊両中学校2 年 20+220 名，40 名 ス <sup>*</sup> ツ 単位）；08/16-21（自炊，清澄）安房高生物部 2+35；09/06-07 本学軟式庭球部OB 15；11/22 千葉県高等学校体育連盟（競技ノタメ 演習林林道ヲ 通過）470；12/?（札郷）農工大・農・林・造林（川名 勲 <sup>2</sup> ）3+9				
【研究材料】				
【提供】10 カウコキ <sup>*</sup> → 国立衛生試・春日部薬用植物栽培試験場				
-----				
【1970／S45】				
01/01	千演林長事務取扱交替：丹下 勲助手（→農工大農助教授）→ 糟谷由助技官			
02	境界査定：今澄，鹿島付近（天津小湊町ト <sup>*</sup> ）CS45/02/10			
03/14-09/13	【万国博覧会（大阪）】			



【年】月／日	項目：内容	【演全体、他演】	【学内】	【学外一般】
04	地元：可搬式消防ポンプ 積載自動車購入費 / 分担割当 (清澄区 かな)	CS45/04/10		
06/23	《日米安全保障条約自動延長》			
07/01	気象害：大雨 (南関東 / 大雨；低気圧，前線)，全域；林地●，林道●			
07	境界査定：四方木，古川方面	CS45/07/15		
09/19	地元：可搬式消防ポンプ 積載自動車購入費 / 分担割当 (四方木区 かな)	CS45/09/19		
09/29	地元：上総町 かな 君津町 / 一部ニナル (1971年，君津町ハ君津市トナル)			
10	給与：遠隔地申請 (清澄，札郷，郷台 / 各作業所)	CS45/10/09		
『試験／研究』				
「育種検定林」マ7交配種：真根沢36C <sub>15,16</sub>				
「ヤナヒスキ造林」東漢沢44C <sub>3-1</sub>				
「除草剤」大見山42C <sub>3-1</sub> ，梨ノ木台43C <sub>14</sub>				
「払い下け」林分 / 成長経過調査」前沢28C <sub>2</sub> ，仁ノ沢39C <sub>2</sub>				
「人工造林地 / 群落生態学的研究」				
『来演』				
[見学／実習] 02/13-19 東教育大・農・林2年 (堀田，今野，測樹) 2+20; 08/10-12 鹿沼農商高・林2年 2+39; 08/20-23 千葉大・理・生物 (沼田 真教授，生嶋 功助教授，大賀宣彦助手，群落生態学) 3+15; 09? 東教育大・農・林3年 (篠崎，今野，森林経理) 2+23; 10/06-07,07-08 君津農林高・林2年 2+44,2+42; 11/02-03 静岡大・理・地質 (地質調査) 2+7				
[視察／研修] 02/25-26 長野県林業教室 40; 03/02 岩手県葛巻町財産区管理会 12; 03/04 栃木県鹿沼林業事務所 10; 03/17-18 福島県郡山林業事務所 3; 05/15 林業専門技術員 (造林) 50; 05/25-27 森林開発公団東京支所 (造林担当職員); 09/18-19 大阪府森林組合連合会 14; 10/15-17 埼玉県林業教室 1+6; 11/18-20 岩手県林業教室， 11/20 茨城県美和村林業研究会 14; 12/09-12 福島県林業教室 3+51				
[調査／研究] 06- 京大・霊長類研究所 (ル調査); 12/06-11 農工大・農・波丘地農研 丹下 勲 (中原，スキ，ヒスキ 粗密植栽試験地)				
[その他] 04/01-04 宇大友会生物研究会 (森谷 憲助教授) 28; 04-05 長狭高生物クラブ (動植物採集); 06/13-14 治水工業株式会社 9; 07/20-24 (自炊，清澄) 安房高生物部 (生態調査) 2+41; 08/12-14 (キャンプ，今澄) 長狭高生物クラブ (モリヲカ*エル，チヨウ，コケ) 18				
『研究材料』				
[提供] 07シ*類 → 南房ハ*ラ*イ (来演採取)				